

梶山女学園大学

人間関係学部

履修の手引

2023

卒業まで
使用します

— 椋山女学園大学憲章 —

地域に根ざした伝統ある女子教育で
豊かな知性と情操を育み
凜として輝く人となる

椋山女学園大学は、1905年に創始された学園の伝統と教育理念「人間になろう」の下、女子教育の先駆者として、多彩な人材を育成してきました。わたしたちの教育は、ここで学ぶ女性が時代の変化とともに自身の役割を見据え、創造し獲得した知を活かし、人を大切に、人と支えあい、自らががんばれる人となることをめざします。本学は、このような女子教育を使命とし、ここに大学憲章を宣言します。

○わたしたちの教育

1. 明るくのびやかな人間的魅力に溢れる女性を育成します
2. 実学と教養を身につけ、豊かな人間関係の中で自立し、人々と協同する力を育みます
3. 一人ひとりを大切にしたい教育を実践するための体制や環境を整備します

○わたしたちの研究

1. 学生の興味と関心を育む魅力ある教育につながる研究に努めます
2. 最新の理論や技術を求め、それを活かした研究を推進し、身近な生活課題にも応えます
3. 学術研究の倫理を遵守し、高い誇りをもって研究を遂行します

○わたしたちの社会貢献

1. すぐれた卒業生を輩出し、地元の発展や持続可能な社会の形成に寄与します
2. 教育研究活動の成果を通して、社会的課題の解決に貢献します
3. 学びの門戸を卒業生や社会人にも拓げます

平成28年9月30日制定

学生支援に関する方針

教育理念「人間になろう」の下、椋山女学園大学憲章の「わたしたちの教育」を実現するため、修学支援、生活支援及び進路支援に関する方針を定め、その方針に沿って学生支援を行っていきます。

修学支援方針

- ・学生の豊かな人間性を育成できるよう支援します。
- ・学生の学修に係る支援、相談体制を整備し、教職員が一体となって支援します。
- ・学生の修学環境を整備します。
- ・学生の各種免許・資格課程取得の支援を行います。

目 次

第1部 履修要項

1. 授業	1-2
2. 単位	1-5
3. 履修登録	1-7
4. 試験及び成績評価	1-11
5. GPA 制度	1-16
6. 教養教育科目の履修	1-18
7. 他学部・他学科開放科目の履修	1-21
8. 他大学科目の履修(愛知学長懇話会単位互換事業)	1-22
9. 研究倫理	1-24

第2部 履修ガイド

1. 教育理念と教育目的	2-2
2. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	2-4
3. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)	2-5
4. 育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング	2-7
5. カリキュラムの構成と趣旨	2-19
6. モジュールと履修証明	2-28
7. 履修計画	2-42
8. 授業科目学年配当表	2-45
人間関係学科	2-45
心理学科	2-49
9. 取得できる免許・資格	2-53
10. 教職課程	2-58
11. 学芸員	2-71
12. 社会福祉士(受験資格)	2-73
13. 公認心理師(受験資格)	2-76
14. 社会調査士	2-78
15. 司書	2-80
16. 司書教諭	2-82
17. 国際交流科目	2-84

教員組織(紹介)

専任教員	2-88
兼任教員	2-91
非常勤講師	2-92

第1部

履修要項

1. 授業時間

学期は前期・後期の2期とし、各期は15週とします。各週は月曜日から土曜日までを授業日とし、授業時間は次のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 } 10:40	10:50 } 12:20	13:20 } 14:50	15:00 } 16:30	16:40 } 18:10

2. 授業の出欠席

1) 授業は原則としてすべて出席することが求められます。欠席が授業回数の3分の1以上のときは、その授業科目の単位が与えられません。

また、本学では「公欠制度」はありません。欠席の扱いは各教科の担当教員に一任されているので、欠席理由のある場合は、直接担当教員に申し出てください。ただし、数週間にわたる入院など、教員と連絡を取ることが不可能な場合は、教務課(係)がこれに代わることがあるため、早期の連絡を心がけるようにしてください。

2) 授業の出欠確認は、①氏名点呼による確認、②受講票・出席カード等の提出による確認、③指定座席表の着席による確認、④小テストやレポート等課題物の提出による確認等、各教科の担当教員の判断により行います。

出欠確認の不正が確認できたときは、依頼者、実行者とも、厳正に対処します。

3. 授業の種類

1) 必修科目と選択科目

必修科目 卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目

選択必修科目 複数科目の中から所定の単位を修得しなければならない科目

選択科目 適宜自由に選択して単位を修得する科目

2) 授業の形態

半期授業 前期又は後期に開講され、半期で受講が完了する授業

通年授業 1年を通じて開講される授業

隔週授業 1週間おきに開講される授業

隔年授業 1年おきに開講される授業

集中授業 半期又は通年で開講される科目であるが、一定期間にまとめて開講される授業

4. 休 講

学内行事や教員の公務、学会参加、病気等により、授業が休講となる場合、担当教員からの連絡があり次第、S*map 授業情報又は掲示にて通知します。

休講の通知がなく、始業時間から30分以上経過しても担当教員の教室への出講がない場合には、教務課(係)の指示に従ってください。

補講を行う場合は、別途通知します。

災害など緊急時における授業及び試験等の休講措置

台 風		
愛知県尾張東部地域又は、同地域内のいずれかの市町村において暴風警報が発令された場合	午前7時前（7時を含まない）に解除された場合	通常どおり
	午前7時現在で発令されている場合	1・2 限休講
	午前11時現在で発令されている場合	すべて休講
在校中、上記地域に暴風警報が発令された場合	授業や試験又は大学行事は、大学の指示により、休講又は中止となります。	

■注意事項

1. 暴風警報が通学範囲内に発令されている場合、学生は登校を控えてください。
2. 暴風警報以外の警報発令時において交通機関が運休した場合、又は身体の危険を感じた場合も、学生は無理な登校をしないでください。
3. 以上の場合には後日、遅滞なく担当教員に申し出てください。

- 尾張東部地域：名古屋市、瀬戸市、春日井市、犬山市、小牧市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町



地震

南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発令された場合			災害対策本部からの指示があるまで待機してください。 授業や試験又は大学行事がある場合は指示があるまで中断となります。
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒／巨大地震注意）が発令された場合	在校中の場合	授業や試験又は大学行事は直ちに打ち切られます。 避難については教職員の指示に従ってください。	授業再開など、その後の対応はホームページ、S*map、災害伝言ダイヤルなどで案内します。
	在校中でない場合	授業や試験又は大学行事を中止あるいは延期します。 登下校中の場合は直ちに帰宅してください。ただし、状況に応じて大学又は最寄りの避難場所に避難してください。	

交通機関のストライキ

名鉄（電車・バス）、名古屋市営交通（地下鉄・バス）のいずれかが、ストライキを実施した場合	午前7時前（7時を含まない）に解除された場合	通常どおり
	午前7時現在でストライキが継続している場合	1・2限休講
	午前11時現在でストライキが継続している場合	すべて休講

交通機関の運休等の場合

何らかの事情により交通機関が運休となる場合	授業や試験又は大学行事は、大学の指示により、休講又は中止とする場合があります。
-----------------------	---

※授業や試験又は大学行事中に休講又は中止となった場合は、各授業担当者又は大学行事の担当教員に出席を報告した後に帰宅してください。

1. 単位制

大学における教育課程は、単位制を採用しています。

単位制とは、各科目について一定の基準で定められている単位を修得する制度のことです。単位は、授業科目を履修し、筆記試験やレポートその他の方法で試験に合格することにより与えられます。

2. 単位数

1) 単位の計算は以下のとおりです。

科目の種類	単位計算基準	単位数	
		半期	通年
講義	毎週2時間（時間割における1コマ）の授業×15週 （通年で完了する科目は30週）	2	4
外国語		1	2
演習		1又は2	2又は4
実験・実習	毎週3時間（時間割における1.5コマ）の授業×15週 （通年で完了する科目は30週）	1	2

※一部上記と異なる計算をする科目もあります。単位の詳細は学則をご覧ください。

2) 1年間の授業は前期・後期の2期にわかれ、各期15週で完了します。各授業科目の所定の単位は、前期（15週）又は後期（15週）で与えられます。

ただし、通年（2期）で完了する授業科目の単位は、その年度末に与えられます。

3) 各授業科目の単位数は、学則第21条に規定するように、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とし、次の基準により計算します。つまり、授業の時間とは別に、授業時間外の自学自修が前提とされていますので、単位修得のためにはしっかり学修に励んでください。

授業形態	単位数	必要な学修時間の計	授業時間数	授業時間外学修（事前・事後学修等）
講義	2単位	90時間	週2時間×15週=30時間	90-30=60時間
演習	1単位	45時間	週2時間×15週=30時間	45-30=15時間
	2単位	90時間	週2時間×15週=30時間	90-30=60時間
実験・実習・実技等	1単位	45時間	週3時間×15週=45時間	（教員の設定する時間）
実習*	1単位	45時間	30時間	45-30=15時間
体育実技	1単位	45時間	週2時間×15週=30時間	45-30=15時間

※*印の実習=教育実習、学校体験活動、心理実習、ソーシャルワーク実習、保育実習、ふれあい実習、福祉ボランティア

※卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切であると認められる場合は、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めます。

4) 大学の行事又は担当教員の都合により、授業が休講となった場合には、原則として補講を行います。

3. 単位の認定

履修した科目の単位認定は、原則として、前期末・後期末に行われる試験に平素の学修状況を加味して行います。

試験は、その学期又は学年中に履修した授業科目について、筆記、口述、実技、論文提出等により行いますが、平常の成績をもって試験に代えることもあります。

また、単位の認定に際し、出席回数が不足していたり、あるいは途中で受講を放棄したような場合は、その科目は「失格」となり、単位の認定はされません。

4. 卒業に必要な 単位数

卒業資格を得るためには、4年以上在学し、所定の単位を修得する必要があります。

5. 学 位

4年以上在学し、所定の単位を修得した者に対して卒業証書を授与し、次の学位を授与します。

学 部	学 科	学位名称
生活科学部	管理栄養学科 生活環境デザイン学科	学士（生活科学）
国際コミュニケーション学部	国際言語コミュニケーション学科 表現文化学科	学士（国際コミュニケーション学）
人間関係学部	人間関係学科 心理学科	学士（人間関係学）
文化情報学部	文化情報学科	学士（文化情報学）
	メディア情報学科	学士（メディア情報学）
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	学士（マネジメント）
教育学部	子ども発達学科	学士（教育学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）

1. 履修登録

履修登録とは、みなさんが授業を受けて単位を修得するために、所属する学部で定められたカリキュラムと時間割及びシラバス（授業内容一覧）に基づき、その年度の履修計画を立て、履修する科目を登録する手続きのことです。登録は、年度始めの所定期間内に終了しなければなりません。この登録を怠ると、授業科目の履修はできず、単位も認定されません。

なお、履修登録前に仮登録を必要とする科目があります。詳しくは教務関係ガイダンスで説明します。

- 1) 新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンスに必ず出席し、説明を受けなくてはなりません。
- 2) 各学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー及びカリキュラム・マップ）に従って履修計画をたててください。
- 3) 履修科目選択の参考となるように科目ナンバリングを実施しています。科目ナンバリングについては、「第2部 履修ガイド 育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング」を確認してください。
- 4) 単位が認定されるのは、履修登録した科目のみとなります。
- 5) 履修登録は、所定の期間内に限り、変更・追加・削除することができます。
- 6) 一度単位を修得した科目を、再び履修登録することはできません。

2. 年次配当

授業科目には、配当年次が指定されており、その年次に履修しなければなりません。ただし、やむを得ずその年次に履修することができなかつた場合は、指定されている年次が在学年次よりも下のものであれば、履修することができます。

なお、授業科目は、それぞれの学年の前期・後期又は通年にわたって開講されますので、履修計画をたてる際には注意してください。

3. 履修登録制限

- 履修規制単位数（その年度に履修できる単位数）を超えて履修登録はできません。
- 履修規制単位数には、卒業要件に関わらない「資格取得に関する科目」の単位数は含みません。また、「海外言語文化演習」など留学を伴う演習科目、インターンシップに関する科目、愛知学長懇話会単位互換事業として履修する科目についても含みません。（詳細は、教務課（係）に確認してください。）
- 前期に不合格又は失格となった科目の単位数も「履修規制単位数」に含まれます。したがって、後期にその分の履修科目を履修規制単位数を超えて追加することはできません。

4. 履修登録の時期

その年度に履修をする科目の履修登録は、「通年科目（1年間を通じて開講される授業）」「前期科目（前期に開講される授業）」「後期科目（後期に開講される授業）」のすべてを3月から4月の履修登録期間内に行います。

なお、後期授業開始前後に後期科目のみ追加登録、登録削除を行うことができます。

●履修規制単位数一覧（2023年度入学生）

学 科	1年次	2年次	3年次	4年次
管理栄養学科	49単位	49単位	49単位	49単位
生活環境デザイン学科	49単位	49単位	49単位	49単位
国際言語コミュニケーション学科	49単位	49単位	49単位	49単位
表現文化学科	49単位	49単位	49単位	49単位
人間関係学科	48単位	48単位	48単位	48単位
心理学科	48単位	48単位	48単位	48単位
文化情報学科	48単位	48単位	48単位	48単位
メディア情報学科	44単位	44単位	44単位	44単位
現代マネジメント学科	44単位	44単位	44単位	44単位
子ども発達学科	49単位	49単位	49単位	49単位
看護学科	49単位	48単位	48単位	48単位

正当な理由がなく、無断で履修登録の手続を怠った学生については、一切登録を受け付けません。

したがって、この場合は、その年次の履修ができず、単位も修得できません。

履修登録の流れ

新入生オリエンテーション・在学生ガイダンス

- 履修登録の説明を行います。

履修計画をたてる

- 「成績表（1年次はありません）」「時間割表」「Student Handbook」「履修の手引」「シラバス（授業内容一覧）」を参照し、1年間の履修計画をたてます。
- 履修登録期間は、受講科目を検討する期間でもあります。授業には初回から必ず出席してください。クラス分けを行う場合もあります。

「履修登録控」の作成

- 履修計画を立案し、「履修登録控」に記入してください。

S*mapから履修登録を行う

別冊の操作マニュアル(1年次に配付)を参照

- 完成した「履修登録控」をもとにS*mapから履修登録を行ってください。登録はパソコン・タブレット・スマートフォンを使用してください。
(注)S*mapのスマートフォンアプリからは履修登録できません。
- 登録後「履修登録確認票」を印刷又はPDF保存し、「履修登録控」と照合してください。

教員へ「受講票」の提出

- 「受講票」は、履修するすべての科目について作成し、履修科目の最初の授業（前期及び後期）で直接担当教員に提出してください。

履修登録科目の確定

- 「履修登録確認票」を再度印刷又はPDF保存し、記載内容を確認した上で履修登録の最終的な控えとして保管してください。
- 「履修登録確認票」は、履修登録の根拠資料となります。これをもとに受講者名簿が作成され、単位及び評価の認定が行われます。
- 訂正の有無にかかわらず、履修登録が確定した科目・単位数を確認してください。

履修登録控

学 年	学 期	履 修 課 目	単 位	履 修 状 況	備 考
1	前期	英語 I	5		
1	前期	数学 I	5		
1	前期	情報 I	5		
1	前期	体育 I	2		
1	前期	芸術 I	2		
1	前期	外国語 I	5		
1	前期	総合 I	5		
1	前期	保健 I	2		
1	前期	音楽 I	2		
1	前期	美術 I	2		
1	前期	社会 I	5		
1	前期	自然 I	5		
1	前期	英語 II	5		
1	前期	数学 II	5		
1	前期	情報 II	5		
1	前期	体育 II	2		
1	前期	芸術 II	2		
1	前期	外国語 II	5		
1	前期	総合 II	5		
1	前期	保健 II	2		
1	前期	音楽 II	2		
1	前期	美術 II	2		
1	前期	社会 II	5		
1	前期	自然 II	5		
1	前期	英語 III	5		
1	前期	数学 III	5		
1	前期	情報 III	5		
1	前期	体育 III	2		
1	前期	芸術 III	2		
1	前期	外国語 III	5		
1	前期	総合 III	5		
1	前期	保健 III	2		
1	前期	音楽 III	2		
1	前期	美術 III	2		
1	前期	社会 III	5		
1	前期	自然 III	5		
1	前期	英語 IV	5		
1	前期	数学 IV	5		
1	前期	情報 IV	5		
1	前期	体育 IV	2		
1	前期	芸術 IV	2		
1	前期	外国語 IV	5		
1	前期	総合 IV	5		
1	前期	保健 IV	2		
1	前期	音楽 IV	2		
1	前期	美術 IV	2		
1	前期	社会 IV	5		
1	前期	自然 IV	5		
1	前期	英語 V	5		
1	前期	数学 V	5		
1	前期	情報 V	5		
1	前期	体育 V	2		
1	前期	芸術 V	2		
1	前期	外国語 V	5		
1	前期	総合 V	5		
1	前期	保健 V	2		
1	前期	音楽 V	2		
1	前期	美術 V	2		
1	前期	社会 V	5		
1	前期	自然 V	5		
1	前期	英語 VI	5		
1	前期	数学 VI	5		
1	前期	情報 VI	5		
1	前期	体育 VI	2		
1	前期	芸術 VI	2		
1	前期	外国語 VI	5		
1	前期	総合 VI	5		
1	前期	保健 VI	2		
1	前期	音楽 VI	2		
1	前期	美術 VI	2		
1	前期	社会 VI	5		
1	前期	自然 VI	5		
1	前期	英語 VII	5		
1	前期	数学 VII	5		
1	前期	情報 VII	5		
1	前期	体育 VII	2		
1	前期	芸術 VII	2		
1	前期	外国語 VII	5		
1	前期	総合 VII	5		
1	前期	保健 VII	2		
1	前期	音楽 VII	2		
1	前期	美術 VII	2		
1	前期	社会 VII	5		
1	前期	自然 VII	5		
1	前期	英語 VIII	5		
1	前期	数学 VIII	5		
1	前期	情報 VIII	5		
1	前期	体育 VIII	2		
1	前期	芸術 VIII	2		
1	前期	外国語 VIII	5		
1	前期	総合 VIII	5		
1	前期	保健 VIII	2		
1	前期	音楽 VIII	2		
1	前期	美術 VIII	2		
1	前期	社会 VIII	5		
1	前期	自然 VIII	5		
1	前期	英語 IX	5		
1	前期	数学 IX	5		
1	前期	情報 IX	5		
1	前期	体育 IX	2		
1	前期	芸術 IX	2		
1	前期	外国語 IX	5		
1	前期	総合 IX	5		
1	前期	保健 IX	2		
1	前期	音楽 IX	2		
1	前期	美術 IX	2		
1	前期	社会 IX	5		
1	前期	自然 IX	5		
1	前期	英語 X	5		
1	前期	数学 X	5		
1	前期	情報 X	5		
1	前期	体育 X	2		
1	前期	芸術 X	2		
1	前期	外国語 X	5		
1	前期	総合 X	5		
1	前期	保健 X	2		
1	前期	音楽 X	2		
1	前期	美術 X	2		
1	前期	社会 X	5		
1	前期	自然 X	5		
1	前期	英語 XI	5		
1	前期	数学 XI	5		
1	前期	情報 XI	5		
1	前期	体育 XI	2		
1	前期	芸術 XI	2		
1	前期	外国語 XI	5		
1	前期	総合 XI	5		
1	前期	保健 XI	2		
1	前期	音楽 XI	2		
1	前期	美術 XI	2		
1	前期	社会 XI	5		
1	前期	自然 XI	5		
1	前期	英語 XII	5		
1	前期	数学 XII	5		
1	前期	情報 XII	5		
1	前期	体育 XII	2		
1	前期	芸術 XII	2		
1	前期	外国語 XII	5		
1	前期	総合 XII	5		
1	前期	保健 XII	2		
1	前期	音楽 XII	2		
1	前期	美術 XII	2		
1	前期	社会 XII	5		
1	前期	自然 XII	5		
1	前期	英語 XIII	5		
1	前期	数学 XIII	5		
1	前期	情報 XIII	5		
1	前期	体育 XIII	2		
1	前期	芸術 XIII	2		
1	前期	外国語 XIII	5		
1	前期	総合 XIII	5		
1	前期	保健 XIII	2		
1	前期	音楽 XIII	2		
1	前期	美術 XIII	2		
1	前期	社会 XIII	5		
1	前期	自然 XIII	5		
1	前期	英語 XIV	5		
1	前期	数学 XIV	5		
1	前期	情報 XIV	5		
1	前期	体育 XIV	2		
1	前期	芸術 XIV	2		
1	前期	外国語 XIV	5		
1	前期	総合 XIV	5		
1	前期	保健 XIV	2		
1	前期	音楽 XIV	2		
1	前期	美術 XIV	2		
1	前期	社会 XIV	5		
1	前期	自然 XIV	5		
1	前期	英語 XV	5		
1	前期	数学 XV	5		
1	前期	情報 XV	5		
1	前期	体育 XV	2		
1	前期	芸術 XV	2		
1	前期	外国語 XV	5		
1	前期	総合 XV	5		
1	前期	保健 XV	2		
1	前期	音楽 XV	2		
1	前期	美術 XV	2		
1	前期	社会 XV	5		
1	前期	自然 XV	5		
1	前期	英語 XVI	5		
1	前期	数学 XVI	5		
1	前期	情報 XVI	5		
1	前期	体育 XVI	2		
1	前期	芸術 XVI	2		
1	前期	外国語 XVI	5		
1	前期	総合 XVI	5		
1	前期	保健 XVI	2		
1	前期	音楽 XVI	2		
1	前期	美術 XVI	2		
1	前期	社会 XVI	5		
1	前期	自然 XVI	5		
1	前期	英語 XVII	5		
1	前期	数学 XVII	5		
1	前期	情報 XVII	5		
1	前期	体育 XVII	2		
1	前期	芸術 XVII	2		
1	前期	外国語 XVII	5		
1	前期	総合 XVII	5		
1	前期	保健 XVII	2		
1	前期	音楽 XVII	2		
1	前期	美術 XVII	2		
1	前期	社会 XVII	5		
1	前期	自然 XVII	5		
1	前期	英語 XVIII	5		
1	前期	数学 XVIII	5		
1	前期	情報 XVIII	5		
1	前期	体育 XVIII	2		
1	前期	芸術 XVIII	2		
1	前期	外国語 XVIII	5		
1	前期	総合 XVIII	5		
1	前期	保健 XVIII	2		
1	前期	音楽 XVIII	2		
1	前期	美術 XVIII	2		
1	前期	社会 XVIII	5		
1	前期	自然 XVIII	5		
1	前期	英語 XIX	5		
1	前期	数学 XIX	5		
1	前期	情報 XIX	5		
1	前期	体育 XIX	2		
1	前期	芸術 XIX	2		
1	前期	外国語 XIX	5		
1	前期	総合 XIX	5		
1	前期	保健 XIX	2		
1	前期	音楽 XIX	2		
1	前期	美術 XIX	2		
1	前期	社会 XIX	5		
1	前期	自然 XIX	5		
1	前期	英語 XX	5		
1	前期	数学 XX	5		
1	前期	情報 XX	5		
1	前期	体育 XX	2		
1	前期	芸術 XX	2		
1	前期	外国語 XX	5		
1	前期	総合 XX	5		
1	前期	保健 XX	2		
1	前期	音楽 XX	2		
1	前期	美術 XX	2		
1	前期	社会 XX	5		
1	前期	自然 XX	5		
1	前期	英語 XXI	5		
1	前期	数学 XXI	5		
1	前期	情報 XXI	5		
1	前期	体育 XXI	2		
1	前期	芸術 XXI	2		
1	前期	外国語 XXI	5		
1	前期	総合 XXI	5		
1	前期	保健 XXI	2		
1	前期	音楽 XXI	2		
1	前期	美術 XXI	2		
1	前期	社会 XXI	5		
1	前期	自然 XXI	5		
1	前期	英語 XXII	5		
1	前期	数学 XXII	5		
1	前期	情報 XXII	5		
1	前期	体育 XXII	2		
1	前期	芸術 XXII	2		
1	前期	外国語 XXII	5		
1	前期	総合 XXII	5		
1	前期	保健 XXII	2		
1	前期	音楽 XXII	2		
1	前期	美術 XXII	2		
1	前期	社会 XXII	5		
1	前期	自然 XXII	5		
1	前期	英語 XXIII	5		
1	前期	数学 XXIII	5		
1	前期	情報 XXIII	5		
1	前期	体育 XXIII	2		
1	前期	芸術 XXIII	2		
1	前期	外国語 XXIII	5		
1	前期	総合 XXIII	5		
1	前期	保健 XXIII	2		
1	前期	音楽 XXIII	2		
1	前期	美術 XXIII	2		
1	前期	社会 XXIII	5		
1	前期	自然 XXIII	5		
1	前期	英語 XXIV	5		
1	前期	数学 XXIV	5		
1	前期	情報 XXIV	5		
1	前期	体育 XXIV	2		
1	前期	芸術 XXIV	2		
1	前期	外国語 XXIV	5		
1	前期	総合 XXIV	5		
1	前期	保健 XXIV	2		
1	前期	音楽 XXIV	2		
1	前期	美術 XXIV	2		
1	前期	社会 XXIV	5		
1	前期	自然 XXIV	5		
1	前期	英語 XXV	5		
1	前期	数学 XXV	5		
1	前期	情報 XXV	5		
1	前期	体育 XXV	2		
1	前期	芸術 XXV	2		
1	前期	外国語 XXV	5		
1	前期	総合 XXV	5		
1	前期	保健 XXV	2		
1	前期	音楽 XXV	2		
1	前期	美術 XXV	2		
1	前期	社会 XXV	5		
1	前期	自然 XXV	5		
1	前期	英語 XXVI	5		
1	前期	数学 XXVI	5		
1	前期	情報 XXVI	5		
1	前期	体育 XXVI	2		
1	前期	芸術 XXVI	2		

シラバスの活用

シラバスとは、授業を担当する教員が、その授業科目の達成目標や概要、成績評価方法、授業計画について記載した文書です。みなさんが履修する科目を選択したり、学修計画を立てる拠り所となるものです。大学での学びを有意義にするためにシラバスに記載されている授業内容をよく理解し、各回の授業内容の確認や予習復習など事前準備をして授業に臨みましょう。

Syllabus Saitama University Syllabus System

シラバス内容

※「育成する能力」は、2016年度以降シラバスからの表示項目です。
 ※「履修へのフィードバック」は、2017年度以降シラバスからの表示項目です。

授業テーマ

授業の到達目標 / 育成する能力
 この授業を受けることのような能力が身につくか、何ができるようになるかが確認できます。専門教育科目では、「第2部 履修ガイド」のカリキュラム・マップに記載の育成する4つの能力を確認できます。

授業内容

何を学ぶかが説明されています。

評価方法と成績基準

試験や評価の方法、成績基準が示されています。

履修上の注意

この授業を受けるにあたっての事務連絡などが書かれています。

授業科目名 [Course]	食品学実験 I								
担当教員 [Lecturer]	飯田 敏子 / 長谷川 淑己								
授業科目区分 [Classification]	専門教育科目								
単位数 [Credits]	1単位								
授業区分 [Lecture Classification]	実験・実習								
開講学科 [Department]	管理								
学生 [Year]	1年生								
開講期 [Semester]	後期								
曜日・時間 [Day-Period]	後期 月曜日 3時限								
科目ナンバー [Number]	LN21-FH-021								
授業テーマ [Title]	食品分析に必要な基礎知識、分析機器の操作、試薬の調製法、実験の進捗の仕方を考え実践し、得た実験結果を解析・考察し、レポートを作成する。								
授業の到達目標 [Objectives]	前期「食品分析学」で修得した基礎知識をベースに、食品分析の手順と実験機器の操作技術を指導、指定濃度の試薬、試料調製や分析の原理を理解し、実験を通じ得られた結果を解析、実験ノートとして完成できる。								
育成する能力 [Usability to improve]	<table border="1"> <tr> <td>知識・理解 [factual knowledge and understanding]</td> <td>思考・判断 [thinking faculty and discernment]</td> <td>態度・志向性 [perspective and intentionality]</td> <td>技能 [skill and ability]</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	知識・理解 [factual knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能 [skill and ability]		○		
知識・理解 [factual knowledge and understanding]	思考・判断 [thinking faculty and discernment]	態度・志向性 [perspective and intentionality]	技能 [skill and ability]						
	○								
授業内容 [Course Contents]	必要な知識と技術の基礎を講義形式で復習後、各実験毎に解説とデモを行い、グループで例題の実験を実施する。目的、実験操作とレポートに記載し、考察を加える。他人が実験を再度できることを前提とした実験ノートを作成する手法を会得する。 1 実験授業の意義・概要・注意事項などを、食品分析学講義を振り返りながら解説する。(食品分析学授業を履修しておくこと) 2 実験に必要な基礎技術と知識を修得する。(ピペット操作、テータの扱いなど、積極的な実験と、授業後の確認に注意すること) 3 基礎技術として、ピペット、天秤操作の修得、ピペット・天秤などの扱いなど積極的な実験と、授業後の確認に注意すること 4 中和滴定実験を通じ、中和反応の理解、濃度分析学を復習し、酸・アルカリ濃度決定方法を理解しておくこと 5 食品中の糖の検出と定量測定のための中和滴定実験を履修し、デモ・アルカリ濃度決定方法を復習しておくこと 6 滴定に利用される反応の解説と、次期滴定実験とつながりながらの滴定実験の解説、(中和滴定・次期滴定の復習しておくこと) 7 色に関する課題と、比色分析の原理を講義し、デモ見学と分光光度計操作を修得する。(食品分析学で学んだ比色分析を復習しておくこと) 8 比色分析の原理を復習し、塩メタノール溶液の調製と測定を実施する。(学んだ、後量検出と中和滴定試料の定量手順を復習しておくこと) 9 清涼飲料水中の還元糖及びグルコース比色定量を復習し、比色分析の試料の扱いを学ぶ。(学んだ復習しておくこと) 10 実施した比色分析実験を振り返り、定量実験を復習し理解する。(関連した課題を解き、理解を確認しておくこと) 11 これまでの知識と技術により、シロップ質の比色定量実験を、事前デモ無しで各自で実施する。(実験を通じ、理解不足の箇所を確認し、必要に応じて事前デモ見学を通じ、理解の上でグループで実験を行う。全員が全ての操作に参加出来る内容を準備している。実験後は結果なども参考に考察を加える。 12 TLICによるアミノ酸の定性実験を通じ、未知試料のアミノ酸を決定する。(操作の復習に努めること) 13 TLICによるアミノ酸の定性実験を通じ、未知試料のアミノ酸を決定する。(操作の復習に努めること) 14 TLICによるアミノ酸の定性実験を通じ、未知試料のアミノ酸を決定する。(操作の復習に努めること) 15 実験授業のまとめを講義し、演習を通じ理解度を高める。(演習でできなかったところを復習しておくこと)								
授業の進め方 [Method]	毎回の授業開始時総合的に解説を行い、最後に総合評価と解説と今後必要なことを講義する。個々の実験に関しては、講義・実験の指導・注意など事前デモ見学を通じ、理解の上でグループで実験を行う。全員が全ての操作に参加出来る内容を準備している。実験後は結果なども参考に考察を加える。								
講師へのフィードバック [Instructor Feedback on Coursework]	実験ノートを作成し提出し、返却されたノートから実験の復習・改善点およびレポートの作成方法を学ぶ。								
評価方法と成績基準 [Evaluation & Grading Criteria]	授業姿勢と集中度(30%)、実験ノートの作成(70%)から総合評価する。								
授業時間外学修(事前・事後学修等) [Preparation/Review]	一回目の授業で配布する実験資料冊子をよく読み、毎回予習する。場合によっては、実験ノートに実験手法フローチャートを作成してから実験に臨む。実験終了後は、グループで行った実験の個人の結果、他グループの結果と比較考察し、原理・操作・結果に対し論理的に考察を加え、積極的に実験に参加し、内容を自分のものとする。								
担当教員メッセージ(受講学生に望むこと) [Message to Students]	毎回の実験課題を習得するためには、その実験の目的、方法、原理などについて事前に調べて授業に臨むことが重要である。知識、技能習得と安全のために必ず予習してから授業に臨むこと。								
履修上の注意 [Notes]	実験は、主にグループで行う。欠席は能力低下。また、実験操作に積極的に参加することが重要となる。化学実験を行う場合には、各種試薬の性質を知り、また、器具類の基本的な操作法を知ることが必要である。これを怠ると重大な事故につながる危険がある。								
キーワード [Keyword]	実験器具、実験機器、検査値、希釈倍率、実験ノート、食品化学、食品学、食品分析学、化学								
教科書 [Textbook]	青柳保夫 他著「トップクス実験シリーズ 食品学実験」建学社...前期「食品分析学」で使用する								
参考書 [Supplementary Materials]	事前配布の「食品学実験」資料、配布 冊 等 共 著 者 : イラスト等								
担当教員の業務経験と当該授業との関連 [Relationship between practical experience of the teacher and the class]									

基本情報
 授業科目名、担当教員、単位数、学年、開講曜日時限など。

授業計画
 各回の授業内容が書かれています。また、予習・復習についても示されている場合があります。

授業の進め方
 どのように授業を進めるかが書かれています。

授業時間外学修(事前・事後学修等)
 全体を通しての予習・復習や授業に臨むに当たっての心構えなどが書かれています。

キーワード

教科書：授業で使用するテキストです。
参考書：参考書は必要に応じて購入したり図書館で借りるようにしましょう。

1. 試験について

試験には定期試験、追試験、再試験があり、筆記試験・レポート提出・実技試験などの方法で行われます。試験の結果は、S*mapの「履修科目合否表」で確認することができます。必ず自分で確かめてください。(以下を参照)

《単位認定及び追試験・再試験に関する内規》

試験(筆記、レポート、提出物、実技、実験、実習等をいう。以下同じ。)

- 定期試験 → 授業が完結した学期の終わりに実施する試験で、単位認定・成績評価の基準とする。
- 追試験 → 定期試験を病気その他正当と認められる事由で欠席した者に対して行われる試験である。追試験を受けようとする者は、「追試験願」に診断書又は欠席事由を証明できるものを添えて、当該試験期間終了後5日以内(休日は含まない。)に教務課(係)に提出しなければならない。上記の手続後、教務委員会の許可を得て、追試験施行の掲示に従って受験することができる。追試験を欠席した者、追試験で不合格となった者には再試験は実施されない。

* 追試験の理由となる例とその提出書類

欠席事由	必要書類
病気又はけが ^{※1}	医師の診断書 ^{※2} 、入院証明書、その他各学部教務委員会が適当と認める書類
公共交通機関の遅延	駅等で発行する証明書(遅延証明書等)
不慮の事故(交通事故等)、災害(火災等)	警察署の事故証明書、被災証明書、その他事実を明らかにする書類等
2親等以内の親族の不幸 ※適用期間は死亡日又は葬儀の日から起算して次のとおりとする。 ・配偶者及び1親等 連続7日以内(休日を含む。) ・2親等 連続3日以内(休日を含む。)	通夜、会葬を証明できるもの又は死亡に関する公的証明書(会葬礼状等)
裁判員制度に係る事項	裁判所が発行する証明書
資格に係る実習等	各種委員会委員長又は学科主任が発行する証明書
公務員試験及び教員採用試験	受験証明書又は受験票(写し)
就職試験	受験を証明する書類 ^{※3}
教務委員会で許可された研修等	審議願、参加証明書等
本学が認定するインターンシップ	大学と実習先との覚書(写し)

※1 病気には、学校保健安全法施行規則に定める、第一種感染症患者が発生した家に居住する場合及び同感染症発生地域に居住地域的外出禁止となった場合を含む。

※2 診断書には、欠席をした日付・期間が明記してあること。

※3 郵送等による通知書面、メール案内文書、web予約画面、受験証明書等、欠席をした日付が明記してあること。

○再試験 → 成績評価判定が不合格（評価D）となった者に対して実施されることがある（再試験実施の有無は、別途通知）。再試験の結果は、C（合格）またはD（不合格）・欠（欠席）とする。

再試験を欠席した者、再試験で不合格となった者には再度の試験は実施されない。

再試験の受験には、再試験願を定期試験の合否発表開始日及びその翌日（休日を除く）に教務課（係）へ提出しなければならない。

2. 試験時間帯

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10	10:50	13:20	15:00	16:40
∫	∫	∫	∫	∫
10:40	12:20	14:50	16:30	18:10

3. 試験時間割

試験に関する時間割は、平常授業と曜日・時間帯・教室が異なることもありますので、特に注意が必要です。

- 1) 定期試験 試験期間の1週間前までに通知します。
- 2) 追試験 定期試験合否発表日に通知します。
- 3) 再試験 定期試験合否発表日に通知します。

4. 受験資格

次のいずれかに該当する者は、受験資格がありません。

- 1) 履修登録をしていない者
- 2) 学生証（仮学生証）を所持していない者
- 3) 受験する科目の授業を3分の1以上欠席している者
- 4) 休学中の者
- 5) 追試験において受験許可を得ていない者
- 6) 再試験において再試験手続を行っていない者
- 7) その他受験資格に欠格があると認められた者

5. 受験注意

受験に際しては、以下のことに注意し、試験室の掲示等指示に従ってください。

- 1) 試験開始後30分以上遅刻した場合は受験できません。
- 2) 試験開始後35分を経過するまでは退出できません。
- 3) 試験中は、学生証を監督者が確認しやすい位置に置いてください。
- 4) 試験中机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及び授業担当者が許可したものに限りです。
- 5) 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等、通信機能を持つ機器の使用は認められませんので、電源は切って、かばんの中に入れてください。
- 6) 試験中は監督者の指示に従ってください。

（注）以上の事項に関して監督者（代理も含む。）から別の指示があった場合は、その指示が優先されます。

6. レポート

科目によって、レポートの提出により成績評価を行う場合があります。

＜提出方法＞

- ・担当教員が提出方法、日時を指示し回収する場合はそれに従ってください。
- ・レポートの用紙、形式については指示に従ってください。
- ・レポートには必ず所定の表紙（S*map のキャビネットからダウンロードできます）をつけ、原則として左上1個所で綴じます。

7. 不正行為

定期試験、追試験又は再試験において不正行為等（以下のものをいう。）を行った場合は、「試験中の不正行為に関する懲戒規準」によって処分されます。（諸規程を参照）

【筆記試験の場合】

- 1) 当該試験科目に関係するカンニング用の紙片、授業に関連した情報が入力されている情報機器等の不正行為に使用できる物を使用可能な状態で所持する行為
- 2) 隠し持ったカンニング用の紙片若しくは他人の答案を見て、又は情報機器等を使用して解答する行為
- 3) 他人に代わり受験し、又はこれを依頼する行為
- 4) 試験監督の指示に従わない行為
- 5) その他試験に関し不正行為と見なし得る行為

【レポート、作品等の場合】

- 1) 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用する剽窃行為
- 2) 他人が作成したレポート等を、自己の名前又は前後関係や語句等を書き換えて提出する行為
- 3) レポート等の作成を代行する企業又は個人等の他者に作成を請け負わせ、納品物を自己が作成したものとして提出する行為
- 4) データの捏造、改ざん等を行う行為
- 5) その他公正な成績評価を妨げると認められる行為

試験において不正行為を行い、訓告、停学又は退学の懲戒を受けた者は、その試験期間内に実施した全科目（訓告の場合は当該科目のみ）の成績が「失格」評価となり、追試験、再試験を受験することもできません。また、懲戒処分の対象とならない場合においても、授業担当教員により成績評価に反映されます（減点又は「失格」評価として取り扱う）。

授業中・試験期間外に実施される（小）筆記試験や（小）レポートに不正行為があった場合においても授業担当教員により成績評価に反映されます（減点又は「失格」評価として取り扱う）。

8. 成績評価基準

成績評価基準は、次のとおりとします。

判定	評語	評価の基準	
合格	S又は㉔	100点～90点	当該事項の到達目標の内容をほぼ完全に理解し、説明できるものと認められる。
	A又は㉕	89点～80点	当該事項の到達目標の内容を十分に理解し、説明できるものと認められる。
	B又は㉖	79点～70点	当該事項の到達目標の基幹部分は理解し、説明できるものと認められる。
	C又は㉗	69点～60点	当該事項の到達目標のうち、最低限の部分は理解し、説明できるものと認められる。
不合格	D	59点以下	当該事項の到達目標に及ばない。
失格	失	授業を3分の1以上欠席している場合	
		授業又は試験において不正行為があった場合	
欠席	欠	試験の受験資格を有するが、受験しなかった場合	
認定	N又は㉘	他大学で修得した単位及び資格の取得等により本学の成績基準で読み替えができない場合の単位認定科目	

(注) 丸つき評語は、外国の大学において修得した授業科目の評価を本学の授業科目を単位修得したものとみなして単位認定する場合に使用する。

9. 成績評価に関する調査

試験の成績評価又は不合格に対して疑問がある場合は、指定期間内に教務課（係）に疑問調査を願い出ることができます。

追試験・再試験手続

追試験

再試験

定期試験実施

正当な事由で欠席

- 履修登録科目でかつ受験資格のある科目に限ります。

追試験願の提出

- 試験期間終了後5日以内に教務課(係)にて「追試験願」に記入し、診断書又は欠席事由の証明できる書類を提出。
- 電話での受付は行いません。
- 学生証持参のこと。

追試験願(学生控兼受験票)の受領

- 追試験願(学生控兼受験票)が受験票になりますので紛失しないように、各自で大切に保管してください。再発行は行いません。
- 試験当日追試験願(学生控兼受験票)を提示すること。

合否発表・試験時間割発表

- 成績が「欠」になっているか、教室・日程・課題の配付等ないか確認してください。

追・再試験受験

追・再試験合否発表

- ・追・再試験の合否発表は別途お知らせします。
- ・受験に関しては、定期試験の受験注意に従ってください。

合否発表

- S*mapにて確認。電話での問合せには応じません。

不合格(D評価)がある

再試験日程の発表

- 再試験時間割に記載されている科目のみ再試験が行われます。定期試験合否発表日にお知らせします。

再試験願の提出

- 「再試験願」を教務課(係)窓口で受け取り必要事項を記入し、再試験料を証明書自動発行機で納入のうえ提出。学生証持参のこと。
- 申込みは合否発表開始日及びその翌日とする(休日は除く)。
- 希望者は筆記試験・レポート(課題提出)とともに手続を行うこと。

再試験願(学生控兼受験票)の受領

- 再試験願(学生控兼受験票)は紛失しないように、各自で大切に保管してください。再発行は行いません。
- 試験当日再試験願(学生控兼受験票)を提示すること。

1. GPA制度とは

学修成果については、本学の定める成績評価基準に基づいて厳正な評価が行われています。科目の履修にあたっては、単位の修得のみならず、優れた成績を達成するよう努めなければなりません。皆さんが主体的に学修し、自らの学業成績を的確に把握して、適切な履修計画と学修への取り組みに役立つように、GPA制度を導入しています。

GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、履修登録科目の成績平均値を意味します。GPAは学修の質を評価する国際標準となっており、合格した科目だけでなく、不合格科目や履修放棄した科目もGPAの算出対象となります。

本学ではGPA制度を主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 学生自身による成績の認識、ならびに勉学に奮起するための動機付け
- 2) 履修科目の安易な届出と、途中放棄の防止
- 3) 奨学金授与等における判定
- 4) 進学及び就職活動等における推薦者の選抜基準

2. GPA導入の
意義

成績評価（S・A・B・C・D・失・欠）を成績値（グレード・ポイント＝GP）に換算してGPA（成績平均値）を出すことで、分かりやすく、対外的にも通用する成績評価となります。学生はGPAを知ること、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画を適切に立てられます。

< GPAによる学修支援 >

次のとおりGPAを基にした履修指導・進路指導等を行います。

- ① GPAによる履修指導の目安として、通算GPAが1.5以下又は当該半期のGPAが1.0以下の学生に対して、指導・助言等を行います。
- ② 上記①の履修指導を行ったにもかかわらず、修得単位数が著しく少ないことに加え、次期半期GPAが1.0以下の場合は、退学勧告を含めた履修指導・進路指導等を行います。
（ただし、本人及び学修・生活指導教員の意見を聴いた上で、成業の可能性があると判断されれば、この限りではありません。）

3. 不合格科目等
の取扱い

- 1) 失格となった科目、正当な理由なく試験を欠席した科目、成績評価がDとなった科目のGPはすべて0.0としてGPAの算出対象となります。
- 2) 追試験・再試験を受験した科目はその評価をGPに換算します。追試験・再試験で合格した場合、その評価が当該期のGPAに反映されます。不合格となった場合、その科目のGPは0.0として、当該期のGPAに反映されます。

4. GPAの算定 基準

履修した科目の成績評価は、各科目で指定された成績評価の方法を基準に以下のよ
うに判定され、S・A・B・C（合格）の場合、所定の単位が与えられます。

成績評価の基準を5段階（S、A、B、C、不合格・失格・欠席）で表し、それぞれに4.0・
3.0・2.0・1.0・0.0のGPを付与し、平均値を算出します。

判 定	評 語	成績評価基準	G P
合 格	S	100点～90点	4.0
	A	89点～80点	3.0
	B	79点～70点	2.0
	C	69点～60点	1.0
不合格	D	59点以下	0.0
失 格	失	—	0.0
欠 席	欠	—	0.0

各科目の成績評価をG Pに換算し、これに科目の単位数を掛けて、その合計単位数
を当該期で履修登録した科目^{*}の総単位数で割ったものがG P Aとなります。

5. GPAの 算出式

$$GPA = \frac{(4.0 \times S \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

※「履修登録した科目」とは原則履修登録期間においてS*mapに登録された科目。

- GPAの算定基準日は原則前期9 / 20・後期3 / 31 までに評価のあった成績を対
象とします。
- インターンシップ及び海外演習系の科目についてはG P Aの算出対象としません。
また、編入学、転学部・転学科、再入学、他大学との単位互換制度等による単位認
定科目、卒業要件に含まない資格に関連する科目、履修登録削除の手続を認められ
た科目、その他当該学部で対象外と認められた科目についても除外します。
- GPAの確認方法はS*mapの成績確認用メニューの『履修科目合否表』と『成績表』
から行います。『履修科目合否表』は前期・後期と通年の、『成績表』は当該年次ま
での通算G P Aを記載しています。（『成績(単位修得)証明書』には記載されません。）
- 期の途中、やむを得ない理由で履修登録を削除したい場合は所定の期間において書
面での手続が必要です。例) 長期にわたる入院・ケガ等により通学困難な場合

各期で算出されたG P A値はS*mapから合否表・成績表で確認できます。
活用方法については各学部の『履修ガイド』やガイダンス等でご確認ください。

1. 教養教育の
目的

教養教育は、教育理念「人間になろう」を実現するために、幅の広い教養を身につけ、豊かな人間性を育成し、社会的要請に対応しうる基礎的能力を育成することを目的としています。幅の広い教養とは、様々な学問成果の基本を理解し、21世紀のグローバル化時代に求められる異文化、自国の文化を理解し、諸問題に対応しうる社会的、市民的教養のことであり、これらの教養を高めることで、豊かな人間性の育成を図ります。また、社会的に要請されている基礎的能力として、具体的には社会で活躍できる基礎的能力、論理的思考力、コミュニケーション能力、メディア活用力を育成します。

2. 7つの領域

教養教育は7つの領域に分かれており、バランス良く修得することで、幅の広い教養を身につけ、豊かな人間性を養うことができます。7つの領域の目的は、次のとおりです。

領域1 思想と表現	人間の築き上げた思想、芸術、文化などとその受容の在り方を学び、人間の精神活動全般への理解を深めることによって、豊かな自己表現能力や判断力を育成します。
領域2 歴史と社会	現代に至るまでの人類の歩みや、社会のさまざまな仕組み・事象を総合的に理解することを通して、社会が直面する課題を具体的に把握し、問題を解決し、将来を展望することができる能力を育成します。
領域3 自然と科学技術	科学技術の進歩と発展により、豊かになった人間社会の中で、自然と科学技術への理解を深め、人間の生き方を選択・決定していく能力を育成します。
領域4 数理と情報	コンピュータの操作技術やマナー、情報処理システムの構造や原理、数理学の思考方法や解析方法の基礎を学び、現代社会において必要とされる情報処理の能力や技術、数理感覚を育成します。
領域5 言語とコミュニケーション	国際化の浸透する現代社会を生きるための基本的能力である、外国語コミュニケーション能力を育成します。
領域6 健康とスポーツ	充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るための知識や技術を実践しながら体得します。
領域7 女性とキャリア	女性として社会で活躍できる基礎的能力・スキルを育成するとともに、自らライフデザインを描き、キャリアを形成するための基礎的能力を育成します。

3. 全学共通

本学では様々な分野の学問に触れることができる総合大学の利点を最大限活用し、学生が幅広い教養を学ぶことができるよう教養教育の再構築を進めてきました。そして、2015年度から教養教育科目を全学部で共通化し、原則としてみなさんは全ての教養教育科目を履修することができるようになりました。例えば、「歴史」の科目を受講したいと思った時、自分の学部の「歴史」だけでなく、他の学部の「歴史」からも選んで受講できます。

ただし、一部の科目については、受講者数等の都合上、他の学部で受講することはできません。

4. 履修方法

他の学部で開講されている教養教育科目が掲載された「時間割」は、新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンス（2年生のみ）の際に配付します。みなさんは、履修を希望する科目を、履修登録期間中にS*mapで登録する必要があります。ただし、受講希望者が、授業の定員数を上回った場合、受講者を抽選することがあります。（抽選は、その科目が開講されている学部の学生を優先します。）

5. 授業科目

*科目ナンバーのルールについては、第2部を確認してください。

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
思想と表現 領域1	哲学	2	1	ZK01-TE-010
	文学	2	1	ZK01-TE-020
	芸術	2	1	ZK01-TE-030
	心理	2	1	ZK01-TE-040
	言語	2	1	ZK01-TE-050
	人類学	2	1	ZK01-TE-060
歴史と社会 領域2	歴史	2	1	ZK01-HS-010
	法	2	1	ZK01-HS-020
	日本国憲法	2	1	ZK01-HS-030
	経済	2	1	ZK01-HS-040
	社会	2	1	ZK01-HS-050
	地理	2	1	ZK01-HS-060
	教育	2	1	ZK01-HS-070
自然と科学技術 領域3	物理の世界	2	1	ZK01-NS-010
	化学の世界	2	1	ZK01-NS-020
	環境の科学	2	1	ZK01-NS-030
	地球の科学	2	1	ZK01-NS-040
	生命の科学	2	1	ZK01-NS-050
数理と情報 領域4	数理の世界	2	1	ZK01-MI-010
	統計の世界	2	1	ZK01-MI-020
	コンピュータと情報Ⅰ	2	1	ZK01-MI-031
	コンピュータと情報Ⅱ	2	1	ZK01-MI-032

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
言語とコミュニケーション 領域5	外国語（英語A）	1	1	ZK01-LC-010a
	外国語（英語B）	1	1	ZK01-LC-010b
	外国語（英語C）	1	1	ZK01-LC-010c
	外国語（英語D）	1	1	ZK01-LC-010d
	外国語（ドイツ語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-021
	外国語（ドイツ語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-022
	外国語（フランス語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-031
	外国語（フランス語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-032
	外国語（中国語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-041
	外国語（中国語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-042
	外国語（ポルトガル語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-051
	外国語（ポルトガル語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-052
	外国語（スペイン語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC-061
	外国語（スペイン語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC-062
	外国語（ハングルⅠ）	1	1	ZK01-LC-071
外国語（ハングルⅡ）	1	1	ZK01-LC-072	
スポーツと健康 領域6	健康とスポーツの理論	2	1	ZK01-SP-010
	健康科学※	1	1	ZK01-SP-020
	スポーツ実習A	1	1	ZK01-SP-030a
	スポーツ実習B	1	1	ZK01-SP-030b
女性とキャリア 領域7	ファーストイヤーゼミ	1	1	ZK01-WC-010
	仕事学入門	2	1	ZK01-WC-020
	ライフデザイン	2	1	ZK01-WC-030
	ピア・サポート理論と実践	2	1	ZK01-WC-040
	キャリア形成実習Ⅰ	1	2	ZK01-WC-050a
	キャリア形成実習Ⅱ	1	2	ZK01-WC-050b
	ジェンダー論入門	2	1	ZK01-WC-060
	安全学	2	1	ZK01-WC-070
	日本語表現法基礎	2	1	ZK01-WC-080
	時事問題の理解	2	1	ZK01-WC-090

※「健康科学」は教育学部でのみ開講します。

※必修科目や領域ごとに必要な単位数等は、学部・学科で異なります。

※配当学年は、学部によって異なることがありますので、詳しくは第2部の教養教育科目のページを参照してください。

6. その他

詳しくは、新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンスで説明します。

1. 他学部・他学科開放科目の履修とは
- 他学部・他学科開放科目の履修（以下「他学部履修」という。）とは、自分の所属する学部（あるいは学科）以外の授業科目が履修できる制度です。他学部履修にあたっては、次のことに注意してください。
- ・ 学業と学外活動とのバランス
 - ・ これまでの単位修得状況
 - ・ 卒業要件との関連
 - ・ 将来の進路に必要と考えられる知識やスキル
 - ・ 研究対象への新たな視点・刺激
 - ・ 他学部履修に関するルール等
- 各学部の『履修の手引』及び『他学部・他学科開放科目時間割』は教務課及び日進キャンパス事務課、S*map のキャピネットで確認することができます。

2. 履修上の注意
- 1) 履修登録にあたり、自身の所属する学部で規定された履修規制単位数を超えて履修することはできません。
 - 2) 履修できる科目は、他学部・他学科開放科目時間割に記載されている科目に限ります。

3. 修得した単位の取扱い
- 修得した単位は、卒業に必要な単位数に含まれます。修得単位は「(自由選択)」として認定されますが、認定方法は所属する学部によって異なります。
- 卒業に必要な「(自由選択)」の最低修得単位数に含むことのできる上限は次のとおりです。

学科	含むことのできる単位数
管理栄養学科	(自由選択) 0 単位のうち 0 単位
生活環境デザイン学科	(自由選択) 14 単位のうち 8 単位
国際言語コミュニケーション学科	(自由選択) 24 単位のうち 12 単位
表現文化学科	(自由選択) 24 単位のうち 12 単位
人間関係学科	(自由選択) 20 単位のうち 8 単位
心理学科	(自由選択) 20 単位のうち 8 単位
文化情報学科	(自由選択) 18 単位のうち 12 単位
メディア情報学科	(自由選択) 19 単位のうち 12 単位
現代マネジメント学科	(自由選択) 10 単位のうち 10 単位
子ども発達学科	(自由選択) 10 単位のうち 10 単位
看護学科	(自由選択) 0 単位のうち 0 単位

※この上限単位数は、学則第 20 条の 2 から第 20 条の 5 までに規定する他の大学等において修得した単位数の合計（国際コミュニケーション学部は教育職員免許状取得に関する科目を含む。）

4. 履修登録・方法
- 履修登録は通常の科目と同様 S*map より行います。ピンク色の受講票を教務課(係)で受け取り第 1 回目の授業で担当教員へ提出してください。
- ※必ず第 1 回目の授業から出席し、ガイダンスや諸注意を受けてください。受講希望者数によっては、他学部履修者は受講制限されることがありますので予めご了承ください。

1. 愛知学長懇話会
単位互換事業
- 愛知学長懇話会単位互換事業は、愛知県内すべての4年制大学が加盟する「愛知学長懇話会」において締結された「単位互換に関する包括協定」により、加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。
- 愛知県の大学に在学するメリットの一つとして、ぜひ活用してください。
- 受講料は、包括協定に基づき「無料」です。
- （ただし、科目によっては、実験・実習等に必要な実費が必要な場合があります。）
2. 出願資格
- 本協定加盟大学の学生は、愛知学長懇話会ホームページ（<https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp>）に記載された科目の受講が可能ですが、それぞれが定める「出願資格」「履修条件」を満たしていることが必要です。所属する大学においても、履修できる科目や単位認定の可能な科目について独自の設定をする場合がありますので、これらの条件等についても、あらかじめ確認する必要があります。
- 本学においては、管理栄養学科及び看護学科を除く2年生以上が出願可能です（休学中の履修は不可）。
3. 出願手続
- S*mapのジャーナルや、掲示でお知らせします。教務課窓口で確認、手続をしてください。
- 【出願方法】
- 前期開講科目は4月、後期開講科目は4月又は9月に履修登録を行います。
 - 愛知学長懇話会ホームページ（<https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp>）を参照して、所定の「単位互換履修生（特別聴講生）」出願票を、1科目につき1枚記入して、所属する大学の窓口へ申し込みます。
 - 所定の手続を経て提出された出願票が、科目開設大学に受理され、受講者の選考を行います。
4. 履修手続
- 出願票を受理した科目開設大学は、募集定員や出願票に記入された「志望動機」に基づいて受講者の選考を行う場合があります。
- 受講の可否は、4月末ごろに所属大学を通じて通知されます。
- 科目開設大学によっては、独自の手続が必要な場合もありますので、その場合は、それぞれの大学の指示に従ってください。実験・実習費等の納入が必要な場合は、受講が決定してから科目開設大学の指示に従ってください。
5. 仮受講票
- 出願した科目の受講可否が通知される前に、その授業が開始される場合、その期間中は「仮受講」が可能です。仮受講期間中は、出願票のコピーを携帯し、仮の受講票とすることができます。

6. 履修期間中
- 1) 履修手を完了した学生は、科目開設大学における「単位互換履修生」又は「特別聴講生」となり、それぞれの大学において定められた範囲内でのサービス等を受けることができます。
 - 2) 科目開設大学によっては、単位互換履修生(特別聴講生)の身分証明書を発行します。
 - 3) 休講等にかかる連絡は、原則として科目開設大学において掲示等で案内されるほか、学生所属大学への通知によって行われます。
 - 4) 受講科目を履修し、科目に定められた方法による試験等に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
7. その他の注意事項
- 1) それぞれの科目に「履修条件」や「募集定員」等があり、出願にあたっては科目ごとの諸条件をよく理解してから申し込んでください。
 - 2) 科目開設大学へのアクセスについても考慮し、所属大学での時間割とあわせて無理のない履修計画をたててください。履修登録したにもかかわらず、通学条件等の理由で途中から受講を放棄しなければならないケースも予想されます。
 - 3) 卒業年次の学生は、自分の卒業所要単位修得状況や見込みにも注意してください。単位互換科目の受講可否や単位修得の可否が卒業に影響する場合は申請できません。
 - 4) 科目開設大学の学年暦にもよく目を通し、履修・試験・単位認定に関わる諸条件（日程を含む。）を十分理解するよう心がけてください。
 - 5) 履修許可された後（授業期間の途中も含む。）の科目の受講の取り止めは原則としてできません。やむを得ず科目の受講を取りやめなければならない状況になった場合、速やかに教務課まで申し出てください。

「研究倫理」：レポート・口頭発表資料・卒業論文・修士論文等の作成に当たっての注意

研究倫理教育の必要性

昨今、研究論文のデータ捏造などの研究活動上の不正行為が大きな社会問題となっています。大学生・大学院生の皆さんは、「コピペ」という言葉を耳にしたことがあると思いますが、これも研究活動上の他人の文章の盗用にあたり、社会問題の一つとして厳しい処分を受けることになります。

私たちの社会は、研究活動を通じて身の回りにある事象を正しく見て、正しく考え、正しく対処することの繰り返しによって成り立ち、今日の科学技術の発展に繋がっています。もし、不正行為がまかり通ってしまえば、間違った情報による結果を利用することになり、私たち自身が大きな被害を受けることにもなります。

こうした社会的信頼を失わないためにも、基本となる研究活動の取り組み方を考える必要があります。

梶山女学園大学では、研究倫理教育という考えのもと、正しい研究活動への取り組みが行われるよう支援を行っています。

<研究活動における不正行為とは何か？>

「研究活動による不正行為」とは、研究成果の内容に、データや調査結果等の捏造（ねつぞう）、改ざん及び盗用を行うことです。以下の不正行為は、授業等で課題として提出するレポートにも該当し、適用されます。

①捏造

存在しないデータ、研究結果等を作成することです。実際に行っていない実験の結果や原資料収集処理の結果等をでっち上げることを言います。

②改ざん

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。研究活動成果のつじつま合わせをすることを言います。

③盗用

他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。他の研究者の文章や図版を引用する際に、引用元（出典元）を明記せず、自分の考えとして作成（発表）することを言います。「コピペ」もこれに当たります。

④二重投稿

他の学術誌等に既発表（学会の口頭発表は含まれません。）又は投稿中の論文と本質的に同じ論文を投稿すること。

⑤不適切なオーサーシップ

論文著作者が適正に公表されないこと。論文の作成に関わった著作者、共著者、実験やデータの分析に関わった人は、すべて掲載することが求められています。これらの人々が掲載されないことを指しています。

<研究活動の基本事項>

レポート・口頭発表資料・卒業論文・修士論文等の作成に当たり、調査や研究に取り組むこととなりますが、その中に、意図的でないにしろ、不正行為となってしまう例が多々ありますので、以下のことを踏まえて、研究活動を進めていきましょう。

①研究を行うに当たっての責任

研究を行うに当たっては、関係法令や本学の諸規程を遵守するとともに、社会からの信頼と負託の上に成り立っていることを自覚し、良心と信念に従い誠実に行わなければなりません。

②情報・データの収集及び管理

研究に関する情報やデータは、科学的かつ一般的に妥当と考えられる方法、手段により、収集、保管を行わなければなりません。

③インフォームド・コンセント

人の行動、思想信条、環境、心身等に関する個人情報、データ等の提供を受けて研究を行う場合は、提供者（被験者）に対し、事前に研究の目的、収集方法等について分かりやすく説明し、書面等により提供者の同意を得る必要があります。

④個人情報の保護

個人情報の取扱いについては、関係法令や本学の諸規程を遵守し、利用目的の明確化、内容の正確性の確保等の適正な取扱いに努めるとともに、資料、情報、データ等の管理に万全を期し、他に漏らしてはなりません。

⑤研究機器、薬品等の安全管理

研究実験で研究装置・機器、薬品及び材料等を使用する場合は、関係法令や本学の諸規程を遵守し、その安全管理に努めるとともに、責任をもって処理しなければなりません。

⑥研究成果の公表等

研究の遂行及び成果の発表では、他者の知的財産の侵害、捏造、改ざん、盗用、不適切なオーサiership等の不正な行為を行ってはなりません。

⑦差別、ハラスメントの排除

研究活動のすべてにおいては、個人の人格及び自由を尊重し、属性、思想、信条等による差別、ハラスメント行為を行ってはなりません。

以上

第2部

履修ガイド

<教育理念「人間になろう」>

古人の歌に／人となれ人 人となせ人／というのがある。
人間完成、これこそ学園創設の精神であり、
学校教育終局の目標である。諸君よ、人間になろう。

初代学園長・理事長 梶山正式^{まさかず}/1879～1964（1962年「人間橋由来記」人間橋畔の碑文より）

<「人づくり」への礎石>

「私は道を拓き、敷地を拡げ、校舎を建てることに専念してこと足れるかに見えるならばそれは私の心ではない、それ等はあくまで手段であり、その目的はいうまでもなく育英事業である。そして教育とは知識技能の啓発ばかりでなく、それもやがては人間完成を終局の目標としたものでなければならぬ、そのための環境整備であり、他面また人を導くためには先ずもって自らを磨かなければならぬ。」

初代学園長梶山正式は、学園経営の形の上では、その場づくり、環境の整備も必要であると考えていましたが、それは常に育英事業、つまり「人づくり」を念頭に置いたものでした。また、大学が星が丘キャンパスに移転した際、南北の丘に橋を架け、「多くの学校に銀杏並木や桜のトンネル、橋がある。そこを渡ったり、くぐったりしている間に学生は自然と識らず識らずに人間ができあがるのだと思う」と語り、その橋を「人間橋」と名付け、人づくりへの熱い思いを込めました。

<教育理念「人間になろう」とは>

梶山女学園は、「人間になろう」を教育理念とし、「ひとを大切にできる人間」「ひとと支えあえる人間」「自らががんばれる人間」の3つを「人間になる」ことであると考え、一貫した人間教育を進めてきました。

私たちは教育を通じて、世界中の人々が人間性を回復し豊かさを享受できるよう、人間性を尊重しヒューマニズムの精神を創造できる人間を育成し、また、人と人との「絆」を重視し、互いのつながり、つまり人類の協調・連帯を大事にする人間になることを目指しています。そして、こうした「人間」になるために、自ら考え学ぶことにより、“なろう”とする決意を表明し実践できる自主性・主体性を育てています。

橋のもとに書かれた初代学園長直筆の「人間橋」の文字は、教育理念の原点を示しているとともに、今日の私たちが未来に向かって歩むべき「人づくり」の象徴でもあります。

<大学の教育目的>

本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、本学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、深く専門の学術を教授研究し、もって高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人間を育成することを目的とする。

梶山女学園大学学則（第1章 目的）

<学部・学科の目的>

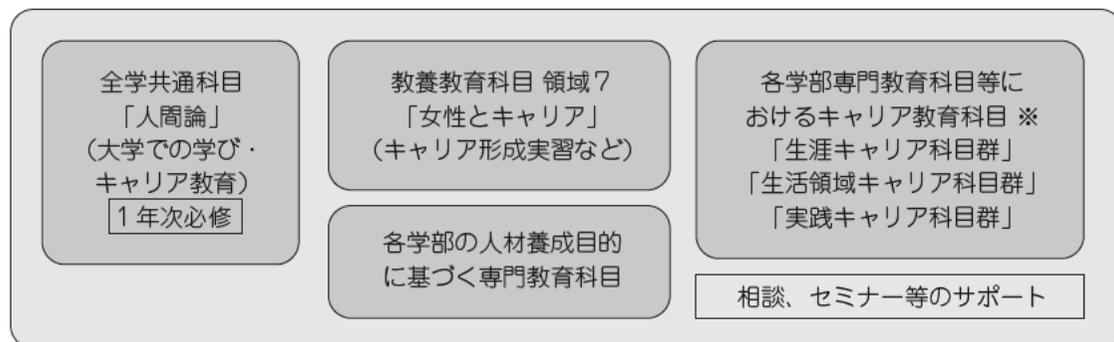
人間関係学部	人間関係学部は、人間及び人間関係に関する専門の学術を学際的かつ統合的に教授研究し、人間と人間関係及び心理について、広範な知識、総合的な判断力及び深い洞察力を有し、人間と人間関係上の諸問題を解明・解決することができる高度な人間関係力を備えた人材を養成します。
人間関係学科	人間関係学科は、学部の目的に基づき、人間及び人間関係に関する専門の学術を教授研究し、人間と人間関係に関する今日の課題に対して意欲的かつ実践的に取り組む態度、問題解決能力等の幅広い人間関係力を培い、人間及び人間関係に関する広範な知識と実践力を兼ね備えた人材を養成します。
心理学科	心理学科は、学部の目的に基づき、人間及び心理に関する専門の学術を教授研究し、人間と心理をめぐる今日の課題に対して意欲的かつ実践的に取り組む態度及び問題解決能力を培い、人間及び心理に関する広範な知識と総合的な判断力を兼ね備えた人材を養成します。

<トータルライフデザイン教育>

本学では、女性のライフステージを意識し、「トータルライフデザイン」を主導コンセプトとする教育を展開しています。

「トータルライフデザイン教育」とは、女性が社会で自立して生きていくための知識・能力を身に付ける教育です。仕事と生活との最適なバランスを図りながら、それぞれのライフステージ毎の課題を乗り越えていくために、生涯というタイムスパンで自分自身の人生設計を行うことができる力を養います。

キャリア教育を軸としたトータルライフデザイン



※各学部のキャリア教育科目一覧は、毎年S * m a pのキャビネットにおいて公開しています。

椋山女学園大学は、本学の教育理念「人間になろう」の下、専門の学術を教授研究し、高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人材育成を目指します。

こうした人材を育成するため、本学では学部学科ごとにディプロマ・ポリシーを定め、所定の教育課程を修め、以下の知識、能力を持つ人材として認められた学生に対し、学士の学位を授与します。

1. 専門分野における知識と技能を備え、科学的・学問的な視点から事象を捉えることができる。
2. 「人を大切にし、人と支えあい、自らががんばれる」社会人として必要な教養と知性を身に付けている。
3. 大学で学んだ知識や技能に基づき、答えのない課題や目標に対して創造的に考え、多様な人々と取り組むことができる。

学部・学科名	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
人間関係学部	<p>人間関係学部は、人間と人間関係及び人間の心理について、広範な知識、総合的な判断力及び深い洞察力を有し、人間と人間関係上の諸問題を解決することができる人に学位を授与します。</p> <p>卒業者が身に付けるべき学士力の具体的な内容は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と人間関係及び心理に関する幅広くかつ深い知識と理解 2. 人と関わり、他者を理解する力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力 3. 人間と人間関係上の諸問題を発見し、解決する態度 4. 総合的、学際的な視点と知識を身に付け、人間関係上の様々な問題を分析する能力と技能を持ち、これまで獲得した知識・技能・態度等を活用して、今後の社会において、創造力、批判的思考力、実践力をもって人と関わって生きていく力
人間関係学科	<p>人間関係学科は、人間と人間関係、またそれらの多様性について、広範な知識、総合的な判断力及び深い洞察力を有し、人間と人間関係上の諸問題を解決するために行動する人材を養成することを目的としています。</p> <p>したがって、次のような知識・技能・態度を身に付けた人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と人間関係に関する幅広く深い知識と理解 2. 人と関わり、他者を理解する力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力 3. 生活の中に人間関係に関わる諸問題を発見し、解決しようとする態度 4. 総合的、学際的な視点と知識を身に付け、人間関係に関して獲得した知識・技能・態度等を活用して、今後の社会において、創造力、批判的思考力、実践力をもって人と関わって生きていく力
心理学科	<p>心理学科は、人間と心理について、広範な知識、総合的な判断力及び深い洞察力を有し、様々な心理学の考え方や手法から実際の場面に即したものを選択し、それを適用できる実践力によって、人間と心理に関する諸問題を解決することができる人材を養成します。</p> <p>したがって、次のような知識・技能・態度を身に付けた人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と心理に関する幅広くかつ深い知識と理解 2. 人と関わり、他者を理解する力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力 3. 人間や心理に関する諸問題を発見し、それらを科学的に分析する技能及び実践的に問題解決を図る態度 4. 総合的、学際的な視点から主体的に判断し、人間と心理に関して獲得した知識・技能・態度等を活用して、今後の社会において、創造力、批判的思考力、実践力をもって人と関わって生きていく力

梶山女学園大学の学士課程では、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程を編成し、実施します。

1. 本学の授業科目は、全学共通科目、教養教育科目、学部共通科目、専門教育科目、各種課程及び資格取得に関する科目等で編成します。
2. 全学共通科目及び教養教育科目は、総合大学としての強みを活かし、学部学科を超え、多様な学生が相互に学び合います。
3. 初年次教育として、「人間論」を通じて本学の教育理念「人間になろう」を学び、自主性・主体性の基礎を育みます。また、「ファーストイヤーゼミ」では大学での学修を進める上での基礎的スキルを学びます。
4. 教養教育科目は、7つの領域で構成し、生涯にわたっての知的基盤となる幅広いものの見方や考え方を身に付けます。
5. 専門教育は学部ごとに行い、専門分野における知識と技能を習得するために基礎から応用、発展へと段階的に高い専門性を身に付けることができる配置とします。そして、その集大成として卒業研究、卒業論文等をまとめます。
6. 1年次からキャリア教育科目を開講し、4年間を通じてキャリア教育を実施します。
7. 主体的な学修を進めるために、授業科目ごとに身に付く能力を明確にし、学修の段階や順序、レベルを確認できる体系的な科目配置を行います。

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
人間関係学部	<p>人間関係学部は、本学部の教育目標を実現するために、次のことを意図してカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学共通科目として「人間論」、学部共通科目として「人間関係論A」「人間関係論B」を必修とし、教養教育科目と専門教育科目をバランス良く配置します。 2. 人間と人間関係及び人間の心理に関わる学問領域を学際的かつ総合的に探究できるように、幅広い分野の科目を開講し、学生の興味・関心・志向に応じて自由に科目を選択することを可能にします。 3. 多様な関心をもった学生が各々の関心にあわせてテーマを探究できるように、学部として10のモジュールを設けます。 4. 1年次の「ファーストイヤーゼミ」、2年次の「基礎演習」や「心理学実験」、3、4年次の「ケースメソッド」「演習」、あるいは各種の実習といった少人数の参加型授業を数多く配置し、対話と実践を通して学習意欲を高めます。

人間関係学科	<p>人間関係学科は、教育の目的を実現するためにカリキュラムを次のように編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学共通科目として「人間論」を必修とし、教養教育科目と専門教育科目をバランス良く配置します。 2. 専門教育科目は、学部共通科目として、「人間関係論 A」「人間関係論 B」を、学科共通科目として「人間関係の諸相 A」「人間関係の諸相 B」「人間関係の諸相 C」を必修とし、人間関係に関わる多様なテーマに焦点を当てた科目を配置します。 3. 人間と人間関係の多様性を軸に、各々の関心に合わせて科目を履修しテーマを探究するための6つのモジュールを設けます。社会、福祉、教育、ジェンダー、コミュニケーションなど人間関係に関する複数の専門分野を中心に学ぶ「生 / 性の多様性」「生活と福祉」「若者と居場所」、及び人間の心理や文化の視点を加えて学ぶ「職業とライフキャリア」「子どもと子育て」「生命・身体・文化」です。1つ以上のモジュールの履修を卒業要件とし、卒業時に卒業証書に加えてモジュールの履修証明を交付します。 4. 少人数対話型授業を4年間にわたり配置します。1年次は「ファーストイヤーゼミ」、2年次は「基礎演習 A」「基礎演習 B」、3年次は「卒論事前指導ゼミ」、4年次は「卒業論文」です。さらに、3、4年次では、多様な個性や特性を相互に認める幅広い視野を持ち、人間関係に関わる諸問題を解決する上で必要な創造力、批判的思考力、実践力を身につけるために、「ケースメソッド」「演習」など体験型授業を配置します。
心理学科	<p>心理学科は、教育の目的を実現するため、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学共通科目として「人間論」を必修とし、教養教育科目と専門教育科目をバランス良く配置します。 2. 専門教育科目は、学部共通科目として「人間関係論 A」「人間関係論 B」を、学科共通科目として心理学の基礎科目と方法論である「心理学概論」「心理学研究法」などを必修とし、学生が、人間と心理に関する基礎的知識や汎用的技能を身に付けた上で、発展科目や関連科目を履修することができるように配置します。 3. 多様な関心を持った学生が、各々の関心に合わせて専門教育科目を履修し各領域を深く学べるよう、7つのモジュールを設けます。心理学の基本的領域である「対人関係と社会」「認知と行動」「生涯発達と支援」「心理臨床と医療」、及び心理学に関連した幅広い領域である「職業とライフキャリア」「子どもと子育て」「生命・身体・文化」です。1つ以上のモジュールの履修を卒業要件とし、卒業時に卒業証書に加えてモジュールの履修証明を交付します。 4. 専門的な学修を確実に進められるよう、少人数の実践的な科目を4年間にわたり配置します。1年次は「ファーストイヤーゼミ」、2年次は「心理学実験」「心理学特殊実験」、3年次は「卒論事前指導ゼミ」、4年次は「卒業論文」です。さらに3、4年次には、様々な心理学研究法や実践的な方法を用いて具体的な課題に主体的に取り組む「ケースメソッド」「演習」の体験型授業を配置します。

＜教員による支援＞

人間関係学部は、履修にあたり学生の興味関心と自主性を尊重していますが、同時に、学生生活のあらゆる面で教員が学生を支援できるように、必要な配慮もしています。上記の教育課程の実施にあたり、勉学の面での支援はもちろん、進路選択、心身の健康、人間関係など学生生活のあらゆる面について、教員が学生を支援できる体制を人間関係学部は目指しています。

<「育成する4つの能力」とは>

梶山女学園大学では、各学部・学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）において、当該学士課程教育において培う学士力を定めています。そして、それらの学士力を各学部・学科ごとに下記のように「知識・理解」「思考・判断」「態度・志向性」及び「技能・表現」の4つの面からとらえ、具体的に育成する能力としています。また、各学科で開講される授業科目ごとに、それぞれの授業がどういう能力を主として育成するかを◎又は○（特に重点的に育成する能力は「◎」、重点的に育成する能力は「○」）で示しています。

人間関係学科

ディプロマ・ポリシーと「育成する4つの能力」の関係			ディプロマ・ポリシー(DP)			
			DP1	DP2	DP3	DP4
育成する4つの能力	知識・理解	人間と人間関係に関する幅広く深い知識を修得している。	○			
	思考・判断	日常的な人間関係について主体的に思考し、判断することができる。				○
	態度・志向性	生活の中に人間関係に関わる諸問題を発見し、解決しようとする態度をとることができる。			○	
	技能・表現	他者共感能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身に付け、人と関わることができる。		○		

心理学科

ディプロマ・ポリシーと「育成する4つの能力」の関係			ディプロマ・ポリシー(DP)			
			DP1	DP2	DP3	DP4
育成する4つの能力	知識・理解	人間と心理に関する幅広く深い知識を修得している。	○			
	思考・判断	人間や心の問題に対して、主体的に考え、判断することができる。				○
	態度・志向性	さまざまな心理的背景をもった他者を理解し、コミュニケーションしようとするすることができる。		○		
	技能・表現	人間や心理に関する諸問題を発見し、それらを科学的に分析し、発表する能力・技能を身に付けている。			○	

※ DP1～DP4は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」ページに記載している各学科のディプロマ・ポリシー1～4に対応しています。

<「カリキュラム・マップ」とは>

梶山女学園大学では、「教育目的」、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」と「育成する4つの能力（知識・理解）（思考・判断）（態度・志向性）（技能・表現）」が個々の授業科目において、どのように対応しているかを示したものをカリキュラム・マップといいます。

<科目ナンバリングとは>

1. 科目ナンバリング

椋山女学園大学では、履修計画を立てる際の指針となるように、全ての科目に固有のナンバーを設定しています。この科目ナンバリングでは、学修の段階や順序、受講科目の分野やレベルを確認し体系的な履修が可能となるよう設定してありますので、履修計画を立てる際の指針として役立ててください。

2. 科目ナンバリングのルール

① 開講学部 学科	② カリキュ ラム上の 分類に基 づく番号	③ レベル		④ カリキュ ラム上の 分野	⑤ 学部学 科独自 の領域	⑥ 識別番号	⑦ 領域内 履修順序	⑦ 補助		⑧ 科目属性
LN	1	1	-	AA	—	01	0	a	-	Y

① 開講されている学部学科を表しています。

LN	管理栄養学科	CI	文化情報学科
LE	生活環境デザイン学科	CM	メディア情報学科
LK	生活科学部共通	CK	文化情報学部共通
CF	国際言語コミュニケーション学科	MM	現代マネジメント学科
CC	表現文化学科	EN	子ども発達学科 保育・初等教育専修
CS	国際コミュニケーション学部共通	EE	子ども発達学科 初等中等教育専修
HR	人間関係学科	EK	教育学部共通
HP	心理学科	NU	看護学科
HK	人間関係学部共通	ZK	全学共通科目

② カリキュラム上の分類を表しています。

0	教養教育科目	4	学科の学びを応用・発展させる科目、 視野を広げる科目
1	学部の学びの基礎となる科目（学部共通）	5	大学院科目
2	学科の学びの基礎となる科目	9	資格専門科目
3	学科の学びの基幹となる科目		

③ 科目のレベルを表しています。

1	導入レベル科目（基礎となる科目）	4	上級レベル科目 （専門領域の上級レベル科目）
2	初級レベル科目（基礎から専門的レベル への橋渡しとなる科目）	5	大学院修士レベル科目
3	中級レベル科目（専門領域の中核となる 科目）	6	大学院博士レベル科目

④ 各学科のカリキュラムでどの分野に位置づけられている科目かを表しています。（別表1）

⑤ 学部学科で、カリキュラム表には明示されていない領域がある場合に示しています。

- ⑥ ④⑤の分野・領域の中で科目の識別をするための番号です。関連性のある同種の科目については同じ番号が設定されています。
- ⑦ 関連性のある同種の科目については、履修の順序を表しています。0（ゼロ）は履修順序はありません。
- ⑧ 科目の特徴や資格との関係を表しています。

K	他学部他学科開放科目	G	学芸員に関する科目
E	英語のみで実施する科目	N	日本語教員に関する科目
S	【教職課程】 教育の基礎的理解に関する科目等、各教科の指導法	H	保健師に関する科目
Y	【教職課程】 教科に関する専門的事項、栄養に係る教育に関する科目、養護に関する科目		
T	司書・司書教諭に関する科目		

3. 科目ナンバリング掲載箇所

教養教育科目：P 1－17 から P 1－19 の「教養教育科目の履修」のページに記載されています。

専門教育科目：P 2－7 から P 2－18 の「育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング」についてのページに記載されています。

S*map 「キャビネット」の教務課フォルダにも科目ナンバリング表があります。確認してください。

【別表1】

カリキュラム上の分類

AA	学部共通科目		
AB	学科共通科目		
AC	学科共通演習実習科目		
DE	発展科目		
学部学科独自の区分	モジュール名		学科
	A	若者と居場所	人間関係学科
	B	生活と福祉	
	C	生 / 性の多様性	
	D	職業とライフキャリア	
	E	子どもと子育て	
	F	生命・身体・文化	
	G	対人関係と社会	心理学科
	H	認知と行動	
	I	生涯発達と支援	
	J	心理臨床と医療	
	D	職業とライフキャリア	
	E	子どもと子育て	
	F	生命・身体・文化	
RE	関連科目		
ST	演習科目		
GS	卒業論文		
TE	教養教育科目	領域1 思想と表現	
HS		領域2 歴史と社会	
NS		領域3 自然と科学技術	
MI		領域4 数理と情報	
LC		領域5 言語とコミュニケーション	
SP		領域6 健康とスポーツ	
WC		領域7 女性とキャリア	

人間関係学科 カリキュラム・マップ

*特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

授業科目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現
基幹科目	学部共通科目	人間関係論 A	HK11-AA--010a-Y	1	◎	○	○
		人間関係論 B	HK11-AA--010b-Y	1	◎	○	○
	学科共通科目	人間関係の諸相 A	HR21-AB--010a	1	◎		○
		人間関係の諸相 B	HR21-AB--010b	1	◎		○
		人間関係の諸相 C	HR21-AB--010c	2	◎		○
	学科共通演習科目	基礎演習 A	HR22-AC--010a	2			○ ◎
		基礎演習 B	HR22-AC--010b	2			○ ◎
	卒論事前指導ゼミ	HK43-AC--020	3	※	※	※	※
発展科目		乳幼児心理学	HR31-DE-E-010	1	◎		○
		児童心理学	HR31-DE-EF-010	1	○		◎
		人間形成の歴史	HR32-DE-CDF-020-Y	2	◎		○
		人間形成の思想	HR33-DE-ACF-030-S	3		○	◎
		子ども論	HR31-DE-AE-040	2	◎	○	
		子どもと遊び	HR32-DE-EF-050	2	◎		○
		保育論	HR32-DE-BE-060	2	◎	○	
		幼児教育論	HR32-DE-EF-070	2	◎	○	
		青少年論 A	HR32-DE-ACD-080a	2	◎	○	
		青少年論 B	HR32-DE-ADE-080b	2	◎		○
		親子関係論	HR31-DE-BCE-090	1	◎		○
		子育ての心理学	HR32-DE-AE-100	2	◎		○
		現代教育論	HR33-DE-ACE-110-S	3	◎		○
		国際化と教育	HR32-DE-ABE-120-S	2	◎	○	○
		生涯学習論	HR33-DE-ACD-130	3	◎		○
		教師の世界	HR31-DE-AD-140-S	1		◎	○
		非行問題	HR33-DE-ABE-150	3	◎	○	
		社会福祉論 A	HR31-DE-BCDF-160a-Y	1	◎	○	
		社会福祉論 B	HR31-DE-BDF-160b-Y	1	◎	○	
		福祉コミュニティ論	HR32-DE-AB-170	2	◎		○
		社会保障論 A	HR32-DE-BD-180a	2	◎		○
		社会保障論 B	HR32-DE-BD-180b	2	◎		○
		貧困に対する支援	HR31-DE-AB-190	2	◎	○	
		福祉サービスの組織と経営	HR32-DE-B-200	2	○	◎	
		子ども・家庭福祉論	HR31-DE-ABCE-210	1	◎		○
		高齢者福祉論	HR31-DE-BF-220	1	◎	○	
		障害者福祉論	HR31-DE-BE-230	2	○	◎	
	ソーシャルワーク論Ⅰ	HR31-DE-B-241	1		◎	○	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	HR31-DE-B-242	1		○	◎	
	ソーシャルワークの基礎	HR31-DE-B-250	1	◎		○	

履修ガイド

育成する4つの能力とカリキュラム・マップ／科目ナンバリング

授 業 科 目	科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
ソーシャルワークⅠ	HR32-DE-B-251	2	◎			○
ソーシャルワークⅡ	HR32-DE-B-252	2	◎			○
ソーシャルワークⅢ	HR33-DE-B-253	3	◎			○
人体の構造と機能及び疾病	HR31-DE-BC-260	1	◎	○		
権利擁護を支える法制度	HR33-DE-B-270	3	◎	○		
司法福祉論	HR33-DE-ABD-280	3	◎	○		
保健医療	HR32-DE-B-290	1	◎		○	
社会学概論	HR31-DE-BDF-300-Y	1	◎		○	
家族社会論	HR32-DE-ABCE-310-Y	2	◎		○	
学校と社会	HR33-DE-AEF-320-S	3	◎		○	
地域社会論	HR32-DE-ABDE-330-Y	2	◎		○	
地域社会と人間	HR31-DE-ABDF-340-Y	1	◎		○	
産業と労働	HR32-DE-BCD-350-Y	2	◎	○		
組織と人間	HR32-DE-BDF-360-Y	2	◎	○		
現代社会論	HR32-DE-ABCF-370-Y	2	◎	○		
社会調査論	HR32-DE-ABCF-380	1	○			◎
社会調査の技法	HR32-DE-ABEF-390	2	○			◎
データの整理と分析	HR32-DE-AE-400	2	○	○	○	◎
フィールドワーク論	HR32-DE-AF-410	2	○			◎
地球環境と人間	HR33-DE-CF-420	3	◎		○	
生命科学と人間	HR32-DE-CF-430	2	◎		○	
エスニシティ論	HR31-DE-DF-440	1			○	◎
情報科学と人間 A	HR32-DE-AF-450a	2	○			◎
情報科学と人間 B	HR32-DE-ADEF-450b	2	○			◎
文化人類学	HR31-DE-ACF-460-Y	1	◎	○		
比較文化論	HR32-DE-ACF-470-Y	2	◎	○		
情報倫理学	HR31-DE-ADF-480	1	◎	○		
人間の歴史	HR32-DE-CF-490-Y	2	◎		○	
生命倫理学	HR32-DE-CEF-500-Y	2	◎	○		
身体としての人間	HR32-DE-CF-510	2	○	◎		
スポーツ文化論	HR32-DE-CF-520	2	◎	○		
生涯スポーツの方法と技術	HR32-DE-CDEF-530	3			◎	○
臨床哲学	HR32-DE-AF-540-Y	2		○	◎	
人間環境論	HR32-DE-F-550	2	◎		○	
ライフスタイル論	HR31-DE-BCDF-560-Y	1	◎		○	
女性とライフステージ	HR31-DE-BCDE-570	1	◎		○	
女性と社会 A	HR32-DE-ACD-580a-Y	1	◎		○	
女性と社会 B	HR32-DE-BCDE-580b	2	◎		○	
女性と職業生活 A	HR32-DE-ABCD-590a-Y	2	◎		○	

発
展
科
目

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
発 展 科 目	女性と職業生活 B	HR32-DE-ACDE-590b	3	◎		○	
	生活意識論	HR32-DE-BCE-600-Y	2	◎		○	
	生徒指導論（進路指導を含む。）	HR31-DE-AD-610-S	1	◎		○	
	教育相談	HR33-DE-AD-620-S	3	◎			○
	ジェンダー・セクシュアリティ論 A	HR31-DE-ACDE-630a-Y	1	◎		○	
	ジェンダー・セクシュアリティ論 B	HR31-DE-BCEF-630b-Y	1	◎		○	
	国際社会とジェンダー	HR32-DE-ACDE-640	2	◎	○	○	○
	女性史	HR32-DE-ACDE-650-Y	2	◎		○	
	心理学総論	HR31-DE-BC-660-Y	1	◎	○		
	健康・医療心理学	HR31-DE-D-670	2	○	◎		
	感情・人格心理学	HR32-DE-CD-680-Y	2	◎	○		
	教育・学校心理学	HR33-DE-AE-690-S	3	○	◎	○	
	福祉心理学	HR33-DE-BEF-700-S	2		◎	○	
	障害者・障害児心理学	HR32-DE-EF-710	2	○		◎	
	発達心理学	HR31-DE-CE-720	1	◎		○	
	行動心理学	HR32-DE-D-730-Y	2	○		◎	
	青年心理学	HR32-DE-AD-740-S	2	◎		○	
	学習・言語心理学	HR31-DE-D-750-S	1	○		◎	
	産業・組織心理学	HR32-DE-CD-760-Y	2		◎	○	
	社会・集団・家族心理学A(社会・集団心理学)	HR31-DE-CD-770a-Y	1	◎		○	
	社会・集団・家族心理学B(家族心理学)	HR33-DE-CE-770b	2	○		◎	
	司法・犯罪心理学	HR32-DE-A-780	2	○		◎	
	成人心理学	HR32-DE-DE-790	2	○		◎	
	比較行動学	HR32-DE-CF-800	2	◎	○		
	知覚・認知心理学	HR32-DE-DF-810-Y	1	◎		○	
	神経・生理心理学	HP31-DE-FHIJJ820	1	○		◎	
	発達臨床心理学	HR33-DE-CE-830-S	3	○		◎	
	社会心理学特論	HR33-DE-DF-840	2	◎		○	
	マスメディア論	HR32-DE-AF-850-Y	2	◎	○		
	コミュニケーション論	HR32-DE-ADE-860-Y	2	◎			○
臨床心理学概論	HR32-DE-E-870-Y	2	◎		○		

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
関 連 科 目	日本史 A	HR32-RE--010a-Y	1	◎		○	
	日本史 B	HR41-RE--010b-Y	1	◎		○	
	外国史 A	HR41-RE--020a-Y	1	◎		○	
	外国史 B	HR41-RE--020b-Y	1	◎		○	
	外国史 C	HR41-RE--020c-Y	1	◎		○	
	人文地理学	HR41-RE--030-Y	1	◎	○		
	自然地理学	HR41-RE--040-Y	1	◎	○		
	地誌	HR41-RE--050-Y	1	◎	○		
	法学 (国際法を含む。)	HR41-RE--060-Y	1	◎		○	
	政治と社会 (国際政治を含む。)	HR41-RE--070-Y	1	◎		○	
	経済学 (国際経済を含む。)	HR41-RE--080-Y	1	◎	○		
	宗教と社会	HR41-RE--090-Y	1	◎	○		
	カリキュラムの創造	HR32-RE--100-S	2			◎	○
	教育の方法と技術 (情報通信技術の活用を含む。)	HR42-RE--110-S	2	◎			○
	博物館概論	HR41-RE--120-G	1	◎			○
	博物館経営論	HR42-RE--130-G	2	◎	○		
	博物館資料論	HR42-RE--140-G	2	◎			○
	博物館資料保存論	HR42-RE--150-G	2	◎	○		
	博物館展示論	HR42-RE--160-G	2	◎		○	
	博物館教育論	HR42-RE--170-G	2	◎	○		
博物館情報・メディア論	HR42-RE--180-G	2	◎			○	
集 団 制 度	社会調査実習 A	HR43-ST--010a	3	○			◎
	社会調査実習 B	HR43-ST--010b	3	○			◎
	海外演習 A	HK41-ST--020a	1			○	◎
	海外演習 B	HK41-ST--020b	1			○	◎
	ケースメソッド	HK43-ST--030	3	※	※	※	※
	演習	HK43-ST--040	3	※	※	※	※
卒業論文		HK44-GS--010	4	※	※	※	※

※：各担当により異なるため、シラバス参照

心理学科 カリキュラム・マップ

*特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

授業科目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現
基幹科目	学部共通科目	人間関係論 A	HK11-AA--010a-Y	1	◎	○	○
		人間関係論 B	HK11-AA--010b-Y	1	◎	○	○
	学科共通科目	心理学概論	HP21-AB--010-Y	1	◎	○	
		心理学研究法	HP21-AB--020	1	◎	○	
		心理学統計法	HP22-AB--030	2	○		◎
		心理学統計法特論	HP22-AB--040	2	○		◎
		心理学実験	HP22-AC--010	2		◎	○
	学科共通演習科目	心理学特殊実験	HP32-AC--020	2		◎	○
		卒論事前指導ゼミ	HK42-AC--030	3	※	※	※
発展科目	公認心理師の職責	HP31-DE-IJ-010	2	◎	○		
	臨床心理学概論	HP32-DE-EGIJ-020-Y	2	◎		○	
	知覚・認知心理学	HP32-DE-DFHJ-030-Y	1	◎		○	
	認知心理学特論	HP33-DE-GHJ-040-Y	2	○		◎	
	学習・言語心理学	HP31-DE-DGHJ-050-S	1	○		◎	
	感情・人格心理学	HP32-DE-DHIJ-060-Y	2	◎	○		
	神経・生理心理学	HP31-DE-FHIJ-070	1	○		◎	
	比較行動学	HP32-DE-FGHI-080	2	◎	○		
	社会・集団・家族心理学A(社会・集団心理学)	HP32-DE-DGHI-090a-Y	1	◎		○	
	社会心理学特論	HP31-DE-DFGH-100-Y	2	◎		○	
	社会・集団・家族心理学B(家族心理学)	HP33-DE-EGIJ-090b	2	○		◎	
	親子関係論	HP31-DE-EIJ-110	1	◎		○	
	子育ての心理学	HP32-DE-EGIJ-120	2	◎		○	
	発達心理学	HP31-DE-EHIJ-130	1	◎		○	
	乳幼児心理学	HP31-DE-EGHIJ-140	1	◎		○	
	児童心理学	HP31-DE-EFHIJ-150	1	○		◎	
	子ども論	HP31-DE-EI-160	2	◎	○		
	子どもと遊び	HP32-DE-EFHI-170	2	◎		○	
	青年心理学	HP32-DE-DGIJ-180-S	2	◎		○	
	成人心理学	HP32-DE-DEHIJ-190	2	○		◎	
	発達臨床心理学	HP33-DE-EIJ-200-S	3	○		◎	
	障害者・障害児心理学	HP32-DE-EFIJ-210	2	○		◎	
	心理的アセスメント	HP33-DE-HIJ-220	3		◎		
	心理学的支援法	HP32-DE-HIJ-230-Y	2	○		◎	
	行動心理学	HP32-DE-DGHI-240-Y	2	○		◎	
	精神分析	HP32-DE-HJ-250	2		◎	○	
心理療法	HP33-DE-IJ-260-S	3		◎	○		
健康・医療心理学	HP31-DE-DHJ-270	2	○	◎			

履修ガイド

育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング

授 業 科 目	科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
福祉心理学	HP33-DE-EFIJ-280-S	2		◎	○	
教育・学校心理学	HP33-DE-EGIJ-290-S	2	○	◎	○	
司法・犯罪心理学	HP32-DE-GHJ-300	2	○		◎	
産業・組織心理学	HP32-DE-DGHJ-310-Y	2		◎	○	
生命倫理学	HP32-DE-EFGJ-320-Y	2	◎	○		
臨床哲学	HP32-DE-FGJ-330-Y	2		○	◎	
人体の構造と機能及び疾病	HP31-DE-HIJ-340	1	◎	○		
精神疾患とその治療	HP33-DE-HIJ-350	3	◎	○		
身体としての人間	HP32-DE-FH-360	2	○	◎		
スポーツ文化論	HP32-DE-FH-370	2	◎	○		
生涯スポーツの方法と技術	HP32-DE-DEFH-380	3			◎	○
関係行政論	HP32-DE-GIJ-390	3	◎	○		
ジェンダー・セクシュアリティ論 A	HP31-DE-DEJ-400a-Y	1	◎		○	
ジェンダー・セクシュアリティ論 B	HP31-DE-EFJ-400b-Y	1	◎		○	
国際社会とジェンダー	HP32-DE-DE-410	2	◎	○	○	○
ライフスタイル論	HP31-DE-DFJ-420-Y	1	◎		○	
社会学概論	HP31-DE-DFG-430-Y	1	◎		○	
社会福祉論 A	HP31-DE-DFI-440a-Y	1	◎	○		
社会福祉論 B	HP31-DE-DFJ-440b-Y	1	◎	○		
社会調査論	HP32-DE-FG-450	1	○			◎
地域社会論	HP32-DE-DEG-460	2	◎		○	
社会保障論 A	HP32-DE-DGJ-470a	2	◎		○	
社会保障論 B	HP32-DE-DG-470b	2	◎		○	
子ども・家庭福祉論	HP31-DE-EI-480	1	◎		○	
高齢者福祉論	HP31-DE-FI-490	1	◎	○		
障害者福祉論	HP31-DE-EIJ-500	2	○	◎		
保育論	HP32-DE-EI-510	2	◎	○		
幼児教育論	HP32-DE-EFI-520	2	◎	○		
生徒指導論（進路指導を含む。）	HP31-DE-DG-530-S	1	◎		○	
教育相談	HP33-DE-DGIJ-540-S	3	◎			○
生涯学習論	HP33-DE-DHI-550	3	◎		○	
現代教育論	HP33-DE-EH-560-S	3	◎		○	
教師の世界	HP31-DE-DG-570-S	1		◎	○	
学校と社会	HP33-DE-EFI-580-S	3	◎		○	
国際化と教育	HP32-DE-E-590-S	2	◎	○	○	
青少年論 A	HP32-DE-DG-600a	2	◎	○		
青少年論 B	HP32-DE-DEGI-600b	2	◎			○
人間形成の思想	HP33-DE-F-610-S	3		○	◎	
人間形成の歴史	HP32-DE-DF-620-Y	2	◎		○	

発
展
科
目

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
発 展 科 目	人間の歴史	HP32-DE-FGH-630-Y	2	◎		○	
	非行問題	HP33-DE-EI-640	3	◎	○		
	フィールドワーク論	HP32-DE-FGH-650	2	○			◎
	コミュニケーション論	HP32-DE-DEGH-660-Y	2	◎			○
	マスメディア論	HP32-DE-FG-670-Y	2	◎	○		
	現代社会論	HP32-DE-FG-680-Y	2	◎	○		
	地域社会と人間	HP31-DE-DF-690	1	◎		○	
	組織と人間	HP32-DE-DFG-700-Y	2	◎	○		
	女性とライフステージ	HP31-DE-DEI-710	1	◎		○	
	女性と社会 A	HP31-DE-D-720a-Y	1	◎		○	
	女性と社会 B	HP32-DE-DE-720b	2	◎		○	
	女性史	HP32-DE-DE-730-Y	2	◎		○	
	女性と職業生活 A	HP32-DE-D-740a-Y	2	◎		○	
	女性と職業生活 B	HP33-DE-DE-740b	3	◎		○	
	産業と労働	HP42-DE-DG-750-Y	2	◎	○		
	生活意識論	HP42-DE-EH-760-Y	2	◎		○	
	家族社会論	HP32-DE-EJ-770-Y	2	◎		○	
	文化人類学	HP31-DE-FGH-780-Y	1	◎	○		
	比較文化論	HP32-DE-FG-790-Y	2	◎	○		
	エスニシティ論	HP31-DE-DFG-800	1			○	◎
	地球環境と人間	HP33-DE-FH-810	3	◎		○	
	人間環境論	HP32-DE-FGH-820	2	◎		○	
	生命科学と人間	HP32-DE-FH-830	2	◎		○	
	情報科学と人間 A	HP32-DE-FH-840a	2	○			◎
	情報科学と人間 B	HP32-DE-DEFH-850b	2	○			◎
	情報倫理学	HP31-DE-DF-860	1	◎	○		
	社会調査の技法	HP32-DE-EFH-870	2	○			◎
	データの整理と分析	HP32-DE-EGH-880	2	○	○	○	◎
関 連 科 目	日本史 A	HP41-RE--010a-Y	1	◎		○	
	日本史 B	HP41-RE--010b-Y	1	◎		○	
	外国史 A	HP41-RE--020a-Y	1	◎		○	
	外国史 B	HP41-RE--020b-Y	1	◎		○	
	外国史 C	HP41-RE--020c-Y	1	◎		○	
	人文地理学	HP41-RE--030-Y	1	◎	○		
	自然地理学	HP41-RE--040-Y	1	◎	○		
	地誌	HP41-RE--050-Y	1	◎	○		
	法学（国際法を含む。）	HP41-RE--060-Y	1	◎		○	
	政治と社会（国際政治を含む。）	HP41-RE--070-Y	1	◎		○	
	経済学（国際経済を含む。）	HP41-RE--080-Y	1	◎	○		

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
関 連 科 目	宗教と社会	HP41-RE--090-Y	1	◎	○		
	カリキュラムの創造	HP42-RE--100-S	2			◎	○
	教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む。）	HP42-RE--110-S	2	◎			○
	博物館概論	HP41-RE--120-G	1	◎			○
	博物館経営論	HP42-RE--130-G	2	◎	○		
	博物館資料論	HP42-RE--140-G	2	◎			○
	博物館資料保存論	HP42-RE--150-G	2	◎	○		
	博物館展示論	HP42-RE--160-G	2	◎		○	
	博物館教育論	HP42-RE--170-G	2	◎	○		
	博物館情報・メディア論	HP42-RE--180-G	2	◎			○
実 習 実 験 科 目	心理演習	HP43-ST--010	3		◎	○	
	心理実習Ⅰ	HP43-ST--021	3		○	◎	
	心理実習Ⅱ	HP43-ST--022	3			○	◎
	心理実習Ⅲ	HP43-ST--023	4			○	◎
	社会調査実習 A	HP43-ST--030a	3	○			◎
	社会調査実習 B	HP43-ST--030b	3	○			◎
	海外演習 A	HK41-ST--040a	1			○	◎
	海外演習 B	HK41-ST--040b	1			○	◎
	ケースメソッド	HK43-ST--050	3	※	※	※	※
	演習	HK43-ST--060	3	※	※	※	※
卒業論文		HK44-GS--010	4	※	※	※	※

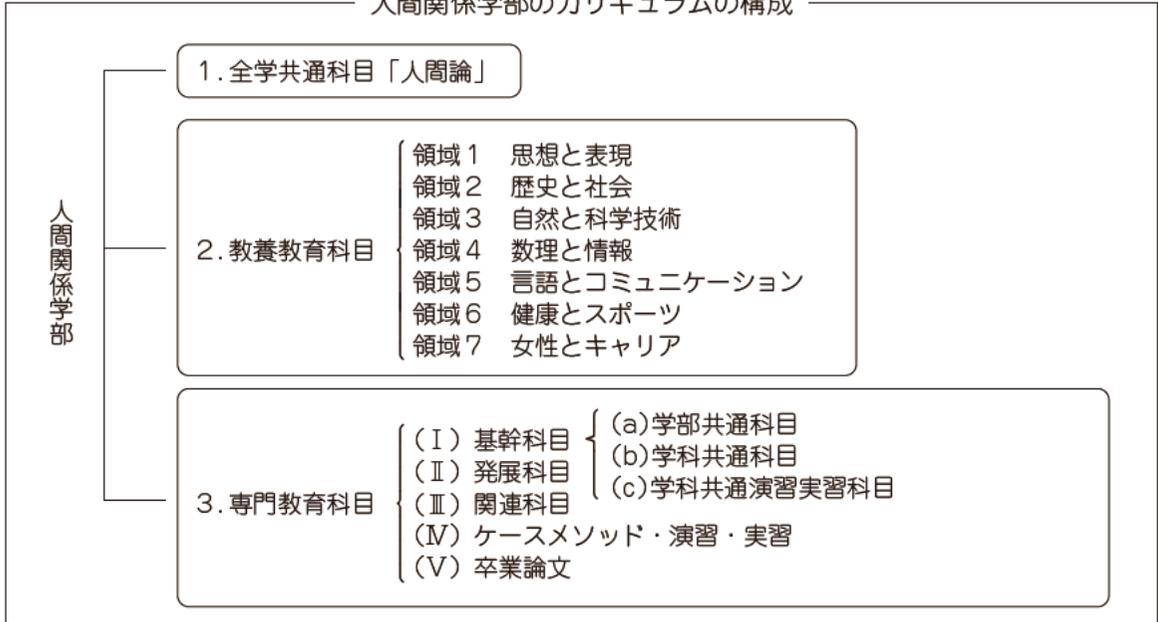
※：各担当者により異なるため、シラバス参照

(1) 授業科目全体の構成

人間関係学部で開設されている授業科目は次のように大きく3種類に区分されています。

このほかに、資格取得のための資格専門科目があります。それらは、「卒業に必要な単位」に算入されません。

人間関係学部のカリキュラムの構成



(2) 卒業に必要な単位 (学則 20 条別表第 13)

全学共通科目「人間論」		2単位必修
教養教育科目	領域1 「思想と表現」	2単位以上選択履修
	領域2 「歴史と社会」	2単位以上選択履修
	領域3 「自然と科学技術」	2単位以上選択履修
	領域4 「数理と情報」	2単位以上選択履修 (「コンピュータと情報Ⅰ」2単位必修)
	領域5 「言語とコミュニケーション」※	4単位以上選択履修
	領域6 「健康とスポーツ」	2単位以上選択履修 (「スポーツ実習A」1単位必修、「スポーツ実習B」1単位必修)
	領域7 「女性とキャリア」	1単位以上選択履修 (「ファーストイヤーゼミ」1単位必修)
上記(領域1～領域7)より		27単位
専門教育科目		77単位
(自由選択)※※		20単位
卒業に必要な単位数の合計		126単位

※印は、外国人留学生については、国際交流科目のうち所定の日本語科目4単位を領域5の単位とみなす。

※※印は、教養教育科目、専門教育科目及び第20条の2から第20条の5までに規定するいずれの科目から修得してもよい。ただし、第20条の2から第20条の5までに規定する他の大学等において修得した単位は、8単位を上限として自由選択の単位とする。(外国人留学生については、国際交流科目のうち領域5の単位としてみなした単位を除き、自由選択の単位に含む。)

専門教育科目については、表に定める単位のほか、別に定める所定の科目及び単位を修得しなければならない。

(3) 各科目区分の趣旨

1. 全学共通科目「人間論」

「人間論」は、椋山女学園の教育理念「人間になろう」を授業科目の形で追究するために設置された科目で、「自校教育」「大学での学び・キャリア教育」「学問的人間論」の3つの柱から構成されています。「自校教育」では椋山女学園の歴史や教育理念を学び、「大学での学び・キャリア教育」ではキャリア形成について考え、「学問的人間論」では多様な学問領域から見た「人間」の多様な側面を理解します。

2. 教養教育科目

教養教育科目は、専門教育科目と並ぶ大学教育の大きな柱の一つで、幅広い教養と豊かな人間性を備えた人材を育成することをめざして設置されています。教養教育科目の履修によって獲得される視野の広さ、洞察力の深さは、本学部の学習の目標である「人間と人間関係について広く深く学ぶ」際に、きわめて重要な知的基盤となります。

このような教養教育の趣旨にそって、人間関係学部では次のような授業科目を開設しています。これらの科目を履修することによって、特定の専門に限定されない幅広いものの見方や考え方をしっかりと身に付けてください。

【領域1 <思想と表現>】 哲学、文学、芸術、心理、言語、人類学

この領域は、人類が培ってきた思想的遺産や、芸術的・文化的遺産の受容のあり方を学び、人間の精神活動全般についての理解を深めることによって、豊かな自己表現能力や判断力を養うことを目的としています。

【領域2 <歴史と社会>】 歴史、法、日本国憲法、経済、社会、地理、教育

地球上のさまざまな地域には、さまざまな人々の歴史、社会の仕組み、生活の在り方、人間形成の営みなどがあります。この領域では、歴史や社会のさまざまな仕組みや事象を総合的に理解することを通して、自分が生きている社会が直面する課題を具体的に把握し、問題を解決し、将来を展望することができるような能力を養うことを目的としています。

【領域3 <自然と科学技術>】 物理の世界、化学の世界、環境の科学、地球の科学、生命の科学

20世紀に格段に進歩した科学技術は、さまざまな形で私たちの生活を豊かにしてきた一方、環境問題や急激な人口増加など、私たちの暮らしにマイナスの影響を与えていることも明らかになってきました。

こうした現実を踏まえて、この領域では、自然環境や科学技術についての基礎知識や最新情報を学び、これらの知見に基づいて私たちのこれからの生き方を選択・決定していく能力を養うことを目的としています。

【領域4 <数理と情報>】 数理の世界、統計の世界、コンピュータと情報Ⅰ・Ⅱ

コンピュータに関する知識や技術は、現代の日本で暮らししていく上で、不可欠のものとなりつつあります。そこでこの領域では、コンピュータの操作技術や利用する上でのマナー、情報処理システムの構造や原理、さらには数理科学の思考方法や統計学の基礎を学び、これからの社会において必要とされる、情報処理の能力や技術、数理感覚を養うことを目的としています。

【領域5＜言語とコミュニケーション＞】外国語（英語）

外国語による言語能力とは、単に聞く・話す・読む・書く能力にとどまらず、言語の理解自体を通して得られる人間に対する深い洞察や、各自の人間性の涵養をも意味します。また、外国語の学習は異文化研究、異文化理解へのステップともなります。この領域では、こうした外国語による言語能力を養うことを目的としています。

【領域6＜健康とスポーツ＞】健康とスポーツの理論、健康科学、スポーツ実習 A・B

充実した学生生活の基盤となる心身の健康の保持増進を図ると共に、生涯にわたって健康で人間性豊かな生活を送るために、健康やスポーツに対する理解は重要です。この領域では、自分の身体への気づき、スポーツ技術の獲得、競争と共同の楽しみ、達成の喜び、身体的なコミュニケーションなどを通して、スポーツ文化を愛好する能力を養うことを目的としています。

【領域7＜女性とキャリア＞】ファーストイヤーゼミ、仕事学入門、ライフデザイン、ピア・サポート理論と実践、インターンシップ I・II、ジェンダー論入門、安全学、日本語表現法基礎、時事問題の理解

ファーストイヤーゼミは、大学における学習の仕方について学ぶための科目です。1年次前期に開講される少人数の演習形式の授業です。時間割の組み立て方、文献の探し方、資料のまとめ方、レポートの書き方、研究発表の方法など、ここでまずしっかりと大学における学習スタイルを身につけてください。ファーストイヤーゼミ以外の科目も、自分の人生を主体的に生きていくうえで、必要になる知見を養うことを目的としています。社会で活躍できる基礎的能力やスキルを育成するとともに、自らライフデザインを描き、キャリアを形成するための基礎力を育成します。

3. 専門教育科目**(I) 基幹科目**

「基幹科目」は両学科で共通に開講される「学部共通科目」とそれぞれの学科ごとに開講される「学科共通科目」「学科共通演習実習科目」からなっています。

(a) 学部共通科目

「人間関係論 A」「人間関係論 B」の2科目あり、哲学、心理学、社会学、教育学それぞれの視点から、人間関係に関する知識や考え方の基本が論じられます。いずれも、人間関係学部に入學後、人間と人間関係について「広く深く」学んでいく第一歩として、1年次で履修することになっている大切な科目です。

(b) 学科共通科目

人間関係学科では、「人間関係の諸相 A・B・C」の3科目があります。いずれも「人間関係」に焦点を当てながら、現代社会で私たちが直面するさまざまな問題が入門的に論じられます。

心理学科では、「心理学概論」「心理学研究法」「心理学統計法」「心理学統計法特論」の4科目があり、いずれも心理学を学んでいく上で基礎となるもので、どの専門領域に進もうとも必要となる科目です。

両学科とも、「学科共通科目」はすべて必修科目なので、配当されている学年次に全員が履修してください。

(c) 学科共通演習実習科目

人間関係学科独自の科目として、「基礎演習A・B」があります。これは2年次に開講される必修科目で、少人数討論型の授業です。「人間と人間関係」に関わるテーマをどのように探求していけばよいのかを発表や討議を通して学びます。同時に1年次の「ファーストイヤーゼミ」で学んだ発表・討論・レポート作成の知識・技能をさらに磨いていきます。

心理学科独自の科目として、「心理学実験」「心理学特殊実験」があります。これは2年次に開講される必修科目で、心理学を学んでいく上で基礎となるさまざまな研究手法を学ぶものです。

両学科に共通する必修科目として、3年次後期に開講される「卒論事前指導ゼミ」があります。この科目は、4年次に作成する卒業論文の準備を行うためのものです。どのような内容の卒業論文を作成するかに応じて、指導教員を選択することになります。

(II) 発展科目

「発展科目」には、人間関係に関連したさまざまな学問領域の知識や考え方を学ぶための科目がそろっています。すべての科目が、いずれかの「モジュール」と関連づけられています（「モジュール」については、第6章を参照）。ごく一部の科目を除いて、両学科で共通に開講されています。

一部の科目は1年次から、多くの科目は2年次以降に履修できます。履修計画やモジュールのところで改めて述べますが、1年次から2年次にかけてはまず幅広い知識や洞察力の獲得を目標として、それぞれのモジュールの基礎となる科目を履修し、学年が進んでいくにつれ、自分自身の関心や将来の目標に応じたより専門的な科目を履修するという形が望ましい履修スタイルになります。

(III) 関連科目

「関連科目」として区分されている科目は、教職や学芸員などの資格取得に必要な科目です。それらはまた、人間関係や心に関わる問題について考えていくうえで間接的に役立つような学問領域の知識や考え方について学ぶ科目でもあります。

(IV) 演習実習科目

「演習」は3・4年次に開講される少人数で行われる討論・対話型の授業です。担当教員がそれぞれの専門を生かした授業目標で「演習」を開講しており、学生は自分の関心に従ってそれらの中からいくつかを選択履修することになっています。授業方法は一般的にその目標に沿った「文献の輪読」「資料収集」「学生による発表と討論」などです。学生は其中で自分のテーマに関する洞察を深めるとともに、文献の読解力、資料収集分析の技能、発表と討論の力などをさらに鍛えることが授業の目的になります。

「ケースメソッド」は、「演習」と同じように3・4年次に開講されている科目です。学生自身の発表や討論を通じて授業テーマに関する洞察を深めるという点では「演習」と共通していますが、「ケースメソッド」では、実践や実習、体験を重視した内容になっています。「具体的な事件を扱う」「野外調査をする」「学外施設を見学する」「特定の人物・作品を論じる」など、教員によって授業の具体的なやり方は異なりますが、<事例を扱う><具体的なものを扱う>という点で全てのケースメソッドには共通性があります。

その他、資格取得に必要な演習や実習が含まれています。

(V) 卒業論文

卒業論文は、4年間の学生生活の総括として取り組む課題です。入学以来の勉学生活のなかで少しずつ明確になり、「卒論事前指導ゼミ」の履修などを通して探求がなされてきた「自分のテーマ」を、4年次の1年間かけて更に探求し1つの形にまとめ上げたものが卒業論文です。卒業論文を提出した後に「卒業論文発表会」が予定されており、論文の内容を口頭で発表することも義務づけられています。

＜教員による支援＞

大学では、どの科目をどのように組み合わせるかを履修するかということは基本的には学生自身の選択に任せられています。学生の皆さんの興味や関心がなによりも尊重・優先されます。しかし、自分の関心のある分野を学ぶにはどのようなモジュールや科目を選択したらよいのか、自分自身が取り組みたいと思っているテーマに関係するのはどのような科目なのか、大学卒業後に目指している職業に就くためにはどのように学修を進めていったらよいのかといった疑問に対する助言が必要になったら、遠慮なく教員に尋ねてください。教員は可能な限り学生の皆さんへの支援を行います。

1年次

人間論

アドミッション・ポリシー

人間関係学科では、教育上の目的を実現するために、授業科目を履修する上で必要な基礎的な能力及び学習意欲を持ち、さらに以下の能力関心を
持った人を受け入れます。

1. 自分自身や自分の周囲の人との人間関係やそれを取り巻く社会に強い関心を持っていること
2. 自分から問題や課題を発見しその解決に取り組みつとめる積極的な意欲や態度を持っていること
3. 高校までの勉学を通して、学習の場でのコミュニケーションに必要な理解力と表現力を身に付けていること

- <領域 1>
思想と表現
心理など
- <領域 2>
歴史と社会
社会など
- <領域 3>
自然と科学技術
生命の科学など
- <領域 4>
数理と情報
コンピュータと情報Iなど
- <領域 5>
言語とコミュニケーション
外国語など
- <領域 6>
健康とスポーツ
スポーツ実習 A など
- <領域 7>
女性とキャリア
ファーストイヤーゼミなど

- <学部共通科目>
人間関係論 A・B
- <学科共通科目>
人間関係の諸相 A・B

若者と居場所

- ・子ども・家庭福祉論

生活と福祉

- ・社会福祉論 A など

生/性の多様性

- ・ジェンダー・セクシュアリティ論 A

職業とライフキャリア

- ・ライフスタイル論など

子どもと子育て

- ・親子関係論

生命・身体・文化

- ・文化人類学など

2年次

3年次

4年次

< 学科共通科目 >
人間関係の諸相 C
< 学科共通演習・実習科目 >
基礎演習 A・B

< 学科共通演習・実習科目 >
卒論事前指導ゼミ

- | | |
|-------------------------|------------------|
| ⇒ 青少年論 A、国際化と教育など | ⇒ 学校と社会など |
| ⇒ ソーシャルワークI、地域社会論など | ⇒ 司法福祉論など |
| ⇒ 女性と社会B、国際社会とジェンダーなど | ⇒ 女性と職業生活 B など |
| ⇒ 女性とライフステージ、産業・組織心理学など | ⇒ 組織と人間、生活意識論など |
| ⇒ 児童心理学、子ども論など | ⇒ 発達臨床心理学など |
| ⇒ 生命科学と人間、比較文化論など | ⇒ 生涯スポーツの方法と技術など |

ケースメソッド・演習

卒業論文

ディプロマ・ポリシー

人間関係学科は、人間と人間関係、またそれらの多様性について、広範な知識、総合的な判断力及び深い洞察力を有し、人間と人間関係上の諸問題を解決するために行動する人材を養成することを目的としています。

1. 人間と人間関係に関する幅広い知識と理解
2. 人と関わり、他者を理解する力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力
3. 生活の中に人間関係に関わる諸問題を発見し、解決しようとする態度
4. 総合的、学際的な視点と知識を身に付け、人間関係に関して獲得した知識・技能・態度等を活用して、今後の社会において、創造力、批判的思考力、実践力をもって人と関わり生きていく力

教養教育科目

1年次

人間論

アドミッション・ポリシー

心理学科では、教育上の目的を実現するために、授業科目を履修する上で必要な基礎的な能力及び学習意欲を持ち、さらに以下の能力・関心を持つた人を受け入れます。

1. 人間と心理について強い関心を持っていること
2. 身近な現象の中から人間や心理に関する課題を発見し、その課題解決に取り組みようとする積極的な意欲や態度を持っていること
3. 高校までの勉学を通して、基礎学力を身に付け、物事に継続的に取り組む姿勢を有し、積極的にコミュニケーションする意欲を持っていること

<領域 1>
思想と表現
心理など

<領域 2>
歴史と社会
社会など

<領域 3>
自然と科学技術
生命の科学など

<領域 4>
数理と情報
コンピュータと情報Iなど

<領域 5>
言語とコミュニケーション
外国語など

<領域 6>
健康とスポーツ
スポーツ実習 A など

<領域 7>
女性とキャリア
ファーストイヤーゼミなど

<学部共通科目>
人間関係論 A・B
<学科共通科目>
心理学概論、心理学研究法

対人関係と社会

・社会・集団・家族心理学 A など

認知と行動

・知覚・認知心理学など

生涯発達と支援

・発達心理学など

心理臨床と医療

・人体の構造と機能及び疾病など

職業とライフキャリア

・ライフスタイル論など

子どもと子育て

・乳幼児心理学など

生命・身体・文化

・文化人類学など

2年次

3年次

4年次

< 学科共通科目 >

心理学統計法、心理学統計法特論

< 学科共通演習・実習科目 >

心理学実験、心理学特殊実験

< 学科共通演習・実習科目 >

卒論事前指導ゼミ

⇒ 教育・学校心理学、司法・犯罪心理学など ⇒ 関係行政論など

⇒ 感情・人格心理学、比較行動学など ⇒ 生涯スポーツの方法と技術など

⇒ 青年心理学、福祉心理学など ⇒ 非行問題など

⇒ 障害者・障害児心理学、心理学的支援法など ⇒ 心理的アセスメントなど

⇒ 産業と労働、産業・組織心理学など ⇒ 生涯学習論など

⇒ 家族社会論、子育ての心理学など ⇒ 学校と社会など

⇒ 生命倫理学、身体としての人間など ⇒ 地球環境と人間など

ケースメソッド・演習

卒業論文

ディプロマ・ポリシー

心理学科は、人間と心理について、広範な知識、総合的な判断力及び深い洞察力を有し、様々な心理学の考え方や手法から実際の場面に即したものを選択し、それを適用できる実践力によって、人間と心理に関する諸問題を解決することができる人材を養成します。

1. 人間と心理に関する幅広くかつ深い知識と理解
2. 人と関わり、他者を理解する力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力
3. 人間や心理に関する諸問題を発見し、それらを科学的に分析する技能及び実践的に問題解決を図る態度
4. 総合的、学際的な視点から主体的に判断し、人間と心理に関して獲得した知識・技能・態度等を活用して、今後の社会において、創造力、批判的思考力、実践力をもって人と関わって生きていく力

教養教育科目

(1) モジュール

人間関係学部では、4年間の学習によって、なにを修得したかが明確になるように以下の表のような11の「モジュール」を設定しています。このうち、人間関係学科の学生は6つのモジュールを、心理学科の学生は7つのモジュールを履修することができます。

人間関係学科		心理学科	
モジュール名	若者と居場所	モジュール名	対人関係と社会
	生活と福祉		認知と行動
	生 / 性の多様性		生涯発達と支援
	職業とライフキャリア		心理臨床と医療
	子どもと子育て		職業とライフキャリア
	生命・身体・文化		子どもと子育て
			生命・身体・文化

各モジュールの内容は、P 2 - 30 から P 2 - 31 に示されている通りです。

それぞれのモジュールは、主要科目、展開科目、そして演習科目からなっています。学生は自分自身の興味や関心に基づき、1つのモジュールを選択し、各モジュールが指定する科目を履修していきます。そして決められた単位数を取得し、かつそのモジュールに関連した内容の卒業論文を作成することで、そのモジュールを履修したと認定されます。これがメインモジュールです。学生は必ず1つのメインモジュールを選択し、履修する必要があります（必修です）。学位記（卒業証書）と合わせて、メインモジュール名が記載された「履修証明書」を受け取ることができます。それぞれのモジュールの履修に必要な科目や単位数はP 2 - 32 から P 2 - 42 に記載されています。

また学生はサブモジュールを設定することもできます。これはメインモジュールと違って卒業論文作成の必要がありません。メインモジュールと違い、すべての学生がサブモジュールを設定する必要はありません。また履修状況に余裕がある場合には、サブモジュールを複数設定することも可能です。サブモジュールを履修したと認定されると履修証明書にメインモジュールと合わせて、その旨が記載されます。

なおメインモジュールの履修を認定する科目とサブモジュールの履修を認定する科目を兼ねることについては、専門教育科目では可能ですが、演習実習科目では不可とします。

(2) 履修モデル

必修であるメインモジュールの履修に加えて、おもに次の3つのパターンの履修モデルが考えられます。

①資格取得を目指すパターン

人間関係学科の学生で社会福祉士受験資格の資格取得を目指したり、心理学科の学生で公認心理師受験資格や大学院に進学した後の臨床心理士受験資格の取得を目指したりするパターンです。この場合、1つのメインモジュールを選択し、必要となる科目を履修するとともに、それぞれの資格取得に必要な科目や関連する科目も履修していくものです。メインモジュールは、取得を目指す資格と直接関係するモジュールでもよいですし、自分の関心に合わせて資格取得とは直接関わらないモジュールを選択することも可能です。また履修状況に余裕があれば、サブモジュールを追加して設定することも可能です。

②サブモジュールも履修するパターン

卒業論文作成まで行うメインモジュールに加え、他のモジュールについても履修するパターンです。各モジュールが設定する単位のうち、卒業論文を除く単位を取得することで、サブモジュールを履修したと認定されます。その結果、履修証明書には、メインモジュール名とともに、サブモジュール名も記載されることとなります。履修状況に余裕がある場合には、サブモジュールを複数設定することも可能です。

③幅広い学修を目指すパターン

メインモジュールの履修に加え、学部・学科が用意する専門科目を幅広く学ぶことで、より広範な知識や技術の習得を目指すパターンです。人間関係学部には、10のモジュールを構成する幅広い科目が用意されています。それらを自分自身の関心や興味に基づいて多様に履修し、メインモジュールの学修に役立てようとするものです。

履修証明を取得する要件

学則	履修基準		メインモジュール		サブモジュール	
専門教育科目	発展科目	主要科目	6単位以上 選択履修	20単位以上 選択履修	6単位以上 選択履修	20単位以上 選択履修
		展開科目	8単位以上 選択履修		8単位以上 選択履修	
演習実習科目	演習科目	ケースメソッド*	2単位以上選択履修		2単位以上選択履修	
		演習				
卒業論文	卒業論文	卒業論文	8単位必修		—	

学科	モジュール名	モジュールの概要
人間関係学科	若者と居場所	近年、子ども・若者をめぐって、居場所づくりや居場所探しが様々な場面で語られています。このモジュールでは、教育、福祉、地域、家族、友人、労働、情報社会といったキーワードから「居場所が求められる社会的背景とは何か?」「居場所をもつ意味とは何か?」といった問いを考えることで、現代社会特有の子ども・若者の人間関係や、それが生み出す「生きにくさ」などについて理解を深めていきます。こうした学びを通じて、これからの生き方を支える居場所のあり方を具体的に構想することを目指します。
	生活と福祉	私たちの生活は、便利で手軽になる一方で、社会の分断によって危険で不安定になりつつあります。人として「生きる権利」が貧困、孤立、差別、排除、虐待、搾取、暴力等によって簡単に脅かされてしまうのです。こうした社会生活を営む上で生じる困難の背後には何があるのか。そして、どのような制度やサービスが私たちの生活を支えているのか。家族、地域、学校、職場、行政の役割や責任、そして連携を問い直すことによって、「個人の尊厳」や「他者との共生」、「生活の保障」について考えます。
	生 / 性の多様性	人の生き方、人の性のあり方は人の数だけ存在します。どのような人を好きになり、どのようなパートナーシップを築いていきたいか、自分はどのように生きていきたいか、社会や他者が期待する性に関する役割や期待をどう受け止め、実践していくか、それらのスタイルは多様化しています。何気ない日常、学校・職場等の人間関係において、ジェンダーやセクシュアリティは密接に関連しています。LGBT等の性的マイノリティをめぐる議論、すべてのひとの性をめぐる問題、個人の生 / 性の尊重について学ぶことで、自分らしい生き方を探究します。
	職業とライフキャリア	職種や職位だけでなく、職業上の経験や意味づけを含めた主体的で生涯にわたる営みを、職業キャリアといいます。女性の職業キャリアは、男性中心の労働社会のルールの下、自身や家族のライフイベント等により、その形成が難しい側面がありました。しかし、現在は女性も積極的に参画・活躍していく社会に変化しつつあります。学生時代に今後の女性の働き方について考えることは、自身のキャリア形成につながるのみならず、社会への新しい提言になります。このような考え方にに基づき、未来創造的な働き方・生き方について考えます。
	子どもと子育て	子どもを取り巻く環境はますます複雑化しています。待機児童問題を機に保育制度は大きく変わろうとしていますし、シングル・ペアレントやアロマザー（実母ではない子育て者）など家庭での子育ても多彩になってきています。親になる（あるいは、保育者になる）というライフスタイルを選ぶか否かにかかわらず、一人の女性として次の世代を担う子ども達との関係は避けて通ることはできません。子育てを巡る課題と可能性について考えてみましょう。
	生命・身体・文化	生命と身体は、それらなしでは私たちの存在がそもそもありえないという点で最もベーシックなものです。そして、すべての生きとし生けるものがみな共通にたった一つのかげがえのない生命と身体を有しているながらも、たとえば生命に対する考え方や身体へのまなざしは現代の私たちとそれ以前の人びととで異なり、同じ現代人でも文化や宗教、民族の違いによってさまざまに異なります。本モジュールでは、哲学・倫理学や身体論、生命科学、表象文化論、文化人類学など広範囲な視座から、人間の生命と身体、文化が孕む多彩な謎に迫っていきます。

学科	モジュール名	モジュールの概要
心理学科	対人関係と社会	人間はひとりで存在するのではなく、家族、学校やクラス、部活やサークル、職場、そして地域というさまざまな種類の社会や集団の中で生きており、その中で感情・行動・価値観・態度など心の要素が形成されていきます。また集団や組織に所属するからこそ自分ひとりでは叶えられない大きな目的が達成できるという一方で、人と関わることで葛藤や対立を経験することがあります。いくつかの理論や実践を踏まえ、集団や組織の働きやそこで のより良い対人関係について考えます。
	認知と行動	認知とは世界を認識するための情報処理プロセスで、外界に向けて開いた「心の窓」とも言えます。しかし「心の窓」は見えないので、観察可能な行動を通して科学的にアプローチします。人間の心の3つの側面、すなわち「知的行動」、「感情」、「意志」の意味とメカニズムの理解をめざして、日常的な行動の背後にある心のしくみ、心と身体との関係、コミュニケーションの機能と情報伝達、さらには社会や文化の中の行動について学び、実証的方法によるアプローチを考えます。
	生涯発達と支援	生涯発達とは、乳幼児期から老年期までの生涯にわたる人間の発達を捉える視点です。乳幼児期における母子保健領域、こども園や保育所・老年期における社会福祉領域、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学などの学校教育機関、成人期・壮年期における家庭や産業労働領域、さらにはさまざまな時期に生じる障害など多様な領域・文脈における人の発達を理解し、支援する視点が求められるようになっていきます。認知・パーソナリティ・家族やその他の人々との対人関係など多面的に発達を概観し、ニーズのある人々を支援するための技法なども学びます。
	心理臨床と医療	心理臨床とは、人が生きていく上で生じる悩みや不安、問題に対して、発達やパーソナリティなどの心理学、生理学や精神医学などをふまえて理解するとともに、こうした心の問題を抱える人に対して、対人的なかかわりを通して援助をすることを示します。現代は、さまざまな情報が氾濫し、子どもから大人までさまざまなストレスに直面し、不適応に陥る人が増えています。このような現代社会における「心の病」に対する心理学的な理解と、それをふまえてさまざまに検討されてきた臨床現場における援助の技法について学びます。
	職業とライフキャリア	職種や職位だけでなく、職業上の経験や意味づけを含めた主体的で生涯にわたる営みを、職業キャリアといいます。女性の職業キャリアは、男性中心の労働社会のルールの下、自身や家族のライフイベント等により、その形成が難しい側面がありました。しかし、現在は女性も積極的に参画・活躍していく社会に変化しつつあります。学生時代に今後の女性の働き方について考えることは、自身のキャリア形成につながるのみならず、社会への新しい提言になります。このような考え方にに基づき、未来創造的な働き方・生き方について考えます。
	子どもと子育て	子どもを取り巻く環境はますます複雑化しています。待機児童問題を機に保育制度は大きく変わろうとしていますし、シングル・ペアレントやアロマザー（実母ではない子育て者）など家庭での子育ても多彩になってきています。親になる（あるいは、保育者になる）というライフスタイルを選ぶか否かにかかわらず、一人の女性として次の世代を担う子ども達との関係は避けて通ることはできません。子育てを巡る課題と可能性について考えてみましょう。
	生命・身体・文化	生命と身体は、それらなしでは私たちの存在がそもそもありえないという点で最もベーシックなものです。そして、すべての生きとし生けるものがみな共通にたった一つのかけがえのない生命と身体を有しているながらも、たとえば生命に対する考え方や身体へのまなざしは現代の私たちとそれ以前の人びととで異なり、同じ現代人でも文化や宗教、民族の違いによってさまざまに異なります。本モジュールでは、哲学・倫理学や身体論、生命科学、表象文化論、文化人類学など広範囲な視座から、人間の生命と身体、文化が孕む多彩な謎に迫っていきます。

(1) 若者と居場所

学則区分	モジュール区分	授業科目	単位数	備考
発展科目	主要科目	青少年論 A	2	6単位以上 選択履修
		青少年論 B	2	
		現代教育論	2	
		国際化と教育	2	
		教師の世界	2	
		非行問題	2	
		子ども・家庭福祉論	2	
		学校と社会	2	
		地域社会と人間	2	
		現代社会論	2	
	展開科目	人間形成の思想	2	8単位以上 選択履修
		子ども論	2	
		子育ての心理学	2	
		生涯学習論	2	
		福祉コミュニティ論	2	
		貧困に対する支援	2	
		司法福祉論	2	
		家族社会論	2	
		地域社会論	2	
		社会調査論	2	
		社会調査の技法	2	
		データの整理と分析	2	
		フィールドワーク論	2	
		情報科学と人間 A	2	
		情報科学と人間 B	2	
		文化人類学	2	
		比較文化論	2	
		情報倫理学	2	
		臨床哲学	2	
		女性と社会 A	2	
		女性と職業生活 A	2	
		女性と職業生活 B	2	
		生徒指導論（進路指導を含む。）	2	
		教育相談	2	
		ジェンダー・セクシュアリティ論 A	2	
		国際社会とジェンダー	2	
女性史	2			
教育・学校心理学	2			
青年心理学	2			
司法・犯罪心理学	2			
マスメディア論	2			
コミュニケーション論	2			
演習科目	ケースメソッド	1	2単位以上選択必修	
	演習	1		
卒業論文	卒業論文	8	8単位必修	

(2) 生活と福祉

学則区分	モジュール区分	授業科目	単位数	備考	
発展科目	主要科目	社会福祉論 A	2	6単位以上 選択履修	
		社会福祉論 B	2		
		福祉コミュニティ論	2		
		障害者福祉論	2		
		ソーシャルワークの基礎	2		
		家族社会論	2		
		地域社会論	2		
		ライフスタイル論	2		
		生活意識論	2		
	展開科目		保育論	2	8単位以上 選択履修
			親子関係論	2	
			国際化と教育	2	
			非行問題	2	
			社会保障論 A	2	
			社会保障論 B	2	
			貧困に対する支援	2	
			福祉サービスの組織と経営	2	
			子ども・家庭福祉論	2	
			高齢者福祉論	2	
			ソーシャルワーク論 I	2	
			ソーシャルワーク論 II	2	
			ソーシャルワーク I	2	
			ソーシャルワーク II	2	
			ソーシャルワーク III	2	
			人体の構造と機能及び疾病	2	
			権利擁護を支える法制度	2	
			司法福祉論	2	
			保健医療	2	
			社会学概論	2	
			地域社会と人間	2	
			産業と労働	2	
			組織と人間	2	
			現代社会論	2	
社会調査の技法	2				
社会調査論	2				
女性とライフステージ	2				
女性と社会 B	2				
女性と職業生活 A	2				
ジェンダー・セクシュアリティ論 B	2				
心理学総論	2				
福祉心理学	2				
演習科目	ケースメソッド	1	2単位以上選択必修		
	演習	1			
卒業論文	卒業論文	8	8単位必修		

(3) 生／性の多様性

学則区分	モジュール区分	授業科目	単位数	備考	
発展科目	主要科目	比較文化論	2	6単位以上 選択履修	
		生命倫理学	2		
		女性と社会 A	2		
		女性と社会 B	2		
		女性と職業生活 A	2		
		女性と職業生活 B	2		
		ジェンダー・セクシュアリティ論 A	2		
		ジェンダー・セクシュアリティ論 B	2		
		国際社会とジェンダー	2		
		女性史	2		
	展開科目	人間形成の歴史	2	8単位以上 選択履修	20単位以上 選択履修
		人間形成の思想	2		
		青少年論 A	2		
		親子関係論	2		
		現代教育論	2		
		生涯学習論	2		
		社会福祉論 A	2		
		子ども・家庭福祉論	2		
		人体の構造と機能及び疾病	2		
		家族社会論	2		
		産業と労働	2		
		現代社会論	2		
		社会調査論	2		
		地球環境と人間	2		
		生命科学と人間	2		
		文化人類学	2		
		人間の歴史	2		
		身体としての人間	2		
		スポーツ文化論	2		
		生涯スポーツの方法と技術	2		
		ライフスタイル論	2		
		女性とライフステージ	2		
		生活意識論	2		
		心理学総論	2		
感情・人格心理学	2				
発達心理学	2				
産業・組織心理学	2				
社会・集団・家族心理学 A (社会・集団心理学)	2				
社会・集団・家族心理学 B (家族心理学)	2				
比較行動学	2				
発達臨床心理学	2				
演習科目	ケースメソッド	1	2単位以上選択必修		
	演習	1			
卒業論文	卒業論文	8	8単位必修		

(4) 職業とライフキャリア

学則区分	モジュール区分	授業科目	単位数	備考	
発展科目	主要科目	産業・組織心理学	2	6単位以上 選択履修	
		生涯スポーツの方法と技術	2		
		ライフスタイル論	2		
		国際社会とジェンダー	2		
		生涯学習論	2		
		組織と人間	2		
		女性とライフステージ	2		
		女性史	2		
		女性と職業生活 A	2		
		女性と職業生活 B	2		
		産業と労働	2		
	展開科目	知覚・認知心理学	2	8単位以上 選択履修	20単位以上 選択履修
		学習・言語心理学	2		
		感情・人格心理学	2		
		社会・集団・家族心理学 A (社会・集団心理学)	2		
		社会心理学特論	2		
		青年心理学	2		
		成人心理学	2		
		行動心理学	2		
		健康・医療心理学	2		
		ジェンダー・セクシュアリティ論 A	2		
		社会学概論	2		
		社会福祉論 A	2		
		社会福祉論 B	2		
		地域社会論	2		
		社会保障論 A	2		
		社会保障論 B	2		
		生徒指導論 (進路指導を含む。)	2		
		教育相談	2		
		教師の世界	2		
		青少年論 A	2		
		青少年論 B	2		
		人間形成の歴史	2		
		コミュニケーション論	2		
地域社会と人間	2				
女性と社会 A	2				
女性と社会 B	2				
エスニシティ論	2				
情報科学と人間 B	2				
情報倫理学	2				
司法福祉論	2				
演習科目	ケースメソッド	1	2単位以上選択必修		
	演習	1			
卒業論文	卒業論文	8	8単位必修		

(5) 子どもと子育て

学則区分	モジュール区分	授業科目	単位数	備考
発展科目	主要科目	社会・集団・家族心理学 B (家族心理学)	2	6単位以上 選択履修
		親子関係論	2	
		子育ての心理学	2	
		発達心理学	2	
		乳幼児心理学	2	
		児童心理学	2	
		子ども論	2	
		子どもと遊び	2	
		子ども・家庭福祉論	2	
		家族社会論	2	
	展開科目	臨床心理学概論	2	8単位以上 選択履修
		成人心理学	2	
		発達臨床心理学	2	
		障害者・障害児心理学	2	
		福祉心理学	2	
		教育・学校心理学	2	
		生命倫理学	2	
		生涯スポーツの方法と技術	2	
		ジェンダー・セクシュアリティ論 A	2	
		ジェンダー・セクシュアリティ論 B	2	
		国際社会とジェンダー	2	
		地域社会論	2	
		障害者福祉論	2	
		保育論	2	
		幼児教育論	2	
		現代教育論	2	
		国際化と教育	2	
		学校と社会	2	
		青少年論 B	2	
		非行問題	2	
		コミュニケーション論	2	
		女性とライフステージ	2	
		女性と社会 B	2	
女性史	2			
女性と職業生活 B	2			
生活意識論	2			
情報科学と人間 B	2			
社会調査の技法	2			
データの整理と分析	2			
演習科目	ケースメソッド	1	2単位以上選択必修	
	演習	1		
卒業論文	卒業論文	8	8単位必修	

(6) 生命・身体・文化

学則 区分	モジュール 区分	授 業 科 目	単位数	備 考
発 展 科 目	主 要 科 目	比較行動学	2	6単位以上 選択履修
		社会心理学特論	2	
		生命倫理学	2	
		身体としての人間	2	
		社会福祉論 A	2	
		地域社会と人間	2	
		文化人類学	2	
		比較文化論	2	
		エスニシティ論	2	
		生命科学と人間	2	
	展 開 科 目	知覚・認知心理学	2	8単位以上 選択履修
		神経・生理心理学	2	
		児童心理学	2	
		子どもと遊び	2	
		障害者・障害児心理学	2	
		福祉心理学	2	
		臨床哲学	2	
		スポーツ文化論	2	
		生涯スポーツの方法と技術	2	
		ジェンダー・セクシュアリティ論 B	2	
		ライフスタイル論	2	
		社会学概論	2	
		社会福祉論 B	2	
		社会調査論	2	
		高齢者福祉論	2	
		幼児教育論	2	
		学校と社会	2	
		人間形成の思想	2	
		人間形成の歴史	2	
		人間の歴史	2	
		フィールドワーク論	2	
		マスメディア論	2	
		現代社会論	2	
組織と人間	2			
地球環境と人間	2			
人間環境論	2			
情報科学と人間 A	2			
情報科学と人間 B	2			
情報倫理学	2			
社会調査の技法	2			
演習 科目	ケースメソッド	1	2単位以上選択必修	
	演習	1		
卒業 論文	卒業論文	8	8単位必修	

(7) 対人関係と社会

学則区分	モジュール区分	授業科目	単位数	備考	
発展科目	主要科目	社会・集団・家族心理学 A (社会・集団心理学)	2	6単位以上 選択履修	
		社会心理学特論	2		
		社会・集団・家族心理学 B (家族心理学)	2		
		行動心理学	2		
		教育・学校心理学	2		
		司法・犯罪心理学	2		
		産業・組織心理学	2		
		臨床哲学	2		
		地域社会論	2		
	展開科目	臨床心理学概論	2	8単位以上 選択履修	20単位以上 選択履修
		認知心理学特論	2		
		学習・言語心理学	2		
		比較行動学	2		
		子育ての心理学	2		
		乳幼児心理学	2		
		青年心理学	2		
		生命倫理学	2		
		関係行政論	2		
		社会学概論	2		
		社会調査論	2		
		社会保障論 A	2		
		社会保障論 B	2		
		生徒指導論 (進路指導を含む。)	2		
		教育相談	2		
		教師の世界	2		
		青少年論 A	2		
		青少年論 B	2		
		人間の歴史	2		
		フィールドワーク論	2		
		コミュニケーション論	2		
		マスメディア論	2		
		現代社会論	2		
		組織と人間	2		
産業と労働	2				
文化人類学	2				
比較文化論	2				
エスニシティ論	2				
人間環境論	2				
データの整理と分析	2				
演習科目	ケースメソッド	1	2単位以上 選択必修		
	演習	1			
卒業論文	卒業論文	8	8単位必修		

(8) 認知と行動

学則 区分	モジュール 区分	授 業 科 目	単位数	備 考	
発 展 科 目	主 要 科 目	知覚・認知心理学	2	6単位以上 選択履修	
		認知心理学特論	2		
		学習・言語心理学	2		
		感情・人格心理学	2		
		神経・生理心理学	2		
		比較行動学	2		
		行動心理学	2		
		人体の構造と機能及び疾病	2		
		身体としての人間	2		
		人間の歴史	2		
	展 開 科 目	社会・集団・家族心理学 A (社会・集団心理学)	2	8単位以上 選択履修	20単位以上 選択履修
		社会心理学特論	2		
		発達心理学	2		
		乳幼児心理学	2		
		児童心理学	2		
		子どもと遊び	2		
		成人心理学	2		
		心理的アセスメント	2		
		心理学的支援法	2		
		精神分析	2		
		健康・医療心理学	2		
		司法・犯罪心理学	2		
		産業・組織心理学	2		
		精神疾患とその治療	2		
		スポーツ文化論	2		
		生涯スポーツの方法と技術	2		
		生涯学習論	2		
		現代教育論	2		
		フィールドワーク論	2		
		コミュニケーション論	2		
		生活意識論	2		
		文化人類学	2		
		地球環境と人間	2		
人間環境論	2				
生命科学と人間	2				
情報科学と人間 A	2				
情報科学と人間 B	2				
社会調査の技法	2				
データの整理と分析	2				
演習 科目	ケースメソッド	1	2単位以上選択必修		
	演習	1			
卒業 論文	卒業論文	8	8単位必修		

(9) 生涯発達と支援

学則区分	モジュール区分	授業科目	単位数	備考
発展科目	主要科目	親子関係論	2	6単位以上 選択履修
		発達心理学	2	
		乳幼児心理学	2	
		児童心理学	2	
		青年心理学	2	
		成人心理学	2	
		発達臨床心理学	2	
		障害者・障害児心理学	2	
		福祉心理学	2	
		教育・学校心理学	2	
	展開科目	公認心理師の職責	2	8単位以上 選択履修
		臨床心理学概論	2	
		感情・人格心理学	2	
		神経・生理心理学	2	
		比較行動学	2	
		社会・集団・家族心理学 A (社会・集団心理学)	2	
		社会・集団・家族心理学 B (家族心理学)	2	
		子育ての心理学	2	
		子ども論	2	
		子どもと遊び	2	
		心理的アセスメント	2	
		心理学的支援法	2	
		行動心理学	2	
		心理療法	2	
		人体の構造と機能及び疾病	2	
		精神疾患とその治療	2	
		関係行政論	2	
		社会福祉論 A	2	
		子ども・家庭福祉論	2	
		高齢者福祉論	2	
		障害者福祉論	2	
		保育論	2	
		幼児教育論	2	
教育相談	2			
生涯学習論	2			
学校と社会	2			
青少年論 B	2			
非行問題	2			
女性とライフステージ	2			
演習科目	ケースメソッド	1	2単位以上選択必修	
	演習	1		
卒業論文	卒業論文	8	8単位必修	

(10) 心理臨床と医療

学則区分	モジュール区分	授業科目	単位数	備考	
発展科目	主要科目	臨床心理学概論	2	6単位以上 選択履修	
		成人心理学	2		
		障害者・障害児心理学	2		
		心理的アセスメント	2		
		心理学的支援法	2		
		心理療法	2		
		健康・医療心理学	2		
		人体の構造と機能及び疾病	2		
		精神疾患とその治療	2		
	展開科目		公認心理師の職責	2	20単位以上 選択履修
			知覚・認知心理学	2	
			認知心理学特論	2	
			学習・言語心理学	2	
			感情・人格心理学	2	
			神経・生理心理学	2	
			社会・集団・家族心理学 B (家族心理学)	2	
			親子関係論	2	
			子育ての心理学	2	
			発達心理学	2	
			乳幼児心理学	2	
			児童心理学	2	
			青年心理学	2	
			発達臨床心理学	2	
			精神分析	2	
			福祉心理学	2	
			教育・学校心理学	2	
			司法・犯罪心理学	2	
			産業・組織心理学	2	
			生命倫理学	2	
			臨床哲学	2	
			関係行政論	2	
			ジェンダー・セクシュアリティ論 A	2	
			ジェンダー・セクシュアリティ論 B	2	
ライフスタイル論	2				
社会福祉論 B	2				
社会保障論 A	2				
障害者福祉論	2				
教育相談	2				
家族社会論	2				
演習科目	ケースメソッド	1	2単位以上 選択必修		
	演習	1			
卒業論文	卒業論文	8	8単位必修		

人間関係学科

(1) 履修計画について

各学年で履修する科目は、高校とは異なり、一部の科目を除くとあらかじめ決められてはいません。授業の時間割は毎年4月に学生が自分で作るになっています。したがって、先のことを考えずにその時々個々の科目に対する興味関心だけで履修科目を選んでいると、4年間終わったときに「いったい自分は大学で何を勉強したんだろう」ということになりかねません。そうならないようにするためには、各学年の初めにそれぞれの学年に相応しい履修計画を立てることが大切です。

(2) 学年別履修計画のめやす

<1年次>

1年次には、関心を広げて多様な科目を履修することを勧めます。開講されている「教養教育科目」「専門教育科目」全ての中から「授業科目名」「授業内容（シラバス）」をみて興味のありそうな科目を履修してください。仮に入学の時点で「自分のテーマ」を持っていたとしても、そのテーマに関連した科目だけを選ぶというのは望ましくありません。「時間割作成」の手順は、4月のオリエンテーションで説明します。

<2年次>

2年次では、1年次で履修した授業科目・授業内容を踏まえて科目を選択してください。「基礎演習A」「基礎演習B」といった必修科目の履修を通して、人間関係を学ぶための基礎的な手法を身につけます。選択した科目を実際に受講する際には、選択するメインモジュールを意識しながら、「2年次の1年間で自分の学修テーマを発見しよう」という姿勢をより強く持って受講することが重要です。

<3年次>

履修科目の選択は、「大学で何を学んでいるのか」という質問に答えられるような選択の仕方を勧めます。具体的には「選択するメインモジュールと関連するテーマに絞った履修科目選択」です。テーマと無関係に「この科目に興味がある」というだけの理由で履修する科目は少なくする必要があります。逆にテーマの探求に有益な科目は、若干興味をもてなくても履修した方がよい場合もあります。

3年次には「演習」「ケースメソッド」を履修することになります。自らの学修テーマに沿った履修を心がけましょう。さらに、「卒論事前指導ゼミ」もはじまります。これは、4年次における卒業論文の作成がスムーズに進むように、3年次から指導教員を決め、事前に指導を行う制度です。これらを通してそれぞれの学修テーマをより深めていくことが大切です。

<4年次>

4年次においては卒業論文の作成が最大の課題になります。卒論を除くと3年次までに卒業に最低限必要な単位はほとんど取り終わっているという場合もあるかもしれ

ません。しかし、大学生生活を充実した4年間にするためには、4年次においても例えば卒論に関係しそうな科目を履修するなどして、少なくとも週に1日か2日は定期的に大学へ来る日を作ることが望ましいと言えます。

履修単位の目安（人間関係学科）

		必修 単位数	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	
全学共通科目		2	2				2	
教養教育科目	領域1～7	27	13～18	10～12	4～8		27～38	
専門 教育 科目	基 幹 科 目	学部共通科目	4	4			4	
		学科共通科目	6	4	2		6	
		学科共通演習実習科目	3		2	1	3	
	発展科目		30	6～8	16～20	20～22	2～4	46～54
	関連科目		0	2～4	2～4	2～4	2～4	8～16
	ケースメソッド・演習・実習		4			3～4	1～2	4～6
	卒業論文		8				8	8
	小計		(77)					(77～97)
(自由選択)		20	4～6	4～6	6～8	6～8	20～28	
合 計		126	35～46	38～48	36～47	19～26	126以上	

心理学科

(1) 履修計画について

履修計画は、何に関心があるか、どのようなテーマで卒業論文を作成するのか、卒業後の進路をどうするのか等によって各自異なります。そこで、選択履修のためのガイドラインを以下に示しましたので参考にしてください。

(2) 学年別履修のめやす

<1年次>

教養教育科目の履修を通して幅広い知識や考え方を身につけると共に、心理学の輪郭について学びます。専門科目としては、必修科目である学科共通科目の「心理学概論」「心理学研究法」や一部の発展科目を履修します。

<2年次>

学科共通科目の「心理学統計法」や「心理学統計法特論」、学科共通演習実習科目の「心理学実験」と「心理学特殊実験」といった必修科目の履修を通して、心理学の基礎を身につけます。また、引き続き教養教育科目を履修すると共に、メインモジュールの選択を意識しながら発展科目や関連科目を履修し、専門、応用の世界に入る準備を行います。

<3年次>

「演習」や「ケースメソッド」などの実践的な科目を通して、心理学の具体的な問題について学びます。また、専門的な内容の発展科目の履修を通して、選択するメインモジュールと関連する自分の研究テーマを明確にしていき、「卒論事前指導ゼミ」などを通して卒業論文作成の準備を行います。

<4年次>

「卒業論文」の作成が最大の課題となります。4年間の学修の集大成として自分の研究テーマについて深く追究し、論文を完成させます。4年次においても例えば卒業論文に関係しそうな科目を履修するなどして、少なくとも週に1、2日以上定期的に大学へ来る日を作り、主体的に研究に取り組みましょう。このような活動を通して、大学生としての総仕上げでもある最終学年を有意義に過ごしてください。

履修単位の目安（心理学科）

		必修 単位数	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
全学共通科目		2	2				2
教養教育科目	領域1～7	27	13～14	10～12	4～8		27～34
専門 教育 科目	基 幹 科 目	学部共通科目	4	4			4
		学科共通科目	8	4	4		8
		学科共通演習実習科目	5		4	1	5
	発展科目	30	8～12	12～16	20～22	2～4	42～54
	関連科目	0	2～4	2～4	2～4	2～4	8～16
	ケースメソッド・演習	4			3～4	1～2	4～6
	卒業論文	8				8	8
	小計	(77)					(77～101)
(自由選択)		20	4～6	4～6	6～8	4～6	20～26
合 計		126	37～46	36～46	36～47	17～24	126以上

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間関係学科	領域1 思想と表現	哲学		2	○	○	○	うち1科目2単位以上 選択履修
		文学		2	○	○	○	
		芸術		2	○	○	○	
		心理		2	○	○	○	
		言語		2	○	○	○	
	人類学		2	○	○	○		
	領域2 歴史と社会	歴史		2	○	○	○	うち1科目2単位以上 選択履修
		法		2	○	○	○	
		日本国憲法		2	○	○	○	
		経済		2	○	○	○	
		社会		2	○	○	○	
		地理		2	○	○	○	
	領域3 自然と科学技術	物理の世界		2	○	○	○	うち1科目2単位以上 選択履修
		化学の世界		2	○	○	○	
		環境の科学		2	○	○	○	
		地球の科学		2	○	○	○	
	領域4 数理と情報	数理の世界		2	○	○	○	必修を含め2単位以上 選択履修
		統計の世界		2	○	○	○	
		コンピュータと情報Ⅰ	必修	2	○			
		コンピュータと情報Ⅱ		2	○	○	○	
	領域5 言語とコミュニケーション	外国語（英語A）	必修	1	○			必修を含め4単位以上 選択履修 ※外国人留学生は、国際 交流科目のうち所定の日 本語科目4単位必修
		外国語（英語B）	必修	1	○			
		外国語（英語C）	必修	1		○		
		外国語（英語D）	必修	1		○		
		外国語（ドイツ語Ⅰ）		1	○			
		外国語（ドイツ語Ⅱ）		1	○			
		外国語（フランス語Ⅰ）		1	○			
		外国語（フランス語Ⅱ）		1	○			
		外国語（中国語Ⅰ）		1	○	○	○	
		外国語（中国語Ⅱ）		1	○	○	○	
		外国語（ポルトガル語Ⅰ）		1	○	○	○	
		外国語（ポルトガル語Ⅱ）		1	○	○	○	
外国語（スペイン語Ⅰ）			1	○	○	○		
外国語（スペイン語Ⅱ）			1	○	○	○		
外国語（ハンブルⅠ）		1	○	○	○			
外国語（ハンブルⅡ）		1	○	○	○			
領域6 健康とスポーツ	健康とスポーツの理論		2	○	○	○	必修を含め2単位以上 選択履修	
	健康科学		1	○	○	○		
	スポーツ実習A	必修	1	○	○	○		
	スポーツ実習B	必修	1		○	○		
領域7 女性とキャリア	ファーストイヤーゼミ	必修	1	○			うち 27単位 以上必修	
	仕事学入門		2	○	○	○		
	ライフデザイン		2	○	○	○		
	ピア・サポート理論と実践		2	○	○	○		

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間関係学科	女性とキャリア領域7	キャリア形成実習Ⅰ		1		○	○	○	必修を含め1単位以上 選択履修
		キャリア形成実習Ⅱ		1		○	○	○	
		ジェンダー論入門		2	○	○	○	○	
		安全学		2	○	○	○	○	
		日本語表現法基礎		2	○	○	○	○	
		時事問題の理解		2	○	○	○	○	

専門教育科目

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
人間関係学科	基幹科目	学部共通	人間関係論A	必修	2	○			4単位必修	
		人間関係論B	必修	2	○					
		学科共通	人間関係の諸相A	必修	2	○			6単位必修	
	人間関係の諸相B	必修	2	○						
	人間関係の諸相C	必修	2		○					
	習熟科目	学科共通演習	基礎演習A	必修	1		○		3単位必修	
		基礎演習B	必修	1		○				
		卒論事前指導ゼミ	必修	1				○		
	発展科目		乳幼児心理学		2	○	○			
			児童心理学		2	○	○			
			人間形成の歴史		2		○	○		
			人間形成の思想		2			○	○	
			子ども論		2		○	○		
			子どもと遊び		2		○	○		
			保育論		2		○	○		
			幼児教育論		2		○	○		
			青少年論A		2		○	○		
			青少年論B		2		○	○		
			親子関係論		2	○	○			
			子育ての心理学		2		○	○		
			現代教育論		2			○	○	
			国際化と教育		2		○	○		
			生涯学習論		2			○	○	
			教師の世界		2	○	○			
			非行問題		2			○	○	
			社会福祉論A		2	○	○			
			社会福祉論B		2	○	○			
			福祉コミュニティ論		2		○	○		
			社会保障論A		2		○	○		
			社会保障論B		2		○	○		
			貧困に対する支援		2		○	○		
			福祉サービスの組織と経営		2		○	○		
			子ども・家庭福祉論		2	○	○			
			高齢者福祉論		2	○	○			
障害者福祉論				2		○	○			
ソーシャルワーク論Ⅰ				2	○					
ソーシャルワーク論Ⅱ				2	○					
ソーシャルワークの基礎				2	○	○				
ソーシャルワークⅠ		2		○	○					
ソーシャルワークⅡ		2		○	○					
ソーシャルワークⅢ		2			○	○				
人体の構造と機能及び疾病		2	○	○						
権利擁護を支える法制度		2			○	○				
司法福祉論		2			○	○				
保健医療		2	○	○						
社会学概論		2	○	○						

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間関係学科	発展科目	家族社会論	2		○	○		30単位以上選択履修
		学校と社会	2			○	○	
		地域社会論	2		○	○		
		地域社会と人間	2	○	○			
		産業と労働	2		○	○		
		組織と人間	2		○	○	○	
		現代社会論	2		○	○		
		社会調査論	2	○				
		社会調査の技法	2		○			
		データの整理と分析	2		○			
		フィールドワーク論	2		○	○		
		地球環境と人間	2			○	○	
		生命科学と人間	2		○	○		
		エスニシティ論	2	○	○	○		
		情報科学と人間A	2		○	○		
		情報科学と人間B	2		○	○		
		文化人類学	2	○	○			
		比較文化論	2		○	○	○	
		情報倫理学	2	○	○			
		人間の歴史	2		○	○		
		生命倫理学	2		○	○		
		身体としての人間	2		○	○	○	
		スポーツ文化論	2		○	○	○	
		生涯スポーツの方法と技術	2			○	○	
		臨床哲学	2		○	○		
		人間環境論	2		○	○		
		ライフスタイル論	2	○	○			
		女性とライフステージ	2	○	○			
		女性と社会A	2	○	○			
		女性と社会B	2		○	○		
		女性と職業生活A	2		○	○		
		女性と職業生活B	2			○	○	
		生活意識論	2		○	○		
		生徒指導論(進路指導を含む。)	2	○	○			
		教育相談	2			○	○	
		ジェンダー・セクシュアリティ論A	2	○	○			
		ジェンダー・セクシュアリティ論B	2	○	○			
		国際社会とジェンダー	2		○	○		
		女性史	2		○	○	○	
		心理学総論	2	○				
		健康・医療心理学	2		○	○		
		感情・人格心理学	2		○	○		
		教育・学校心理学	2		○	○		
		福祉心理学	2		○	○		
障害者・障害児心理学	2		○	○				
発達心理学	2	○	○					
行動心理学	2		○	○				
青年心理学	2		○	○				
学習・言語心理学	2	○	○					
産業・組織心理学	2		○	○				
社会・集団・家族心理学A(社会・集団心理学)	2	○	○					
社会・集団・家族心理学B(家族心理学)	2		○	○				
司法・犯罪心理学	2		○	○				
成人心理学	2		○	○				

専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間関係学科	発展科目	比較行動学		2		○	○	
		知覚・認知心理学		2	○	○		
		神経・生理心理学		2	○	○		
		発達臨床心理学		2			○	○
		社会心理学特論		2		○	○	
		マスメディア論		2		○	○	
		コミュニケーション論		2		○	○	
		臨床心理学概論		2		○	○	
	関連科目	日本史A		2	○	○	○	
		日本史B		2	○	○	○	
		外国史A		2	○	○	○	
		外国史B		2	○	○	○	
		外国史C		2	○	○	○	
		人文地理学		2	○	○	○	
		自然地理学		2	○	○	○	
		地誌		2	○	○	○	
		法律学（国際法を含む。）		2	○	○	○	
		政治と社会（国際政治を含む。）		2	○	○	○	
		経済学（国際経済を含む。）		2	○	○	○	
		宗教と社会		2	○	○	○	
		カリキュラムの創造		2		○	○	
		教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む。）		2		○	○	○
		博物館概論		2	○	○	○	
		博物館経営論		2		○	○	
		博物館資料論		2		○	○	
		博物館資料保存論		2		○	○	
	博物館展示論		2		○	○		
	博物館教育論		2		○	○		
	博物館情報・メディア論		2		○	○	○	
	演習実習科目	社会調査実習A		1			○	
		社会調査実習B		1			○	
		海外演習A		2	○	○	○	○
		海外演習B		2	○	○	○	○
ケースメソッド		必修	1			○	○	
演習		必修	1			○	○	
	卒業論文	必修	8				○	

4 単位以上選択履修

(2022 年度以降入学生適用)

履修ガイド

授業科目学年配当表（人間関係学科）

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
人間論	必修	2	○				

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
心理学科	領域1 思想と表現	哲学		2	○	○	○	うち1科目2単位以上 選択履修
		文学		2	○	○	○	
		芸術		2	○	○	○	
		心理		2	○	○	○	
		言語		2	○	○	○	
	人類学		2	○	○	○		
	領域2 歴史と社会	歴史		2	○	○	○	うち1科目2単位以上 選択履修
		法		2	○	○	○	
		日本国憲法		2	○	○	○	
		経済		2	○	○	○	
		社会		2	○	○	○	
		地理		2	○	○	○	
	領域3 自然と科学技術	物理の世界		2	○	○	○	うち1科目2単位以上 選択履修
		化学の世界		2	○	○	○	
		環境の科学		2	○	○	○	
		地球の科学		2	○	○	○	
	領域4 数理と情報	数理の世界		2	○	○	○	必修を含め2単位以上 選択履修
		統計の世界		2	○	○	○	
		コンピュータと情報Ⅰ	必修	2	○			
		コンピュータと情報Ⅱ		2	○	○	○	
	領域5 言語とコミュニケーション	外国語（英語A）	必修	1	○			必修を含め4単位以上 選択履修 ※外国人留学生は、国際 交流科目のうち所定の日 本語科目4単位必修
		外国語（英語B）	必修	1	○			
		外国語（英語C）	必修	1		○		
		外国語（英語D）	必修	1		○		
		外国語（ドイツ語Ⅰ）		1	○			
		外国語（ドイツ語Ⅱ）		1	○			
		外国語（フランス語Ⅰ）		1	○			
		外国語（フランス語Ⅱ）		1	○			
		外国語（中国語Ⅰ）		1	○	○	○	
		外国語（中国語Ⅱ）		1	○	○	○	
外国語（ポルトガル語Ⅰ）			1	○	○	○		
外国語（ポルトガル語Ⅱ）			1	○	○	○		
外国語（スペイン語Ⅰ）			1	○	○	○		
外国語（スペイン語Ⅱ）		1	○	○	○			
外国語（ハングルⅠ）		1	○	○	○			
外国語（ハングルⅡ）		1	○	○	○			
領域6 健康とスポーツ	健康とスポーツの理論		2	○	○	○	必修を含め2単位以上 選択履修	
	健康科学		1	○	○	○		
	スポーツ実習A	必修	1	○		○		
	スポーツ実習B	必修	1		○	○		
領域7 女性とキャリア	ファーストイヤーゼミ	必修	1	○			うち 27単位 以上必修	
	仕事学入門		2	○	○	○		
	ライフデザイン		2	○	○	○		
	ピア・サポート理論と実践		2	○	○	○		

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
心理学科	女性とキャリア領域7	キャリア形成実習Ⅰ		1		○	○	○	必修を含め1単位以上 選択履修
		キャリア形成実習Ⅱ		1		○	○	○	
		ジェンダー論入門		2	○	○	○	○	
		安全学		2	○	○	○	○	
		日本語表現法基礎		2	○	○	○	○	
		時事問題の理解		2	○	○	○	○	

専門教育科目

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
心理学科	基幹科目	学部共通科目	人間関係論A	必修	2	○			4単位必修	
			人間関係論B	必修	2	○				
		学科共通科目	心理学概論	必修	2	○				8単位必修
			心理学研究法	必修	2	○				
			心理学統計法	必修	2		○			
		学科共通演習実習科目	心理学実験	必修	2		○			5単位必修
			心理学特殊実験	必修	2		○			
			卒論事前指導ゼミ	必修	1			○		
		発展科目	公認心理師の職責		2		○			
			臨床心理学概論		2		○	○		
			知覚・認知心理学		2	○	○			
			認知心理学特論		2		○	○		
	学習・言語心理学			2	○	○				
	感情・人格心理学			2		○	○			
	神経・生理心理学			2	○	○				
	比較行動学			2		○	○			
	社会・集団・家族心理学A(社会・集団心理学)			2	○	○				
	社会心理学特論			2		○	○			
	社会・集団・家族心理学B(家族心理学)			2		○	○			
	親子関係論			2	○	○				
	子育ての心理学			2		○	○			
	発達心理学			2	○	○				
	乳幼児心理学			2	○	○				
	児童心理学			2	○	○				
	子ども論			2		○	○			
	子どもと遊び			2		○	○			
	青年心理学			2		○	○			
	成人心理学			2		○	○			
	発達臨床心理学			2			○	○		
	障害者・障害児心理学		2		○	○				
	心理的アセスメント		2			○	○			
	心理学的支援法		2		○	○				
	行動心理学		2		○	○				
精神分析		2		○	○					
心理療法		2			○	○				
健康・医療心理学		2		○	○					
福祉心理学		2		○	○					
教育・学校心理学		2		○	○					
司法・犯罪心理学		2		○	○					
産業・組織心理学		2		○	○					
生命倫理学		2		○	○					
臨床哲学		2		○	○					
人体の構造と機能及び疾病		2	○	○						
精神疾患とその治療		2			○	○				
身体としての人間		2		○	○	○				
スポーツ文化論		2		○	○	○				

履修ガイド

授業科目学年配当表(心理学科)

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
心理学科	発展科目	生涯スポーツの方法と技術	2			○	○	30 単位以上選択履修	
		関係行政論	2			○			
		ジェンダー・セクシュアリティ論A	2	○	○				
		ジェンダー・セクシュアリティ論B	2	○	○				
		国際社会とジェンダー	2		○	○			
		ライフスタイル論	2	○	○				
		社会学概論	2	○	○				
		社会福祉論 A	2	○	○				
		社会福祉論 B	2	○	○				
		社会調査論	2	○					
		地域社会論	2		○	○			
		社会保障論 A	2		○	○			
		社会保障論 B	2		○	○			
		子ども・家庭福祉論	2	○	○				
		高齢者福祉論	2	○	○				
		障害者福祉論	2		○	○			
		保育論	2		○	○			
		幼児教育論	2		○	○			
		生徒指導論(進路指導を含む。)	2	○	○				
		教育相談	2			○	○		
		生涯学習論	2			○	○		
		現代教育論	2			○	○		
		教師の世界	2	○	○				
		学校と社会	2			○	○		
		国際化と教育	2		○	○			
		青少年論 A	2		○	○			
		青少年論 B	2		○	○			
		人間形成の思想	2			○	○		
		人間形成の歴史	2		○	○			
		人間の歴史	2		○	○			
		非行問題	2			○	○		
		フィールドワーク論	2		○	○			
		コミュニケーション論	2		○	○			
		マスメディア論	2		○	○			
		現代社会論	2		○	○			
		地域社会と人間	2	○	○				
		組織と人間	2		○	○	○		
		女性とライフステージ	2	○	○				
		女性と社会 A	2	○	○				
		女性と社会 B	2		○	○			
		女性史	2		○	○	○		
		女性と職業生活 A	2		○	○			
		女性と職業生活 B	2			○	○		
		産業と労働	2		○	○			
生活意識論	2		○	○					
家族社会論	2		○	○					
文化人類学	2	○	○						
比較文化論	2		○	○					
エスニシティ論	2	○	○	○					
地球環境と人間	2			○	○	○			
人間環境論	2		○	○					
生命科学と人間	2		○	○					
情報科学と人間 A	2		○	○					
情報科学と人間 B	2		○	○					

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考	
心理学科	発展科目	情報倫理学	2	○	○				
		社会調査の技法	2		○				
		データの整理と分析	2		○				
	関連科目	日本史A		2	○	○	○		
		日本史B		2	○	○	○		
		外国史A		2	○	○	○		
		外国史B		2	○	○	○		
		外国史C		2	○	○	○		
		人文地理学		2	○	○	○		
		自然地理学		2	○	○	○		
		地誌		2	○	○	○		
		法律学（国際法を含む。）		2	○	○	○		
		政治と社会（国際政治を含む。）		2	○	○	○		
		経済学（国際経済を含む。）		2	○	○	○		
		宗教と社会		2	○	○	○		
		カリキュラムの創造		2		○	○		
		教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む。）		2		○	○	○	
		博物館概論		2	○	○	○		
		博物館経営論		2		○	○		
		博物館資料論		2		○	○		
	博物館資料保存論		2		○	○			
	博物館展示論		2		○	○			
	博物館教育論		2		○	○			
	博物館情報・メディア論		2		○	○	○		
	演習実習科目	心理演習		2			○		
		心理実習Ⅰ		1			○		
		心理実習Ⅱ		1			○		
		心理実習Ⅲ		1			○	○	
		社会調査実習A		1			○		
		社会調査実習B		1			○		
海外演習A			2	○	○	○	○		
海外演習B			2	○	○	○	○		
ケースメソッド		必修	1			○	○	} 4単位以上選択履修	
演習		必修	1			○	○		
	卒業論文	必修	8				○		

(2022年度以降入学生適用)

1. 取得できる
免許・資格

本学部で学生の皆さんが所定の単位等を修得することにより、取得できる免許・資格は次のとおりです。

【人間関係学科】

中学校教諭1種免許状（社会）
 高等学校教諭1種免許状（公民）
 学芸員
 社会福祉士（受験資格）
 社会調査士
 児童福祉司（任用資格）（実務1年）
 社会福祉主事（任用資格）
 社会福祉施設職員（任用資格）※児童指導員、生活相談員など
 司書
 司書教諭

【心理学科】

高等学校教諭1種免許状（公民）
 学芸員
 公認心理師（受験資格）
 認定心理士（申請資格）
 認定心理士（心理調査）（申請資格）
 児童福祉司（任用資格）（実務1年）
 児童指導員（任用資格）
 司書
 司書教諭
 社会調査士

* 任用資格に
ついて

任用資格とは、職務に任じて採用する際に求められる要件のことを言います。一般に、その職務を遂行するにあたって、「一定の条件（知識・技能など）を満たしていること」が適切と判断される場合に設けられるものです。

この「一定の条件を満たしていること」については、1) 試験に合格していること、2) 所定の課程を修了していること、3) 所定の学習を修了（具体的には科目を履修し単位を取得）していること、などによって判断されます。それらは、国や公的団体あるいは民間の職能団体などが、試験を実施したり、課程を定めたり、具体的な学習内容を規定したりして、職務を遂行する上で必要となる一定の条件を満たしているかを判定しています。つまり、ここでいう任用資格とは、それらの要件を満たしていることの証明ということです。

2. 教育職員免許状
教育職員免許状の取得をめざす学生は、〔第2部 履修ガイド 10. 教職課程〕の項目を熟読のうえ、履修計画を立ててください。
3. 学芸員
学芸員資格の取得をめざす学生は、〔第2部 履修ガイド 11. 学芸員〕の項目を熟読のうえ、履修計画を立ててください。
4. 社会福祉士（受験資格）
社会福祉士試験受験資格の取得をめざす学生は、〔第2部 履修ガイド 12. 社会福祉士〕の項目を熟読のうえ、履修計画を立ててください。
5. 公認心理師（受験資格）
公認心理師試験受験資格の取得をめざす学生は、〔第2部 履修ガイド 13. 公認心理師〕の項目を熟読のうえ、履修計画を立ててください。
6. 社会調査士
社会調査士の資格取得をめざす学生は、〔第2部 履修ガイド 14. 社会調査士〕の項目を熟読のうえ、履修計画を立ててください。
7. 司書
司書の資格取得をめざす学生は、〔第2部 履修ガイド 15. 司書〕の項目を熟読のうえ、履修計画を立ててください。
8. 司書教諭
司書教諭の資格取得をめざす学生は、〔第2部 履修ガイド 16. 司書教諭〕の項目を熟読のうえ、履修計画を立ててください。
9. 認定心理士、認定心理士（心理調査）（申請資格）
認定心理士とは、心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得している、と日本心理学会が認定する資格です。また、認定心理士（心理調査）は2016年度から取得可能な資格であり、認定心理士資格取得が前提となります。いずれも心理学の所定の単位を修得すれば、申請することができます。詳細は日進キャンパス事務課へお問い合わせください。
10. 児童福祉司任用資格（実務1年）
【児童福祉司とは】
児童福祉法（第13条）によって、都道府県（および政令で定める市）が設置する児童相談所に置かれることが定められている所員（専門行政職員・公務員）のことです。また、この所員は、法令に定められた一定の要件（資格）を満たす職員から任用（職務に就かせること）しなければなりません。
【仕事の内容】
児童相談所では、児童の福祉全般に関して、専門的な知識と技術を必要とする各種の相談・援助を行います。相談に来た保護者や子どもに対する面接、家庭訪問、関係機関や各種施設などとの連絡や調整、子どもや家庭についての調査や各種の判定、調査や判定に基づいて必要となる指導を行います。
【本学部生が任用資格を得るには】
本学部を卒業し、さらに厚生労働省令で定める施設において一年以上児童その他の者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、その他の援助を行う業務に従事することが必要です。なお、省令で定める施設は、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則によ

る「指定施設」となります。社会福祉士の資格は、児童福祉司の任用資格になります。

【児童福祉司の採用方法】

都道府県および政令指定都市の実施する公務員（職員）採用試験に合格し、その職員として採用されることが前提となります。児童相談所へ配属される職員の採用は、一般的な行政職と区別なく採用試験を行い、職員として採用されてから配属される場合と、それぞれの地方自治体がいわゆる福祉職として別に設けた採用試験で採用し配属される場合とがあります。採用試験の詳細は、各地方自治体へ問い合わせてください。

11. 社会福祉主事 （任用資格）

【社会福祉主事とは】

社会福祉法（第18条）によって、都道府県および市（特別区を含む）が設置する福祉に関する事務所（福祉事務所）に置かれることが定められている所員（専門行政職員・公務員）のことです。また、この所員は法令に定められた一定の要件（資格）を満たす職員から任用（職務に就かせること）しなければなりません。

なお、社会福祉主事の任用資格は、社会福祉に関わる行政職員の基礎的な資格とされています。先の児童福祉司の場合、社会福祉主事として2年以上児童福祉事業に従事した者は児童福祉司の任用資格が得られます。児童福祉司と同様の専門行政職員として、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、老人福祉指導主事、家庭児童福祉主事などがあります。これらも社会福祉主事として定められた年数をそれぞれの事業に従事した場合に任用資格を得ることができます。

【仕事の内容】

福祉事務所は、生活保護・児童・母子・寡婦・身体障害・知的障害・老人の「社会福祉六法」に関する援護、育成または更生に関する業務を行います。社会福祉主事は、これらの業務を担い、直接利用者などと接して、そのニーズを把握し具体的な社会福祉サービスを提供する事務を行い、それと関連して地域の社会資源と連携し、利用者などの自立を支援します。具体的には、面接、相談、調査、実状の確認、サービス給付のための事務処理、地域社会との日常的な連携の維持、要援護者への自立支援などです。

【本学部生が任用資格を得るには】

本学部で、「社会福祉主事の資格に関する指定科目」を3科目以上履修し、卒業することで任用のための資格を得ることができます。本学部において開講している科目は、社会福祉士試験受験資格にある社会福祉に関する「指定科目」（別表1）および法律学、経済学が該当します。詳細は別途確認してください。

社会福祉主事の任用資格を3科目の履修によって得た場合、最低限の要件しか満たしていません。このようないわゆる「三科目主事」の場合、業務を遂行するにあたって必要となる知識・技能が不足していると考えられるため、職員として採用されて福祉事務所などに配属された場合は、現任訓練あるいは講習会を受けることになります。

社会福祉士の資格（試験受験資格を含む）は、社会福祉主事の任用資格になります。

【社会福祉主事の採用方法】

先の児童福祉司の説明と同様になります。採用後の配属先は、福祉事務所、児童相談所、各自治体が設置する各種の社会福祉施設などです。

なお、一部の社会福祉施設や福祉団体が職員を募集する際に“福祉関連の知識があ

12. 社会福祉施設職員 (任用資格)

る者”という意味で、社会福祉主事任用資格を準用し、募集にあたっての条件とすることがあります。次の「社会福祉施設職員の任用資格」の部分も参照してください。

社会福祉施設の職員は、施設の入所者や利用者に対して、直接に支援や援助を行うことを中心に各種の業務を行います。そして、施設の入所者や利用者の福祉を保障するという観点から、それらの職員のうちで一定数の者は“専従”の職員であることが法令で定められており、さらにそれらの専従職員になる者に一定の要件（任用資格）が設けられている場合があります。以下に、職員に任用される際に要件が定められている職名を例示します。

<任用資格が定められている職員>

- ・ 児童指導員（児童福祉法に規定される児童福祉施設：児童養護施設、知的障害児施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設、情緒障害児短期治療施設）
- ・ 生活相談員（老人福祉法に規定される老人福祉施設：養護老人ホーム、特別養護老人ホーム）

【仕事の内容】

日常生活の援助・支援、生活指導、個別の面接相談、グループ指導、援助・支援計画の作成、会議運営、施設内外での連絡調整、関係諸機関・施設・団体などとの連携、家庭援助などです。

【本学部生が任用資格を得るには】

児童福祉施設の児童指導員の場合は、本学部を卒業することによって任用のための資格が得られます。ただし、当学部を卒業した場合でも、自治体によっては、任用資格を満たしているかどうか履修内容を確認のうえ判断される場合があります。養護老人ホームおよび特別養護老人ホームの生活相談員については、「社会福祉主事の任用資格」（社会福祉主事の説明を参照）と同様の要件が定められています。なお、社会福祉士の資格（試験受験資格を含む）は、社会福祉主事の任用資格を満たしますので、これらの職員の任用資格になります。

【社会福祉施設職員などの採用方法】

社会福祉法人が設置・運営する社会福祉施設の場合には、それぞれの法人・施設で職員を募集しています。また、地方自治体が設置・運営する社会福祉施設の場合は、各地方自治体の実施する公務員（職員）採用試験に合格した者から職員として採用します。

先の説明を繰り返しますが、社会福祉法人や地方自治体が行う社会福祉施設の職員募集に際して、職員の任用にあたって法令などの定めがない場合でも、社会福祉主事の任用資格を要件とする場合があります。詳細については、職員の募集に応じる際に確認してください。

社会福祉施設の職員についての求人情報は、各都道府県の「福祉人材センター」（各都道府県の社会福祉協議会に設置されることが多い）で閲覧することができます。

【その他、社会福祉施設などの職員について】

社会福祉関連の法令が相次いで改正され、社会福祉制度が大幅に変更されるにとも

ない、社会福祉施設などで働いている職員の職名は数多くなり、非常にまぎらわしくなっています。こうした状況のなかで、どのような職員に任用資格が課せられているのか、分かりにくくなっています。

例えば、先の「生活相談員」によく似た職名に、支援相談員、生活支援員、支援員などがあります。支援相談員は、介護保険法で規定される介護老人保健施設の相談職の職名です。生活支援員は、障害者総合支援法で規定される障害者支援施設などの職員の職名です。その他にも数多くの職種や職名があります。

このように、社会福祉施設の職員といっても多種多様であって、先の児童指導員などのように任用資格が必要な場合もあれば必要ない場合もあります。ただし、実際に仕事をしていくうえでは、福祉サービスの提供にあたって管理責任者となることや、支援・援助や施設運営の中核を担うことなどから、職員採用の際に「社会福祉士」の資格を前提にする社会福祉施設が増えてきています。さらに社会福祉施設などの職員には、仕事をしていくうえで各種の講習や研修が義務づけられることも多くなっています。

また、社会福祉施設などに入所・利用されている方や居宅で福祉サービスを利用している方などに直接関わる職員（ケア・ワーカー）の場合、介護や介助などについての技術や知識などが必要になります。そのため、法令の定めがなくても介護福祉士やホームヘルパー、保育士など、なんらかの資格を要件として職員採用するところが増えていきます。

法令上の定めがなく、無資格あるいは無経験であっても、社会福祉施設などの職員として採用できる場合はかなりあります。けれども、先のような事情から、実際には様々な要件（社会福祉士資格、社会福祉主事任用資格など）が施設などの職員採用にあたって課せられることが多くなっています。

なお、2007年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が改正されたことによって、今後、社会福祉の現場は大きく変わっていくことが予想されます。「社会福祉士試験受験資格」の履修上の説明もあわせて参考にしてください。

1. 教職課程とは

大学、高専を除くすべての国公私立の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）の教員になるためには、常勤、非常勤を問わず教育職員免許状の取得が必要です。

教育職員免許状を取得するには、「教育職員免許法」「教育職員免許法施行規則」等の法令に基づき、文部科学大臣の認定を受けた大学等の課程において所定の単位を修得しなければなりません。

本学では各学部・学科において、以下の免許・教科の教職課程を開設しています。

学部	学科	認定を受けている免許種・教科		
生活科学部	管理栄養学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	栄教一種
	生活環境デザイン学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	中一種(英語)	高一種(英語)	
	表現文化学科	中一種(国語)	高一種(国語)	
人間関係学部	人間関係学科	中一種(社会)	高一種(公民)	
	心理学科	高一種(公民)		
文化情報学部	文化情報学科	高一種(情報)		
	メディア情報学科	高一種(情報)		
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	中一種(社会)	高一種(公民)	高一種(商業)
教育学部	子ども発達学科	幼一種	小一種	中一種(数学)
		中一種(音楽)	高一種(数学)	高一種(音楽)
		特支一種		
看護学部	看護学科	養教一種		

(2023年度入学生適用)

2. 教員養成の方針

『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』(2021年1月26日/中央教育審議会答申)において、「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿が次のとおり示されました。

- ・変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続ける
- ・子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たす
- ・子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- ・多様な人材の教育界内外からの確保や、教師の資質・能力の向上により、質の高い教職員集団を実現する
- ・多様な外部人材や専門スタッフ等がチームとして力を発揮する
- ・教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師自身も志気を高め、誇りを持って働くことができる

このような教師像は、換言すれば、教師としての専門的能力を有することに加え、自身を高め続けられる向上心、他者と協働するコミュニケーション能力、変化の激しい時代に適応する問題発見・課題解決能力を有する教師と言えます。

本学では、教育理念「人間になろう」を踏まえ、これらの能力をあわせもった教員——つまり、高い専門性と豊かな人間性、優れた人格を兼ね備えた教員の養成を目指します。

3. 教職課程履修上の諸注意

《心構え》

教職課程を履修する上で最も大切なことは、将来教師になるという明確な目標と自覚を持ち、常日頃から教師としてふさわしい態度や行動を心がけることです。教師の資質や能力は教職課程に関わる科目の履修のみならず、様々な経験や体験、日頃の行動などによっても養われます。授業で学んだことを児童・生徒にどのように指導するのか、また、自らの経験や体験を教師としてどう活かしていくのかといった視点を常に持ちながら学生生活を送るよう心がけてください。

《履修計画》

本学の教職課程は、1年次から4年次までの4年間を基本としたカリキュラム構成となっています。したがって、原則として1年次から履修を開始し、必要な科目を学年配当に沿って4年間をかけて段階的・計画的に履修していくことが必要です。例えば2年次以降から履修を開始した場合や、留学や休学などで履修を一時中断した場合は、4年次で卒業するまでの間に履修を終えることが困難になる場合がありますので注意が必要です。

《各種手続等について》

教職課程履修者は教職課程に関するガイダンス等の諸行事には必ず出席するとともに、大学が定めた所定の手続（教育実習・介護等体験の申し込みなど）を行わなければなりません。諸行事への遅刻・無断欠席や所定期日内の手続未了の場合は、その参加を辞退していただく場合がありますので注意してください。

4. 教職課程登録手続

1年次4月に実施される教職課程登録ガイダンスに参加し、所定の期間内に教職課程履修費を納入するとともに、日進キャンパス事務課へ教職課程履修登録届を提出してください。

また、1年次前期の履修登録期間にS*mapの履修登録画面から、取得を希望する免許の仮申請を行ってください。

※3年次編入学生については編入学後、ただちに日進キャンパス事務課へ申し出た上で教職課程履修登録届を提出してください。

5. 教職課程で必要となる費用

教職課程の履修にあたっては主に以下の費用が必要となります。

《教職課程履修費》

課程の種類	金額	納入時期
中学校、高等学校の課程	14,000円	1年次4月

※3年次編入学生については編入年次4月

《実習費等》

実習等の種類	金額	納入時期
介護等体験	8,500円	3年次4月
教育実習	実習先指定額	実習時

＜教育職員免許状発行手数料＞

費用の種類	金額	納入時期
教育職員免許状発行手数料（1免許につき）	3,400円	4年次11月

※上記の発行手数料は愛知県教育委員会への支払いとなります。

6. 教育職員免許状取得に必要な基礎資格と単位数

教育職員免許状を取得するためには、以下の基礎資格を有し、各科目の最低修得単位数を満たす必要があります。ただし、以下の表に記載されている単位数は法令上の最低修得単位数です。実際のカリキュラムでは最低修得単位数以上の単位修得が必要な場合がありますので注意してください。

免許状の種類		中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状			
基礎資格		学士の学位を有すること				
法令上の最低修得単位数	① 「教科及び教科の指導法に関する科目」	28	24			
	② 「教育の基礎的理解に関する科目」 「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 「教育実践に関する科目」	27	23			
				③ 「大学が独自に設定する科目」	4	12
				④ その他の必修科目	8	8

7. 介護等体験

＜概要と趣旨＞

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等による法律」（介護等体験特例法）により、小学校教諭、中学校教諭の免許状を取得するためには、原則として3年次に社会福祉施設及び特別支援学校等において7日間以上の「介護等体験」が必要となります。

介護等体験特例法制定の趣旨は次のとおりです。

「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる措置を講ずるため、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与について教育職員免許法の特例等を定めるものであること。」

介護等体験は、教員を目指すものが、高齢者や障害者に対する介護等の体験を自らの体験として持つとともに、この体験を今後の教育活動に生かしていくことによって、人の心の痛みが分かる人づくり、個人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりを実現することを願って行われるものです。

《体験内容》

障害者、高齢者に対する介護、介助（作業補助や食事介助、排泄介助など）のほか、障害者、高齢者との話し相手、散歩の付き添い等の交流体験、あるいは掃除や洗濯などの施設職員の業務補助など幅広い内容が想定されますが、体験先の施設種別は様々であるため、体験内容も施設等により大きく異なります。

《介護等体験の参加資格》

- ① 将来教員を志望する者
- ② 健康で教員としての適格性を有する者
- ③ 特別支援教育に対する理解があり、障害者に対する配慮のできる者

《体験施設・期間等》

介護等体験は3年次8月～1月の期間に、社会福祉施設（児童養護施設、障害者支援施設、老人ホーム、老人デイサービスセンター等）で5日間、特別支援学校（盲・聾・養護学校）で2日間の体験を行います。

なお、体験先施設、体験期間については社会福祉協議会等からの割り当てとなりますので、特定の施設・学校を体験先として指定することや、体験期間を指定することはできません。

《介護等体験に参加する上での心構え》

まずは小学校・中学校教諭の免許状取得のために介護等体験が義務付けられている趣旨を十分理解することが重要です。体験期間は7日間と短いため、目的意識を持って体験に参加しないと何も得られないまま体験を終えることになってしまいます。自分なりの目標を立てて体験に臨んでください。

また、施設等の利用者には抵抗力の弱い方もいらっしゃいますので、体験中はもちろん、体験前においても体調管理には十分注意してください。

《履修登録》

本学では介護等体験を「大学が独自に設定する科目」の単位として認定しています。介護等体験に参加する学生は、体験実施年度の前期に授業科目「介護等体験」（1単位）を必ず履修登録してください。

8. 教育実習

「教育実習」は教育職員免許状取得のための必修科目です。教育実習は学内で行われる授業とは異なり、実際の学校現場において現場の教師と同様に勤務しながら教育活動の重要な領域を行動的に経験し、教職についての認識を深め、自己の教職への適性を把握する重要な機会となります。

教育実習の目的は、教育者としての基本的な態度・技能を身に付けることにあります。具体的には、観察・参加・実習等を通じて教育者としての実地修練を行うことにより、教育についての理解を深め、指導技術を体得するとともに、教育に携わる者としての自覚と熱意を高め、優秀な教育者として活動し得る素地を養うことにあります。

これらの目的は短期間の実習のみで達成できるものではありません。日頃から、将

来教師になる者としての自覚を持ち、教育実習に耐え得る健康を保持するなど、教師としての資質向上に努めてください。

《教育実習の履修要件》

- ① 将来教職に就く意思を有し、都道府県及び政令指定都市教育委員会が実施する教員採用試験を必ず受験すること。
- ② 3年次終了までに以下の単位を履修済みであることを原則とする。
 - ・「教養教育科目」の必要最低単位数をすべて履修済みであること。
 - ・「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」を履修し、かつその成績が良好であること。
 - ・「教科の指導法Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであること。
- ③ 「事前及び事後指導」を履修すること。
- ④ 教職課程履修上の各種手続を遅滞なく済ませていること。

《必要実習期間と履修登録科目》

教育実習の履修登録は、取得する免許・実習期間に応じ、4年次前期に以下のとおり登録してください。

ただし、教育実習の事前指導は3年次から始まりますので、「事前及び事後指導（1単位）」は3年次前期にも履修登録をしてください。（単位認定は事後指導後、4年次後期に行われます。）

取得予定免許	必要実習期間	履修登録科目
中一種免のみ	中学校で3週間以上	事前及び事後指導（1単位） 教育実習（4単位）
中一種免・高一種免	中学校または高等学校で3週間以上 高等学校で2週間＋ 梶小・中・高のいずれかで1週間	
	高一種免のみ	高等学校で2週間以上

（2011年度以降入学生適用）

※上記の実習パターンに該当しない場合は、パターンによって履修登録科目が変わりますので、必ず日進キャンパス事務課の窓口で履修指導を受けてから履修登録してください。

9. 履修カルテ 教職実践演習

《履修カルテとは》

教育職員免許法施行規則の改正に伴い、2010年度入学生から「教職実践演習」が必修化されました。「教職実践演習」は、教職課程における授業科目の履修や教職課程内外での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が求める教員像や到達目標に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものです。

履修カルテは、教職課程を履修する学生が、授業や課外活動などの面において、どのように4年間を過ごしてきたのかを記録することで、学生それぞれの優れている点や不足している点などを把握し、4年次後期に開講される「教職実践演習」で活用するために導入されたものです。ただし、履修カルテは、大学側が学生それぞれの状況を把握し授業に活用することのみを目的としたものではなく、学生自身が自らの学修等を振り返り、自分自身を成長させていくためのツールとして積極的に活用することも必要です。履修カルテの作成や教職実践演習の履修を通じて、将来、教員になる上で何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。

〈履修カルテ作成項目〉

履修カルテは以下の項目について作成します。

①	教員免許取得に係る以下の科目の“ふりかえり” ●教科及び教科の指導法に関する科目 ●教育の基礎的理解に関する科目 ●道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ●教育実践に関する科目 ●大学が独自に設定する科目 ●その他の必修科目
②	学外活動に関する“ふりかえり” 【対象となる主な学外活動】 ●教育実習 ●介護等体験（参加者は入力必須） ●ボランティア活動 ●その他教員としてプラスになる活動
③	資質能力についての自己評価

〈履修カルテ作成時期〉

	前 期	後 期
学生による履修カルテWeb入力期間	前期可否発表開始日～指定日	後期可否発表開始日～指定日
Web入力対象項目	●前期開講科目 ●前期中に行った学外活動	●後期・通年開講科目 ●後期中に行った学外活動 ●資質能力についての自己評価

〈教職実践演習の履修要件〉

4年次後期に開講される教職実践演習は、教育実習と同じく履修要件を定めています。次の要件を満たさない学生は教職実践演習を受けることができませんので注意してください。

履修要件

主たる教員免許状の取得に必要な教育実習を修了し、「教育実習」と「事前及び事後指導」の単位取得見込みであること。

10. 教職課程における主なスケジュール

学年	時期	ガイダンス・手続等		
		全般	介護等体験関係	教育実習関係
1年次	4月上旬	教職課程登録ガイダンス		
	4月上旬	教職課程履修費納入履修登録届の提出		
	7月中旬	履修カルテ作成ガイダンス		
2年次	10月中旬		第1回介護等体験ガイダンス (介護等体験登録)	
3年次	4月上旬		第2回介護等体験ガイダンス (介護等体験費用納入)	
	4月中旬			教育実習内諾依頼ガイダンス
	4月中旬～			教育実習依頼手続開始
	6月下旬		第3回介護等体験ガイダンス	
	7月上旬		介護等体験講習会 (土曜日午後実施)	
	7月下旬		第4回介護等体験ガイダンス	
	8月～		介護等体験開始 (日程は施設により異なる)	
	体験終了後		介護等体験レポート提出	
	12月中旬			教育実習承認申請ガイダンス
	1月中旬			教育実習連絡ガイダンス (名市小中実習生のみ)
	3月末			教育実習連絡ガイダンス (愛公小中実習生のみ)
4年次	4月中旬			教育実習事前ガイダンス
	4～5月			教育実習事前打合せ会 (実習校において実施)
	5～6月			教育実習 (日程は実習先により異なる)
	実習終了後			教育実習記録提出
	7～8月	教員採用試験 (日程は受験地により異なる)		
	11月下旬	教育職員免許状一括申請ガイダンス		
	3月卒業式	教育職員免許状の交付		

※スケジュールは現在の予定です。詳細は S*map のジャーナル、掲示、ガイダンス等で随時ご案内します。

11. 教職課程カリキュラム表

①教科及び教科の指導法に関する科目

「教科及び教科の指導法に関する科目」は、その教科の専門的知識、指導法等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により教科ごとに修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。網掛けの授業科目は、その科目区分における「一般的包括的な内容を含む科目」（各科目区分において修得すべき内容を網羅的に取り扱う科目）であり、免許取得要件上、必修又は選択必修として設定されています。

履修にあたっては、必修及び選択必修の要件を満たした上で、法定最低修得単位（中一種 28 単位以上、高一種 24 単位以上）を修得する必要があります。

人間関係学科

【中学校教諭一種免許状（社会）】

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数 ※1			授業科目	単位数 ※2		備考
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目（中一種 28 単位以上）	日本史・外国史	1	日本史A	2		
			日本史B	2		
			外国史A	2		
			外国史B		2	
			外国史C	2		
			人間形成の歴史		2	
			比較文化論		2	
			人間の歴史		2	
			女性史		2	
			地理学（地誌を含む。）	1	人文地理学	
		自然地理学	2			
		地誌	2			
	「法学、政治学」	1	法学（国際法を含む。）		2	} 1科目以上 選択必修
		政治と社会（国際政治を含む。）		2		
	「社会学、経済学」	1	社会学概論		2	} 1科目以上 選択必修
			現代社会論		2	
			経済学（国際経済を含む。）		2	
			人間関係学A		2	
			人間関係学B		2	
			社会福祉論A		2	
			社会福祉論B		2	
			家族社会学		2	
			産業と労働		2	
			組織と人間		2	
			文化人類学		2	
			ライフスタイル論		2	
			女性と社会A		2	
			女性と職業生活A		2	
生活意識論				2		
ジェンダー・セクシュアリティ論A				2		
ジェンダー・セクシュアリティ論B		2				
マスメディア論		2				
コミュニケーション論		2				
「哲学、倫理学、宗教学」	1	宗教と社会		2		
		生命倫理学		2		
		身体としての人間		2		
		臨床哲学		2		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8	社会科・公民科の指導法Ⅰ	(2)		(2年次配当)	
		社会科・公民科の指導法Ⅱ	(2)		(2年次配当)	
		社会科・地歴科の指導法Ⅰ	(2)		(2年次配当)	
		社会科・地歴科の指導法Ⅱ	(2)		(2年次配当)	

(2022年度以降入学学生適用)

20単位以上修得

人間関係学科

科目名 …… 一般的包括的な内容を含む科目

- ※1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の法定最低修得単位数は、中一種 28 単位である。法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」4 単位に算入することができる。
- ※2 単位数に（ ）のついている科目は、資格専門科目であるため、卒業単位には算入できない。

【高等学校教諭一種免許状（公民）】

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数 ※1			授業科目	単位数 ※2		備考
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目（高一種 24 単位以上）	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1	法学（国際法を含む。）」		2	1 科目以上 選択必修
			政治と社会（国際政治を含む。）」		2	
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	1	社会学概論		2	1 科目以上 選択必修
			現代社会論		2	
			経済学（国際経済を含む。）」		2	
			人間関係論A		2	
			人間関係論B		2	
			社会福祉論A		2	
			社会福祉論B		2	
			家族社会学		2	
			産業と労働		2	
			組織と人間		2	
			文化人類学		2	
			ライフスタイル論		2	
			女性と社会A		2	
			女性と職業生活A		2	
	生活意識論		2			
	ジェンダー・セクシュアリティ論A		2			
	ジェンダー・セクシュアリティ論B		2			
	マスメディア論		2			
コミュニケーション論		2				
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	1	心理学総論		2	20 単位以上 修得	
		宗教と社会		2		
		生命倫理学		2		
		身体としての人間		2		
		臨床哲学		2		
		感情・人格心理学		2		
		行動心理学		2		
		産業・組織心理学		2		
		社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）		2		
		知覚・認知心理学		2		
臨床心理学概論		2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」	4	社会科・公民科の指導法Ⅰ	(2)		(2 年次配当)	
		社会科・公民科の指導法Ⅱ	(2)		(2 年次配当)	

(2022 年度以降入学生適用)

科目名 …… 一般的包括的な内容を含む科目

- ※1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の法定最低修得単位数は、高一種 24 単位である。法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」12 単位に算入することができる。
- ※2 単位数に（ ）のついている科目は、資格専門科目であるため、卒業単位には算入できない。

【高等学校教諭一種免許状（公民）】

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数 ※1			授業科目	単位数 ※2		備考
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目（高一種24単位以上）	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1	法学（国際法を含む。）」		2	1科目以上選択必修
			政治と社会（国際政治を含む。）」		2	
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	1	社会学概論		2	1科目以上選択必修
			現代社会論		2	
			経済学（国際経済を含む。）」		2	
			人間関係論A		2	
			人間関係論B		2	
			ジェンダー・セクシュアリティ論A		2	
			ジェンダー・セクシュアリティ論B		2	
			ライフスタイル論		2	
			社会福祉論A		2	
			社会福祉論B		2	
			コミュニケーション論		2	
			マスメディア論		2	
			組織と人間		2	
			女性と社会A		2	
	女性と職業生活A		2			
	産業と労働		2			
	生活意識論		2			
	家族社会論		2			
	文化人類学		2			
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	1	心理学概論		2	20単位以上修得
			宗教と社会		2	
			臨床心理学概論		2	
知覚・認知心理学				2		
認知心理学特論				2		
感情・人格心理学				2		
社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）」				2		
心理学的支援法				2		
行動心理学				2		
産業・組織心理学				2		
生命倫理学				2		
臨床哲学				2		
身体としての人間		2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」	4	社会科・公民科の指導法Ⅰ	(2)		(2年次配当)	
		社会科・公民科の指導法Ⅱ	(2)		(2年次配当)	

(2022年度以降入学生適用)

科目名 …… 一般的包括的な内容を含む科目

※1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の法定最低修得単位数は、高一種24単位である。法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」12単位に算入することができる。

※2 単位数に（ ）のついている科目は、資格専門科目であるため、卒業単位には算入できない。

②教育の基礎的
理解に関する
科目等

「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」は、教師として求められる要素や知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学の科目が配置されています。履修にあたっては、各免許における必修及び選択必修等の要件を満たした上で、法定最低修得単位（中一種 27 単位以上、高一種 23 単位以上）を修得する必要があります。

人間関係学科
心理学科

【人間関係学部のすべての免許状に共通】

科目区分	各科目に含める必要事項	単位数	本学の開設授業科目 (○印：必修、○印：選択必修)		備考			
			中	高		単位数	配当年次	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○	○	現代教育論	2	3	
					人間形成の思想	2	3	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		○	○	教師の世界	2	1	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		○	○	学校と社会	2	3	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○	○	発達と学習	2	1	
					青年心理学	2	2	
					学習・言語心理学	2	1	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	○	○	発達臨床心理学	2	3			
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	○	○	特別支援教育	2	1			
	○	○	カリキュラムの創造	2	2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	○	×	道徳の理論及び指導法	2	2	人間関係学科のみ適用 中一種のみ適用(注)
	中：総合的な学習の時間の指導法 高：総合的な探究の時間の指導法		○	○	総合的な学習の時間の指導法	1	2	
	特別活動の指導法		○	○	特別活動の指導法	1	2	
	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		○	○	教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	2	2	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		○	○	生徒指導論(進路指導を含む。)	2	1	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		○	○	教育相談	2	3	
					教育・学校心理学	2	2	
			心理療法	2	3	心理学科のみ適用		
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	○	○	事前及び事後指導	1	3・4	中一種4単位以上 高一種2単位以上 選択必修
			○	○	教育実習	4	4	
			○	○	教育実習 A	2	4	
	○	○	教育実習 B	2	4			
教職実践演習	2	○	○	教職実践演習(中・高)	2	4		

(2023 年度以降入学生適用)

※ 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」の法定最低修得単位数は、中一種 27 単位、高一種 23 単位である。それに対し、上記の表より必修を含めた実際の最低修得単位数は、中一種 29 単位、高一種 25 単位となる。

法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」中一種 4 単位、高一種 12 単位に算入することができる。

(注) 「道徳の理論及び指導法」について

「道徳の理論及び指導法」の科目区分は、中学校教諭免許状にのみ必要とされる条件なので、授業科目「道徳の理論及び指導法」を修得した場合、中学校教諭免許状については「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に算入できるが、高等学校教諭免許状については算入できない。ただし、「大学が独自に設定する科目」に算入することができる。

③大学が独自に
設定する科目

「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のうち、最低修得単位数を超えて修得した単位数及び所定の「大学が独自に設定する科目」の単位数を合わせて、中一種は4単位以上、高一種は12単位以上修得しなければなりません。

人間関係学科

【中学校教諭一種免許状（社会）・高等学校教諭一種免許状（公民）】

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数	本学の開設授業科目	単位数	備考
大学が独自に設定する科目	介護等体験	1	中一種必修 高一種のみ適用 中・高一種ともに選択
	道徳の理論及び指導法	2	
	福祉心理学	2	
	国際化と教育	2	
	学校体験活動Ⅰ	1	
	学校体験活動Ⅱ	1	
中一種 4 単位以上 高一種 12 単位以上	最低修得単位数（中一種 28 単位、高一種 24 単位）を超えて修得した ①「教科及び教科の指導法に関する科目」 最低修得単位数（中一種 27 単位、高一種 23 単位）を超えて修得した ②「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」		

(2022 年度以降入学生適用)

心理学科

【高等学校教諭一種免許状（公民）】

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数	本学の開設授業科目	単位数	備考
大学が独自に設定する科目	福祉心理学	2	中・高一種ともに選択
	国際化と教育	2	
	学校体験活動Ⅰ	1	
	学校体験活動Ⅱ	1	
高一種 12 単位以上	最低修得単位数（中一種 28 単位、高一種 24 単位）を超えて修得した ①「教科及び教科の指導法に関する科目」 最低修得単位数（中一種 27 単位、高一種 23 単位）を超えて修得した ②「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」		

(2023 年度以降入学生適用)

④その他の必修
科目

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目であり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の科目区分について、各 2 単位以上修得する必要があります。

人間関係学科
心理学科

【人間関係学部のすべての免許状に共通】

免許法施行規則に定める科目区分 及び最低修得単位数		本学の開設授業科目	単位数		備 考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体育	2	健康とスポーツの理論		2	} 1 科目以上 選択必修
		スポーツ文化論		2	
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	外国語（英語 A）	1		
		外国語（英語 B）	1		
		外国語（英語 C）	1		
		外国語（英語 D）	1		
		外国語（ドイツ語 I）		1	
		外国語（ドイツ語 II）		1	
		外国語（フランス語 I）		1	
		外国語（フランス語 II）		1	
		外国語（中国語 I）		1	
		外国語（中国語 II）		1	
		外国語（ポルトガル語 I）		1	
		外国語（ポルトガル語 II）		1	
		外国語（スペイン語 I）		1	
		外国語（スペイン語 II）		1	
外国語（ハンガル I）		1			
外国語（ハンガル II）		1			
数理、データ活用及び人工知能に 関する科目又は情報機器の操作	2	コンピュータと情報 I	2		
		コンピュータと情報 II		2	

(2022 年度以降入学生適用)

1. 学芸員とは
学芸員は、「博物館法」に定められた、博物館に置かれる専門職員です。その職務については、博物館資料の収集・整理、保管・保存、展示・活用および調査研究、その他教育普及活動等、博物館資料と関連する事業と定められています。
近年、各地に多種多様な博物館および博物館相当施設（国・公・私立）が設けられつつあり、有能な社会教育専門職員としての学芸員が求められています。
2. 学芸員資格取得について
①博物館法第5条第1項第1号「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」に基づき、学則第24条の2により、学芸員資格取得に関する科目を設けています。
②本学において学芸員資格を取得しようとする者は、学則別表第8に規定する科目を履修し、単位を修得しなければなりません。所定の単位を修得した者に対して、卒業時に「学芸員資格証明書」を交付します。
③科目履修にあたっては、1年次後期に実施されるガイダンスを受け、履修費を2年次4月の指定期日までに納入し、履修登録をしなければなりません。
④2年次後期以降の履修登録希望者は、至急教務課に相談してください。
3. 「博物館実習」
①学芸員資格を得るために必要な科目の単位修得見込者で、博物館からの実習許可を得た者を対象に「博物館実習」を実施します。
②「博物館実習」は、「博物館概論」「博物館資料論」「博物館経営論」の授業内容を基礎として体系的に行うので、以上の科目を3年次までに履修した学生を履修対象とします。
③「博物館実習」では、学内実習（見学実習、実務実習、事前・事後指導）と館園実習を行います。実習先は県内の博物館のほか、他県でも行うことがあります（交通費・宿泊費などは個人負担となります）。実習を無断で欠席した場合は、原則として失格とします。
④学内実習のうち、実務実習と事前・事後指導は、原則として、火曜日3・4時限に実施します。他の授業と重複しないように注意してください。また実務実習においては、毎回レポート課題があります。
4. ガイダンス
1年次後期（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できません。
5. 履修費
25,000円（2年次前期履修登録時期に納入）
6. 編入学生の学芸員資格取得について
他大学または短期大学からの編入学生で、学芸員資格取得を希望する場合は、編入学後、ただちに日進キャンパス事務課教務係に申し出てください。
※4月にガイダンスを受け、履修費を指定期日までに納入する必要があります。

7. 学芸員資格
取得に関する
科目

(学則別表第8)

※○付数字は必修単位数

系列		最低必修単位	本学開講授業科目	単位数	開講年次	備考	
学芸員資格取得に関する科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2 - 4	資格専門	
			生涯学習各論	2	3・4	資格専門	
			生涯学習論	2	3・4		
	博物館概論	2	必修9系列19単位	博物館概論	②	1 - 3	1科目以上選択必修
	博物館経営論	2		博物館経営論	②	2・3	
	博物館資料論	2		博物館資料論	②	2・3	
	博物館資料保存論	2		博物館資料保存論	②	2 - 4	
	博物館展示論	2		博物館展示論	②	2 - 4	
	博物館教育論	2		博物館教育論	②	2 - 4	
	博物館情報・メディア論	2		博物館情報・メディア論	②	2 - 4	
	博物館実習	3		博物館実習	③	4	資格専門

(2023年度以降入学生・2024年度以降2年次編入学生・2025年度以降3年次編入学生適用)

1. 社会福祉士とは
社会福祉士は、「社会福祉士及び介護福祉士法」に規定された国家資格です。専門的な知識と技術をもって、身体上、精神上の障害、あるいは環境上の理由で、日常生活を営むのに支障がある人の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、関係機関との連絡調整、その他の援助を行います。福祉事務所や児童相談所、社会福祉協議会、高齢者や障害者、児童などの福祉施設、病院などにおいて活躍しています。
2. 社会福祉士になるためには
社会福祉士になるためには、次のことが必要です。
①厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目（「指定科目」）に対応した本学開講科目（別表1、2）を履修して、単位を修得し、大学を卒業することによって社会福祉士試験の受験資格を取得すること。
別表1、2の科目は、すべて履修しなければなりません。
②毎年1回、1月下旬～2月上旬に行われる社会福祉士国家試験を受験し、それに合格すること（卒業見込みで受験できます）。
③社会福祉士登録簿に登録すること。
なお、本学で社会福祉士国家試験の受験資格を取得できるのは、人間関係学科に在籍する学生だけです。

3. 社会福祉に関する「指定科目」

別表第1

厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する「指定科目」	本学開講授業科目	単位数
医学概論	人体の構造と機能及び疾病	2
心理学と心理的支援	心理学総論	2
社会学と社会システム	社会学概論	2
社会福祉の原理と政策	社会福祉論 A	2
	社会福祉論 B	2
社会福祉調査の基礎	社会調査論	2
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワーク論 I	2
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワーク論 II	2
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの基礎	2
	ソーシャルワーク I	2
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワーク II	2
	ソーシャルワーク III	2
地域福祉と包括的支援体制	福祉コミュニティ論	2
	地域社会論	2
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	2
社会保障	社会保障論 A	2
	社会保障論 B	2
高齢者福祉	高齢者福祉論	2
障害者福祉	障害者福祉論	2
児童・家族福祉	子ども・家庭福祉論	2
貧困に対する支援	貧困に対する支援	2
保健医療と福祉	保健医療	2
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2
刑事司法と福祉	司法福祉論	2

*別表第1に掲げられた科目は、人間関係学科の専門教育科目でもあるので、修得した単位は、卒業に必要な単位数に算入されます。

別表第2

厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する「指定科目」	本学開講授業科目	単位数
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	1
ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習Ⅱ	1
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	1
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	1
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	1
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ A	1
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ B	1
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ A	1
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ B	1
	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習 A
	ソーシャルワーク実習 B	2
—	ソーシャルワーク特論	2

*別表第2に掲げられた科目は、資格取得のための資格専門科目なので、修得した単位は、卒業に必要な単位数に算入されません。

4. 実習関連科目の履修要件

3年次の「ソーシャルワーク実習 A」、「ソーシャルワーク実習 B」を履修するためには、次の要件を満たしていなければなりません。

実習関連科目	履修要件	
	授業科目	要件
ソーシャルワーク実習A ソーシャルワーク実習B	ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 高齢者福祉論 障害者福祉論 子ども・家庭福祉論 ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅰ ソーシャルワーク論Ⅱ 社会福祉論A ソーシャルワークの基礎 ソーシャルワークⅠ ソーシャルワークⅡ	1・2年次に、単位をすべて修得していること
	ソーシャルワーク演習Ⅲ ソーシャルワーク演習Ⅳ ソーシャルワーク実習指導ⅡA ソーシャルワーク実習指導ⅡB ソーシャルワーク実習指導ⅢA ソーシャルワーク実習指導ⅢB ソーシャルワークⅢ	3年次に、科目をすべて同時に履修すること

5. ソーシャルワーク実習について

「ソーシャルワーク実習 A」では、計 180 時間以上、「ソーシャルワーク実習 B」では、計 60 時間以上の現場配属実習を行います。実習は原則として、配属された福祉事業所・機関において、3年次の8月から12月の間に行います。

6. 履修費の納入について

履修費は以下のとおりです。その他、配属実習に際して必要となる健康診断および各種検査（細菌検査など）の費用、交通費、宿泊費、食費、光熱水費などは別途個人

負担となります。

	納入時期	履修費
第1次納入	2年次（ソーシャルワーク実習指導Ⅰの履修登録後）	2,500円
第2次納入	3年次（ソーシャルワーク実習指導Ⅱ A/Bの履修登録後）	22,500円
第3次納入	3年次（ソーシャルワーク実習 A/Bの開始前）	実習施設への委託費用（別途徴収）*

*実習1日につき1,200円～2,500円がかかります

7. 履修登録手続

1年次の4月上旬（日程は別途通知）に実施する社会福祉士の④履修ガイダンスと⑧新規登録ガイダンスに参加し、その際に配布する「希望届」を所定の期間内に日進キャンパス事務課に提出してください。④履修ガイダンスと⑧新規登録ガイダンスのどちらも参加していないと履修登録はできません。

また、1年次前期の履修登録期間にS*mapの履修画面から、仮申請を行ってください。

1. 公認心理師とは

公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者を言います。

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

2. 公認心理師になるためには

公認心理師になるためには、次のことが必要です。

- ①公認心理師施行規則に定められた公認心理師「指定科目」に対応した本学開講科目（別表）を履修して単位を修得し大学を卒業し、さらに、大学院で「指定科目」を履修する（または、プログラムのある医療機関で2年以上〔標準的には3年〕の研修を行う）ことによって公認心理師国家試験の受験資格を取得すること
 - ②毎年1回行われる公認心理師国家試験を受験し、それに合格すること
 - ③公認心理師登録簿に登録すること
- 公認心理師国家試験の受験資格を取得できるのは、心理学科に在籍する学生だけです。

3. 公認心理師「指定科目」

別表 * 1

「公認心理師」指定科目	学則に定める本学開講科目	必修単位数	備考
公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	
心理学概論	心理学概論	2	1年次に単位を修得していること
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	
心理学研究法	心理学研究法	2	
心理学統計法	心理学統計法	2	
心理学実験	心理学実験	2	
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学A(社会・集団心理学)	2	
	社会・集団・家族心理学B(家族心理学)	2	
発達心理学	発達心理学	2	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	
心理的アセスメント	心理的アセスメント	2	
心理学的支援法	心理学的支援法	2	
健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	
福祉心理学	福祉心理学	2	
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	
関係行政論	関係行政論	2	
心理演習	心理演習	2	3年次前期に履修

心理実習	心理実習Ⅰ	1	80時間以上 Ⅰ：3年前期・Ⅱ：3年後期まで Ⅲ：4年後期まで
	心理実習Ⅱ	1	
	心理実習Ⅲ	1	

* 1 別表に掲げられた科目は、心理学科の専門教育科目でもあるので、修得した単位は、卒業に必要な単位数に算入されます。

4. 演習実習科目の履修要件

「心理演習」「心理実習Ⅰ」「心理実習Ⅱ」「心理実習Ⅲ」を履修するためには、原則として次の要件を満たしていなければなりません。

演習実習科目	履修要件	
	授業科目	要件
心理演習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ	心理学概論 心理学研究法 心理学統計法 心理学実験 心理学特殊実験 公認心理師の職責	2年次までに単位をすべて修得していること
	臨床心理学概論 知覚・認知心理学 学習・言語心理学 感情・人格心理学 神経・生理心理学 社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学） 社会・集団・家族心理学B（家族心理学） 発達心理学 障害者・障害児心理学 心理学的支援法 人体の構造と機能及び疾病	2年次までに、単位をすべて修得していることが望ましい
心理実習Ⅲ	心理的アセスメント 健康・医療心理学 福祉心理学 教育・学校心理学 司法・犯罪心理学 産業・組織心理学 精神疾患とその治療 関係行政論	3年次までに、単位をすべて修得していること

5. 心理実習について

「心理実習」では、計80時間以上の現場実習を行います。実習は原則として、配属された施設・機関において、3年次から行います。

6. 履修費の納入について

履修費は以下のとおりです。その他、現場実習に際して必要となる健康診断及び各種検査（細菌検査など）の費用、交通費、食費などは別途個人負担となります。

	納入時期	履修費
第1次納入	3年次（演習実習科目の履修登録時）	15,000円
第2次納入	3・4年次（実習科目の開始前または終了後）	実習施設への委託費用（別途徴収）*2

* 2 実習1日につき0円～7,000円（税抜き）がかかります。

7. ガイダンス

1年次の4月上旬（新入生ガイダンス時）に実施します。公認心理師国家試験の受験資格取得を希望する学生は、必ず出席してください。

1. 社会調査士とは
- 社会調査士とは、日本社会学会と日本教育社会学会および日本行動計量学会の3学会が連携協力して2003年に設立した社会調査士資格認定機構（2009年度から法人化され社会調査協会）によって、学生が大学で学んだ内容に基づいて認定される資格です。
- 社会調査協会（旧社会調査士資格認定機構）とは、社会の情報化が進行し、おびただしい数の社会調査が毎年行われ、その精確な情報の社会的重要性が高まる状況の中で、大学・大学院等における社会調査教育の向上を図り、社会調査の知識と技能を持つ人材を育成することを目的に設立されたものです。社会が流動化し複雑化する中で、状況に適切に対応するために様々な方面においてますます社会調査の専門知識を持つ人材が求められることが予想され、今後一層この資格の重要性が増すものと期待されます。
2. 資格取得の方法
- 資格の取得を希望する学生は、まず、社会調査協会が認定した科目が設置されている大学において協会の定めた標準カリキュラムに基づく6種類の認定科目（標準カリキュラムA、B、C、D、G、E又はFとして認定された6種類の科目）を履修し単位を得る必要があります。6種類の科目は必ずしも同じ教育機関で取得する必要はありませんが、2017年度現在、本学部では6種類の認定科目全てが設置されています。
3. 資格申請の手続
- 社会調査協会に資格認定の申請をするには、必要書類をそろえて大学経由で認定申請をすることになります。また、資格の認定には2つのタイプがあります。ひとつは社会調査士資格の認定、もうひとつは社会調査士資格取得見込みの認定です。前者は卒業時に申請できるもの、後者は所定の要件（4.の注意事項を参照）を充たした段階で在学中に申請できるものです。したがって、就職活動等を考えて早めに何らかの証明が必要な場合は後者の社会調査士資格取得見込みの認定（有料）を申請することができます。ただし、見込み認定後に正規の資格を取得するためには、全ての資格要件を満たす必要があります。
4. 注意事項
- ・ 大学に設置される認定科目は年度ごとに申請することになっていますので、ある年度に認定された科目が翌年度も認定されているとは限りません。したがって、資格取得を考えて認定科目を履修する場合には、その年度に認定されているかどうかを確認して履修する必要があります。
 - ・ 社会調査士資格取得見込みが申請できる要件は、大学在籍期間2年以上、3種類以上の認定科目を単位取得、5種類以上の認定科目を単位取得または履修中の3点です。
 - ・ 資格認定の条件や手続の詳細については、4月のオリエンテーション期間に実施されるガイダンスで確認してください。

5. 認定科目
リスト

社会調査士資格科目	授 業 科 目 ※2	単 位
A. 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査論	2
B. 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査の技法	2
C. 基本的な資料とデータの分析に関する科目	データの整理と分析	2
D. 社会調査に必要な統計学に関する科目	統計の世界	2
E. 量的データ解析の方法に関する科目	—	—
F. 質的な分析の方法に関する科目	フィールドワーク論	2
G. 社会調査の実習を中心とする科目	社会調査実習A・社会調査実習B※1	2

※1 Gは2科目（通年履修）を合わせて認定されます。

※2 認定科目は年度ごとに申請することになっていますので、履修年度によって科目名称等が変更になる場合があります。

1. 司書資格とは

「司書」は、図書館の専門的職務に従事するために必要な資格として、図書館法によって規定されています。図書館法とは、地方公共団体によって設置された、いわゆる公立図書館の運営に関して必要な事項を定める法律です。図書館における専門的職務としては、図書館資料の収集、組織化、保持、そして貸出・閲覧サービスやレファレンス情報サービスなどがあげられます。図書館職員が、これらの図書館サービスを十分に展開するにあたって、司書の資格は重要な要件であると考えられています。

司書の資格が図書館法によって規定されているということは、基本的には司書の資格は公立図書館職員の専門資格であるということです。しかしながら、大学図書館、学校図書館、専門図書館や企業の情報資料室、さらに国立国会図書館の職員採用においても、司書資格を重視しているところが少なくありません。館種を問わず、図書館で働く専門職員の資格要件として、司書は、一定の社会的評価を得ていると言えます。
2. 司書資格を取得するには

図書館法第5条、第6条には、大学卒程度の教養および、図書館についての専門教育を修得することによって、司書の資格が得られることが規定されています。履修すべき科目、単位、その他必要な事項は、図書館法施行規則によって定められています。これらの規定に基づき、本学部では、卒業に必要な科目単位数のほかに、司書課程を履修して、学則別表第8-4に掲げられた所定の科目の単位を修得することによって、司書の資格が取得できます。
3. 司書になるには

図書館で司書として実際に働くためには、館種を問わず、目的とする図書館の職員採用試験を受ける必要があります。代表的な例としては、公立図書館に勤務するための都道府県、市町村の職員採用試験、国立大学図書館に勤務するための国立大学法人等職員採用試験および国立国会図書館職員採用試験などがあげられます。このほかにも、企業の情報資料室や私立大学図書館に勤務するための一般的な就職試験など、さまざまなルートがあります。

司書として図書館で働く以外にも、書店、出版社、取次店など、書物の出版流通に携わる職業への道が開かれています。
4. ガイダンス

1年次10月下旬（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できない場合があるので注意してください。
5. 履修費

20,000円（2年次前期履修登録時期に納入）
6. 編入学生の司書課程履修について

他大学または短期大学からの3年次編入学生で、司書課程の履修を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。

7. 注意事項

- ①資格専門科目（「8. 司書資格取得に関する科目」のうち、備考欄に資格専門と記されている科目）は、すべて文化情報学部（星が丘キャンパス）で開講しています。
- ②授業に遅れずに出席できることが履修の条件となります。キャンパス間移動による遅刻は認められません。
- ③星が丘キャンパスへの車通学は禁じられています。日進キャンパスで車通学の許可を得ている場合でも星が丘キャンパスへ車で行くことはできません。

8. 司書資格取得に関する科目（学則別表第8-4）

	図書館法施行規則 第4条に定める科目		単位	本学開講授業科目			備考	
				科目名	単位数			開講 年次
					必修	選択		
司書 資格 取得 に 関 す る 科 目	22 単 位 必 修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2		2	資格専門
		図書館概論	2	図書館概論	2		2	資格専門
		図書館制度・経営論	2	生涯学習各論	2		3	資格専門
		図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2		2	資格専門
		図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2		2	資格専門
		情報サービス論	2	情報サービス論	2		2	資格専門
		児童サービス論	2	読書と豊かな人間性	2		3	資格専門
		情報サービス演習	2	情報サービス演習A	1		2	資格専門
				情報サービス演習B	1			
		図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2		2	資格専門
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2		2	資格専門	
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習A	1		2	資格専門	
			情報資源組織演習B	1				
	2 科 目 2 単 位 以 上 必 修	図書館基礎特論	1	学校経営と学校図書館		2	3	資格専門
図書館サービス特論		1	学習指導と学校図書館		2	3	資格専門	
図書館情報資源特論		1	デジタルアーカイブ論		2	2	資格専門	
図書・図書館史		1	図書・図書館史特論		2	2	資格専門	
図書館施設論		1	図書館施設演習		1	2	資格専門	
図書館総合演習		1	—	—	—	—		
図書館実習		1	—	—	—	—		

(2013年度以降入学生適用)

1. 司書教諭資格とは

「司書教諭」は、学校図書館法によって規定されている学校図書館の専門職員です。図書館法で定められた司書とは、資格要件も職務の内容も大きく異なっています。端的に言えば、司書教諭は教諭として教育の一端を担います。

学校図書館が学校に設置される目的は、学校図書館法によれば二つあります。一つめは「学校の教育課程の展開に寄与する」ことです。児童・生徒は総合的な学習で「世界の食糧問題」について研究したり、世界史で「ローマ帝国」について学んだりします。現代の学校では、探究型の様々な学習が展開されますが、その成否は学校図書館がどれだけ充実しているかにかかっています。司書教諭は学習センターとしての学校図書館を整備し、教育活動に参画します。

二つめは「児童または生徒の健全な教養を育成する」ことです。子どもの読書離れが深刻化する今日のマルチメディア社会では、読書の意義が再認識されていますが、日々の学校生活の中で、もっとも身近な読書環境である学校図書館の果たす役割は非常に大きいと言えます。強制的にではなく、児童・生徒がくつろぎ、楽しみながら読書ができるような充実した環境を整えることも司書教諭の重要な仕事です。

なお自治体によっては、教員採用試験の際に、司書教諭資格を有する人は加点されることがあります。

2. 司書教諭資格を取得するには

司書教諭の資格要件は、学校図書館法第5条に「司書教諭は教諭をもって充てる。この場合において、当該教諭は、司書教諭の講習を修了した者でなければならない」と定められています。すなわち、司書教諭資格には教員免許の取得が前提になりますので、司書教諭資格を取得したい人は、必ず教職課程を履修し、さらに司書教諭に関する科目を履修することになります。

履修すべき科目、単位、その他必要な事項は、学校図書館法施行規則によって定められています。これらの規則に基づき、本学では、学則別表第8-6に掲げられた所定の科目を開講していますので、これらの単位をすべて修得してください。

3. 司書教諭資格の修了証書の

司書教諭資格の修了証書は、卒業年の翌年3月に、文部科学省から交付されます。この交付を受けるためには、卒業後の6月に、各自が書類申請しなければなりません。申請方法については、4年次に説明会を実施します。

修了証書の交付が卒業後になるため、在学中に作成する履歴書等に資格を記載したいときは「学校図書館司書教諭資格単位修得見込み」と記載してください。

4. 司書教諭になるには

1997年に学校図書館法が改正され、2003年4月より、一定規模以上の学校には司書教諭を置くことが義務づけられました。卒業後に司書教諭として働くには、おもに自治体の教員採用試験を受け、合格する必要があります。合格後は教育委員会による教員配置計画のなかで、司書教諭になるかどうかが決まります。私立学校の場合は別のルートになります。

5. ガイダンス 1年次10月下旬（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、原則として履修できません。
6. 編入学生の司書教諭課程履修について 他大学または短期大学からの3年次編入学生で、司書教諭課程の履修を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。
7. 注意事項
- ①資格専門科目（「8. 司書教諭資格取得に関する科目」のうち、備考欄に資格専門と記されている科目）は、すべて文化情報学部（星が丘キャンパス）で開講しています。
 - ②授業に遅れずに出席できることが履修の条件となります。キャンパス間移動による遅刻は認められません。
 - ③星が丘キャンパスへの車通学は禁じられています。日進キャンパスで車通学の許可を得ている場合でも星が丘キャンパスへ車で行くことはできません。
8. 司書教諭資格取得に関する科目（学則別表第8-6）

司書教諭資格取得に関する科目	学校図書館司書教諭講習規程の科目	単位	本学開講授業科目			備考
			科目名	単位数	開講年次	
				必修		
	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	3	資格専門
	学校図書館メディアの構成	2	情報資源組織論	2	2	資格専門
			図書館情報資源概論	2	2	資格専門
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	3	資格専門
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	3	資格専門
	情報メディアの活用	2	メディア・リテラシー	2	2	資格専門

（2011年度以降入学生適用）

1. 留学生対象科目とは

留学生対象科目（次ページ参照）は、すべて星が丘キャンパスの国際交流センターで開講されます。国際交流センターでは、一年間で日本語検定試験のN1に合格することを目標設定してカリキュラムが運営されますので、日本語運用能力の向上を目指して、一年次に集中して受講していただきます。留学生対象科目は少人数での授業で、交換留学生も受講しています。

人間関係学部の留学生は、一年生に配当される授業科目の必修科目のうち、以下の各学科の科目以外は、留学生対象科目を優先して履修してください。

人間関係学科：「ファーストイヤーゼミ」、「人間論」

心理学科：「ファーストイヤーゼミ」、「人間論」、「心理学概論」、「心理学研究法」

2. 「日本語」科目について

留学生が、日本語を習得するために開講されている科目です。留学生にとって英語・ドイツ語・フランス語を履修することは、母語でない日本語を介して、他の言語を学ぶことになるため、二重の困難をしいることになります。そのため、留学生は、教養教育科目の領域5「言語とコミュニケーション」の「外国語」として「日本語」を履修してください。

3. 留学生の履修単位について

人間関係学部の留学生は、1学年のうちにN1合格を目標としますが、卒論作成にまでいたる実質的な日本語運用能力を持つためには、日本語に関する授業科目を多く履修することが必要です。まず、「日本語」(pre-advanced) (Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ) 4科目4単位を履修してください。

「日本語」4科目4単位のうち、4科目4単位が教養教育の領域5「言語とコミュニケーション」の単位を履修したものとみなされ、他の「日本語」を履修した場合は自由選択科目を履修したものとみなされます。人間関係学部としては日本語運用能力向上のためできるだけ多くの「日本語」科目を履修することを推奨します。

教養教育科目については、両キャンパスどちらの科目履修でも登録の上単位認定されます。この点は、履修の手引のほか、詳しくは担当者から話を聞いてください。

また、すでに触れたように留学生対象科目の授業は星が丘キャンパスにおいて行われます。両キャンパス間は、20分のスクールバスによる移動時間を必要としています。したがって、両キャンパスでの履修のためには前後それぞれ1時限分の余裕をみておく必要があります。移動時間を考慮しない履修登録は認められませんので注意してください。

授業科目	単位数	必修	学年配当	備考
日本語Ⅰ	1		1・2・3・4	
日本語Ⅱ	1		1・2・3・4	
日本語Ⅲ	1		1・2・3・4	
日本語Ⅳ	1		1・2・3・4	
日本語Ⅴ	1		1・2・3・4	
日本語Ⅵ	1	1	1・2・3・4	4単位必修 (教養教育科目領域5を履修したものとみなす)
日本語Ⅶ	1	1	1・2・3・4	
日本語Ⅷ	1	1	1・2・3・4	
日本語Ⅸ	1	1	1・2・3・4	

星が丘キャンパス

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17番3号
TEL(052)781-1186(代) FAX(052)781-7030

- 生活科学部
- 国際コミュニケーション学部
- 文化情報学部
- 現代マネジメント学部
- 教育学部
- 看護学部

日進キャンパス

〒470-0136 愛知県日進市竹の山3丁目2005番地
TEL(0561)74-1186(代) FAX(0561)73-4443

- 人間関係学部
-